

グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成
—女性の役割を見据えた知の国際連携—

令和 3（2021）年度 実施報告書

2022 年 3 月

お茶の水女子大学グローバル協力センター

はじめに

本報告書は「グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成—女性の役割を見据えた知の国際連携—」事業とその他の資金による令和3(2021)年度のグローバル協力センターの活動実績を取りまとめたものです。

グローバル協力センターは、国際協力・平和構築を中心とした国際的な課題に関する教育研究とこれらを通じた女性リーダーの育成、開発途上国の女子教育・幼児教育に関する支援を2つの柱として、開発途上国や国際協力の現場から学ぶ科目、大学院生の海外調査支援、他大学と連携したワークショップ、シンポジウム・公開講演会、幼児教育分野の人材育成のための研修等に取り組んでいます。また、「共に生きる」スタディグループを通じた、学生による自主活動を展開してきています。

本学は、2002年からアフガニスタン女子教育支援に取り組んできており、昨年の同国政変後も絵本・図書館活動支援の実施等を継続しています。

また、国際社会において議論・実践が進んでいる「持続可能な開発のための2030アジェンダ・持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」を重視し、2017年度から学内連続公開講座を開催しています。今年度も、難民問題、外国人労働問題、再生可能エネルギー、インフラ整備等時宜を得たテーマでセミナーを開催しました。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の活動が中止あるいはオンライン対応を余儀なくされる等制約も多々ありましたが、新体制の下、「NPO入門」や大学間連携イベントの再開、また「2021年度NPO活動紹介セミナー」、「2021年度ブータン連続セミナー」等新たな試みに取り組んで参ったところです。

現下の厳しい状況においても、上記の通り相応の成果を上げることができた点につき、本事業の実施にご支援、ご協力を賜りました学内外の関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。今後もこれまでの活動で得た平和構築と開発途上国の社会経済開発のためのネットワークと人材育成にかかわる知見や成果を活用してさらなる知の集積・発信と教育研究に取り組んでいきたいと存じます。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

2022年3月

国立大学法人お茶の水女子大学
グローバル協力センター長 デ アウカンタラ マルセロ

グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成
—女性の役割を見据えた知の国際連携—

令和 3（2021）年度 実施報告書
目次

はじめに

I. 事業の概要	1
II. 令和 3（2021）年度の活動	5
1. 活動の概要	7
2. 各活動の概要	7
III. 国際的な課題に関する教育・研究、 これらを通じた同課題に取り組む女性リーダーの育成	11
1. センター教員担当科目	13
1. 1 平和と共生演習・「平和と共生」実践演習	13
1. 2 国際協力特論	14
1. 3 NPO 入門	18
1. 4 COIL 授業	19
2. グローバル協力センター主催セミナー	23
2. 1 持続可能な開発目標（SDGs）セミナー	23
2. 2 2021 年度 NPO 活動紹介セミナー	33
2. 3 2021 年度ブータン連続セミナー	47
2. 4 「国際共生社会論実習・同フィールド実習」スタディツアー座談会	65
3. 途上国研究・国際協力分野海外調査支援	67
4. 大学間連携イベント	69
4. 1 2021 年度第 9 回 NPO 活動紹介セミナー	69
4. 2 第 14 回・第 16 回・第 17 回持続可能な開発目標（SDGs）セミナー	69
4. 3 「難民アシスタント養成講座 42 期」参加者意見交換会	69
4. 4 国際協力ボランティアを知ろう@オンライン	70
5. 「共に生きる」スタディグループの活動	72
5. 1 「共に生きる」スタディグループ説明会の実施	72
5. 2 学生自主活動の支援	72
5. 3 難民アシスタント養成講座 42 期への参加支援	74
5. 4 OCHANAN 説明会の実施	81

IV. 開発途上国の女子教育・幼児教育に関する支援事業	
(教育・研究成果の国際社会への還元)	83
1. アフガニスタン国未来への架け橋・中核人材プロジェクト	85
2. アフガニスタンへの絵本寄贈.....	85
3. 乳幼児ケアと就学前教育研修.....	87
4. 「JASIS 2021」留学生特別企画展への参加支援.....	89
V. その他.....	91
1. 図書貸出状況	93
2. 情報発信	94
3. 各種イベント・案内のポスター	95

I．事業の概要

【事業名】

「グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成
—女性の役割を見据えた知の国際連携—」

【事業期間】

平成 22（2010）年度から令和 3（2021）年度

平成 22（2010）年度に文部科学省特別経費事業として 4 年計画で開始し、平成 23（2011）年度から大学一般経費事業に組み替え継続。

【概要】

グローバル社会における平和構築を目指して、先進国及び開発途上国の大学等との国際的ネットワークを創成する。このネットワークは、女性の役割を見据えた知的国際連携であり、先進国と開発途上国の大学等が共同して、開発途上国、特にアフガニスタンをはじめとするポスト・コンフリクト国・地域における女性と子どもへの支援の調査・研究と支援活動を行うとともに、ネットワークに基づく教育（人材育成）の実践の場とする。

【事業実施主体】

国際本部グローバル協力センター

【目的・目標】

本事業は、現代のグローバル社会における最重要課題である開発途上国、特にアフガニスタンをはじめとするポスト・コンフリクト国・地域における女性と子どもへの支援を目指した、知的国際連携による教育・研究・社会貢献を目的とするものである。

ポスト・コンフリクト国・地域を含む開発途上国では、女性は経済的・社会的弱者であり、中等・高等教育を受けることが非常に難しいのが現状である。お茶の水女子大学は、大学の基本的な目標として「すべての女性がその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障され、自由に自己の資質能力を開発し、知的欲求の促すままに自己自身の学びを深化させること」を掲げている。さらに世界の女子大学の多くもまた、「自らの知見を世界の平和のために使う」ことを建学の精神としている。本事業では、こうした世界の女子大学が持つ建学の理念を実現するために、女子大学がひとつになって平和を築くための活動を行うことを目的とする。

本事業の取り組みは、お茶の水女子大学が拠点となり、日本及び世界の女子大学とネットワーク（フォーラム）を形成し、大学の構成員（教職員、学生・大学院生、卒業生の組織）による大きなネットワークによって開発途上国の女性と子どもへの支援、紛争によって傷ついた女性と子どもへのサポートを行うものである。また、こうした活動は、大学の使命で

ある教育・研究・社会貢献を活性化し、この分野の人材育成活動に資することが考えられる。

本事業を通じて、大学間国際連携に基づくグローバル社会における平和構築の知的ネットワークの形成と、これに基づく教育・研究活動システムの創成を目指す。

【グローバル協力センター 2021 年度構成メンバー】

職名	氏名
センター長／准教授	デ アウカンタラ マルセロ
副センター長／特任教授	小中 鉄雄
講師	平山 雄大
センター員／教授	須藤 紀子
センター員／教授	浜野 隆
センター員／教授	森 義仁
センター員／教授	由良 敬
センター員／准教授	荒木 美奈子
アカデミック・アシスタント	上中 佐江子
アカデミック・アシスタント	駒田 千晶

II. 令和 3（2021）年度の活動

1. 活動の概要

グローバル協力センターは、国際的な課題に関する教育研究とこれらを通じた女性リーダーの育成、開発途上国の女子教育・幼児教育に関する支援を2つの柱としてきている。しかしながら今年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延の影響を受け、2020年度に引き続き1つ目の柱のひとつとして想定していた「国際共生社会論実習」・「国際共生社会論フィールド実習」（開発途上国スタディツアー）は実施に至らなかった。また、2つ目の柱として想定していたアフリカ・中東向け「乳幼児ケアと就学前研修」については、オンライン対応を含め実施に至ったが、アフガニスタン女性教員等短期研修については8月に発生した政変によって実施に至らなかった。その他、奈良女子大学との大学間連携イベントについてもオンライン対応で実施し学生間交流の場を提供した。

本学は、2002年からアフガニスタン女子教育支援に取り組んできているが、今年度も野々山基金を活用した絵本・図書館活動支援を実施し、継続的なアフガニスタン女子教育支援を行った。

また、国際社会において議論・実践が進んでいる「持続可能な開発のための2030アジェンダ・持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を取り上げ、2017年度から学内連続公開講座を開催している。今年度は計8回有識者を招聘し、幅広いテーマでセミナーを開催した。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け「NPOインターンシップ（実習）」が開講できなかったことから、NPO活動に興味・関心のある学生をエンパワーメントし、学生自身のインターンシップ・ボランティア実践や社会貢献活動に繋げることを目的として「2021年度NPO活動紹介セミナー」を計10回開催した。この他に、日本ブータン研究所との共催という形式で地域開発型セミナー「2021年度ブータン連続セミナー」を計10回開催した。

2. 各活動の概要

（1）国際的な課題に関する教育・研究

- 1) 全学共通科目「平和と共生演習」・「「平和と共生」実践演習」において、プレゼンテーションや議論を通じて、貧困・格差、食糧、平和構築、難民、保健等の開発課題について理解し、現場の視点で考える機会を提供した。
- 2) グローバル文化学環設置科目「国際協力特論」において、講義や議論を通じて、開発途上国の社会経済の問題と国際協力について、自治体・企業・NGOとの連携の具体例を紹介しつつ考察を深めた。10月にはアクティブ・ラーニング・アワー（ALH）として、市ヶ谷にあるJICA地球ひろばを訪問した。開発途上国の現場で活躍する専門家やボランティア経験者から、直接話を聞く機会も積極的に設けた。

- 3) 全学共通科目「NPO 入門」において、NPO を通して現代の社会問題を知り、その解決の方向性を探った。NPO を巡る諸相を多角的に取り上げると同時に、NPO で活躍するかたをゲスト講師として招き、お話を伺う機会を設けた。また、現代の社会問題とその対応策についてグループワークを行い、発表を行った。
- 4) グローバル文化学環設置科目「国際協力特論」内で行った日越大学とのオンライン共同国際学習（Collaborative Online International Learning: COIL）授業を通じて、コロナ禍のもとでの教育についてベトナムの学生と議論を深めた。
- 5) 「持続可能な開発目標（SDGs）セミナー」を、計 8 回（第 11 回～第 18 回）開催した。各回のテーマは、日本の難民支援の現状・課題、インフラ整備、企業による社会貢献、自治体と国際協力等多岐に渡った。
- 6) 「2021 年度 NPO 活動紹介セミナー」（全 10 回）を通じて、NPO 活動に興味・関心のある学生をエンパワーメントし、学生自身のインターンシップ・ボランティア実践や社会貢献活動に繋げる機会を提供した。同セミナーは、小グループでのディスカッションを組み込む等して、双方向性を確保することに努めた。
- 7) 「2021 年度ブータン連続セミナー」（全 10 回）を通じて、参加者とともにブータンの開発政策や国・地域の在りかたを考えた。毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、映像作品の視聴、発表者（コメンテーター）からの簡単な解説、質疑応答という流れで実施した。
- 8) 「国際共生社会論実習・同フィールド実習」スタディツアー座談会を実施し、2019 年度にネパール及びカンボジアスタディツアーに参加した学生と、スタディツアーに関心のある学生との交流を行った。
- 9) 途上国研究・国際協力分野海外調査支援では、「日中若年層の家事労働における性役割意識とライフスタイルの比較研究—家事労働を左右する諸条件を中心に—」、「市民社会の視点から見たミャンマーの経済特区における日本の ODA 政策と中国の「一帯一路」構想の実践に対する比較について」の 2 件の海外調査を採択し、支援を行った。「フランス在住継承日本語学習児へ向けたオンライン日本語クラス実践のための現地教育機関実態調査及び調査対象児・保護者を対象としたニーズ・レディネス調査」1 件については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、次年度に実施することとなった。

1 0) 大学間連携イベントとして、「2021 年度第 9 回 NPO 活動紹介セミナー」において、STUDY FOR TWO お茶の水女子大学支部と奈良女子大学支部の交流の機会を設けた。また、認定 NPO 法人難民支援協会主催「難民アシスタント養成講座 42 期」への参加を支援し、受講後に参加者間の意見交換会の場を提供した。この他に、「国際協力ボランティアを知ろう@オンライン」を開催し、本学及び奈良女子大学生に国際協力ボランティアの意義、活動を行ううえでの異文化理解・他者理解の重要性等に関して考える機会を提供した。

1 1) 「共に生きる」スタディグループを通じて、学生の自主活動を支援した。

(2) 開発途上国の女子教育・幼児教育に関する支援事業

- 1) JICA「アフガニスタン国未来への架け橋・中核人材プロジェクト」による 2 名の研修員の受け入れを行った。
- 2) 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会との連携を通して、アフガニスタンにおける絵本作成配布・図書館事業を支援した。
- 3) 乳幼児の保護と教育の観点から、国際的にニーズが高まっている幼児教育分野の人材育成のため、アフリカ・中東 5 カ国の行政官、視学官、指導主事等を対象に「乳幼児ケアと就学前教育研修」(JICA 課題別研修) をオンラインで実施した。
- 4) グローバル協力センターの支援のもと、一般社団法人日本分析機器工業会、一般社団法人日本科学機器協会主催「JASIS (最先端科学・分析システム&ソリューション展) 2021」の留学生企画にアフガニスタン人留学生 2 名が参加した。

III. 国際的な課題に関する教育・研究、
これらを通じた同課題に取り組む
女性リーダーの育成

1. センター教員担当科目

1.1 平和と共生演習・「平和と共生」実践演習

2015年9月の国連総会で、今後の国際社会、また開発途上国、先進国を含む各国の社会の方向性を考えるためのマイルストーンである「持続可能な開発のための2030アジェンダ・持続可能な開発目標（SDGs）」が採択された。SDGsは、「貧困の撲滅」を中心的な課題に据え、「飢饉の終焉」「健康な生活」「包摂的かつ質の高い教育」「ジェンダー平等」「各国内及び各国間の不平等の是正」「平和で包摂的な社会」等17の目標を掲げている。

本科目では、SDGsが取り上げるテーマについて、現場の状況を理解するための文献・資料を取り上げ、それぞれのテーマがどのように捉えられているのか、また、それぞれのテーマ同士がどう関係しているのかについて議論を通じて考察を深めた。また、国際協力活動を含め、どのような対応が可能なのかについても、ケーススタディを通じて議論を行った。特に現場の視点を持って考えることを重視し、以下の通り現場の声を聞く機会も設けた。

【ゲスト講師による講義 概要】

テーマ：「節目を迎えるアフガニスタン紛争—米軍撤退と今後の展望—」

日 時：2021年5月18日（火） 13:20～14:50

講 師：青木健太 氏（公益財団法人中東調査会研究員）



青木氏による講義



講義の様子

テーマ：「日本の難民支援の現状と課題、入管法改正も踏まえて」

日 時：2021年5月25日（火） 13:20～14:50

講 師：赤坂むつみ 氏（認定NPO 法人難民支援協会渉外チーフマネージャー）

＊第11回持続可能な開発目標（SDGs）セミナーとして実施。

テーマ：「茨城県における外国人材の受入れ促進に向けた取組等について」

日 時：2021 年 6 月 29 日（火） 13:20～14:50

講 師：高野弘毅氏（茨城県産業戦略部労働政策課雇用促進対策室主任）

＊第 12 回持続可能な開発目標（SDGs）セミナーとして実施。

テーマ：「ソフトバンクグループ

ー自然エネルギー事業および気候変動対策への取組についてー」

日 時：2021 年 7 月 13 日（火） 13:20～14:50

講 師：守屋伸祐 氏（SB エナジー（株）Chief Strategy Officer／戦略事業本部本部長）

奥朝子 氏（SB エナジー（株）Chief Business Officer／電力事業本部本部長）

＊第 13 回持続可能な開発目標（SDGs）セミナーとして実施。

※第 11 回・第 12 回・第 13 回持続可能な開発目標（SDGs）セミナーの内容については、

2. 1 持続可能な開発目標(SDGs)セミナー（p.23～）を参照。

1. 2 国際協力特論

現在、貧困や格差の問題は、開発途上国にとどまらず先進国も含めた世界的な課題となっている。本科目では、貧困・格差等国际協力上の開発課題や新たな援助体制・協力手法を総論として取り上げつつ、中国、ベトナム等の個別国・地域の事例、さらには自治体、民間企業、NGO 等多様なパートナーとの連携の在り方について理解を深め、全体を俯瞰する視座が養われるよう試みた。これらの課題についての開発途上国に関するいくつかの文献を取り上げ、講義、文献講読、プレゼンテーション、議論を通じて、開発途上国の直面する開発課題について理解を深めるとともに、日本の問題とも共通する、その背景や構造的な要因にも目を向けた。また可能な限り、政府施策や ODA プロジェクト等の事例を紹介することで、理論と実務双方の検討、相互関係の考察を試みた。ゲスト講師による多角的な情報と考察も、現場に根差した理解に繋がったものとする。

また、10 月にはアクティブ・ラーニング・アワー（ALH）として、市ヶ谷にある JICA 地球ひろばを訪問した。開発途上国の現場で活躍する専門家やボランティア経験者から、直接話を聞く機会も積極的に設けた。

【ゲスト講師による講義 概要】

テーマ：「SDGs 時代のインフラ整備ー東南アジアでの事例を踏まえてー」

日 時：2021 年 11 月 8 日（月） 13:20～14:50

講 師：河浪秀次 氏（日本工営株式会社コンサルティング事業統括本部技師長
（東南アジア担当））

＊第 14 回持続可能な開発目標（SDGs）セミナーとして実施。

テーマ：「対中 ODA と中国―近年の対外政策動向も踏まえて―」

日 時：2021 年 11 月 22 日（月） 13:20～14:50

講 師：佐々木美穂 氏（JICA 中国事務所長）

テーマ：「東南アジアで咲く道の駅―自治体と国際協力・SDGs―」

日 時：2021 年 12 月 6 日（月） 13:20～14:50

講 師：加藤文男 氏（株式会社ちば南房総代表取締役副社長）

＊第 15 回持続可能な開発目標（SDGs）セミナーとして実施。

テーマ：「民間企業と SDGs：住友化学の事業を通じた社会への貢献
―化学の力でサステナブルな未来を―」

日 時：2021 年 12 月 13 日（月） 13:20～14:50

講 師：山本恭子 氏（住友化学サステナビリティ推進部主席部員）

＊第 16 回持続可能な開発目標（SDGs）セミナーとして実施。

テーマ：「国際協力事業のサステナビリティを考える―ミャンマーでの事例を踏まえて―」

日 時：2021 年 12 月 20（月） 13:20～14:50

講 師：菊池淳子 氏（日本工営株式会社環境技術部 SDGs&CSR 戦略ユニット長）

＊第 17 回持続可能な開発目標（SDGs）セミナーとして実施。

テーマ：「グローバル課題を市民のチカラで解決する―NGO だからできること―」

日 時：2022 年 1 月 17 日（月） 13:20～14:50

講 師：木内真理子 氏（国際 NGO ワールド・ビジョン・ジャパン理事・事務局長）

＊第 18 回持続可能な開発目標（SDGs）セミナーとして実施。

※第 14 回・第 15 回・第 16 回・第 17 回・第 18 回持続可能な開発目標（SDGs）セミナーの内容については、**2. 1 持続可能な開発目標(SDGs)セミナー**（p.23～）を参照。

【ゲスト講師による講義 履修生による実施報告】

「「国際協力特論」に JICA 中国事務所長の佐々木美穂氏が登壇」

2021 年 11 月 22 日、「国際協力特論」の授業「対中 ODA と中国―近年の対外政策動向も踏まえて―」では、本学 OG でもある JICA 中国事務所 佐々木美穂所長をお迎えし、中国の発展と対中 ODA を中心に、中国について幅広くお話いただきました。

佐々木講師のご説明により、1980 年代から現在までその時々ニーズや課題に応じて行われてきた対中 ODA の流れをつかむことが出来ました。この ODA の成果である「人的交

流の促進」によって築かれた人間関係が、ODA が終了した後も日中関係にプラスの影響を及ぼしてくれるのではないかと思います。

中国の「一带一路」や「ワクチン外交」といった最近の対外政策動向についてもご説明いただきましたが、中でも印象に残っているのは「話語圏」と中国の「対外貸付」についてです。佐々木講師は「話語圏」という言葉の基礎には「中国が国際世論をリードし、ナラティブが欧米発であるということを変えていきたい。」という考えがあるとお話されていました。確かに欧米のナラティブによってのみ支配されるという状況への抵抗はあってしかるべきだと思いますが、「国際世論をリードし」の部分や「一带一路」の思想からは中国が世界を経済でも思想でも支配していくといったような深謀遠慮も感じられ、それは果たして許容されるものなのかと疑問に思いました。



対中 ODA の主な成果

中国の「対外貸付」は日本や欧米とは異なり、貸付を行うまでの過程が簡略化されているため、実行までのスピードが速く、途上国によっては重宝されることもあるそうです。しかしながら、途上国の抱える対中債務の過剰さや返済できなかったときのリスクなどを考えると、「何を得て何を失うのか」もう一度問い直す必要があるはずだと思います。

最後に日本のメディアの中国に対する報道の仕方についてもお話を伺いましたが、印象操作という意図的なものではないにせよ、メディアの利益構造から日本では中国の良いことが報道されにくいということを知りました。私たち人間はネガティブな情報の方が印象に残りやすいため（ネガティビティ・バイアス）、メディアからの情報をいわゆるハーバーマスの「順応の気構え」（注）で受け取るのではなくて、自ら良い情報や信頼できる情報源にアクセスできるようにならなければと思いました。

（注）池上彰・佐藤優（2020）『宗教の現在地 資本主義、暴力、生命、国家』KADOKAWA。

（生活科学部人間生活学科 2 年 落田瑞生）

【ALH 概要】

テーマ：JICA 概要、SDGs、体験談

日 時：2021 年 10 月 25 日（月） 13:20～14:50

場 所：JICA 地球ひろば

講 師：篠木伊貴 氏（元 JICA 海外協力隊／エチオピア・卓球）

【ALH 実施報告】

「国際協力特論」受講生が JICA 地球ひろば（市ヶ谷）を訪問

10月25日(月)、「国際協力特論」のアクティブ・ラーニング・アワー(ALH)として、受講生等15名が市ヶ谷にあるJICA地球ひろばを訪問しました。

今回は、エチオピアに卓球指導の海外協力隊として派遣経験のある地球案内人の篠木氏より1時間ほど、世界と日本の関係、SDGsの概要、そしてエチオピアでの生活等につきご講演頂きました。エチオピアでの活動については、豊富な写真・ビデオを活用してわかりやすくご説明頂き、学生も首都と農村の格差、気候変動がアフリカ社会に及ぼす影響、現地の食事情、栄養・施設面での卓球選手育成環境の厳しさ等につき新たな学びと認識を得た様子で、活発な質疑応答も行われました。

上記講義の前後で、地球ひろば1階の展示コーナーの視察も行われました。この時期のテーマは「人間の安全保障」で、同概念を提唱した緒方貞子さんのノート、途上国の教室や地雷のレプリカ、企業が開発したマラリア対策の蚊帳の実物、クイズ等、様々な工夫がこらされており、「見て」「さわって」開発途上国、国際協力の実情を感じとることができたのではないかと思います。

同施設内にあるカフェでは、TABLE FOR TWOプログラム(注)の下で途上国料理も提供されており、当日はマダガスカルの「キモ」というスパイシーな料理を楽しんだ学生もいたようです。

実施後のアンケートでも、「講演で自身のステレオタイプなアフリカ観が変わった」「展示施設は時間が経つのも忘れるほどで、楽しみながら学べた」「海外協力隊の活動に関心をもった。帰国後の活動等をもっと知りたい」「今後はカフェでの食事を楽しみたいので再訪したい」といった意見が寄せられました。

JICA地球ひろばは、展示内容、提供料理も定期的に変化しており、基本的に予約なしで往訪できますので、皆さんも是非参加・再訪してみてもはいかがでしょうか。

(注) 世界が抱える肥満と飢餓の同時解決を目指し、ヘルシーメニューを推奨しながら発展途上国の学校給食を支援するプログラム。



篠木氏による講演



マダガスカルの料理「キモ」

1.3 NPO 入門

全学共通科目「NPO 入門」において、①NPO の活動理念や特徴を知り、その存在が社会に与えている影響を理解すること、②NPO の役割やその背景に潜む社会問題について、自らの考えを自分自身の言葉で述べるができるようになること、③NPO による社会問題解決の方法を、グループワーク（事業計画書の作成）を通して学び、提案力、行動力を身につけること、④授業で学び得た知識を、履修生自身の実践や社会貢献活動に繋げることを到達目標に、全 13 回の授業を行った。NPO の定義と全体像、海外と国内における NPO の位置づけ、NPO の行政・企業との協働等 NPO を巡る諸相を多角的に取り上げると同時に、ゲスト講師をお招きし、お話を伺う機会を設けた。また、現代の社会問題と対応策についてグループワークを行い、架空の NPO の事業計画に関する発表を行った。

【ゲスト講師による講義 概要】

テーマ：「日本の教育問題と NPO カタリバ／アダチベースの取り組み」

日 時：2021 年 6 月 21 日（月） 13:20～14:50

講 師：柳本千種 氏（認定 NPO 法人カタリバ職員）

*2021 年度第 1 回 NPO 活動紹介セミナーとして実施。

※2021 年度第 1 回 NPO 活動紹介セミナーの内容については、**2.2 2021 年度 NPO 活動紹介セミナー**（p.33～）を参照。

【ゲスト講師による講義 履修生からの感想（抜粋）】

- ・ アダチベースの活動は、私が将来関わりたいような内容で、本当に素敵だと思いました。家庭が不安定という状況の中で、子どもはどのように勉強をして、どのように友だちを作って、どのように「自由」がある人生を生きていけるのか。この課題でたくさんの方が心を痛めているのかと思います。また、今回の発表者の方も自分の苦しみから他者を助ける力を覚え、それを生かしているのがすごく伝わりました。私もそのような大人になりたいと強く感じました。
- ・ 今日のセミナーに参加し、実際に NPO の活動に参加している方のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。活動内容もとても興味深かったのですが、それ以上に、柳本千種先生の考え方やお人柄にとっても刺激を受けました。私は現在、将来自分が何をしたいのか、何になりたいのか、まだはっきりわかりません。そのことが原因で悩むこともたまにあります。しかし、今日の先生のお話から、焦って自分の道を探そうとしなくても、じっくりと様々な経験を重ねながら向き合っていけば良いのだと少し気持ちが楽になった気がします。普段、子どもたちの斜めの存在として活躍していらっしゃる先生だからこそ、私もお話を聞いただけで安心できたのかもしれない。
- ・ 子供の貧困について詳しく触れたことがなかったため、今この日本で起きていることで

あるにも関わらず何も知らないと改めて実感し、今回の取り組みに関する説明はリアルな声が聞ける貴重な機会でした。私はやはり居場所づくりというものの重要性を強く感じました。私も小さい頃から両親は共働きで孤食が多く私自身は特に気にしたことがありませんでしたが、やはり小さい頃は自分の居場所と思える安心できる空間が必要だと今になって強く思います。

- 日本の貧困率が7人に1人という話は最近よく耳にするようになったり、先日一人親世帯のNPO団体を発足した方とお話する機会があったりと、とても気になっている話題だったので今回のお話はとても興味深いものばかりでした。まず、一人親世帯は二人に一人の割合でいることにとても驚きました。私自身、今までは一人親世帯の家庭と関わることが少なく、あまり深く考えたことがなかったのでこれほど多くの割合であることは少し予想外でした。しかし、だからこそ一人親世帯のことについてもっと興味を持って知ろうとしていかなければならないのではないかと思います。
- キャリアについてのお話は、今少し進路を悩んでいる私にとって、とても印象的なお話でした。私自身も一つ一つに意味がないといけなくと固く考えてしまいがちで、特に大学に入って個性豊かな同期と出会う中で、もう少し楽観的に物事を捉えられたら少し見えるものが違うのではないかと考えていたところでした。そのため、今回のお話を聞いてもう一度自分の興味を掘り下げ、具体的でなくとも大まかな自分の方向性を探してみたり、もっと楽観的に自分の興味に貪欲になってみたいと思いました。
- 財務のお話も詳しくお聞き出来ました。認定NPO法人ならではの寄付金控除、税額控除の仕組みが収益に貢献していることや、メディアなどでの宣伝が効果的であるため、コネクションづくりが職員の一つの努力でもあるというお話が、具体的かつ的確で大変勉強になりました。
- キャリアコンサルタントのお話でも、自分がまさに就活真ただ中で、人生に失望していたところだったので、すごく勇気づけられました。今自分は特にやりたいこともなく、熱意をもってやれることもない状態で、本当に進路選択で悩んでいました。この授業を受けている他の学生さんはやりたいことやNPOの活動に積極的に参加されていて、すごいと思う反面、何もできていない自分がいるので劣等感もありました。進路に関しても、リラックスして考えて良いという柳本さんの言葉に涙が出てしまい、ゆっくり考えていこうかなと少し緊張や不安がほぐれた気がします。

1.4 COIL 授業

海外の他大学の学生との議論を深めるため、ベトナムの首都ハノイに位置する日越大学（Vietnam Japan University: VJU）とのオンライン共同国際学習（Collaborative Online International Learning: COIL）授業を「国際協力特論」に組み込んで実施した。内容及び成果は以下の通りである。

(1) 内容

パート 1：双方の大学の代表による大学概要紹介・意見交換

パート 2：お茶大生の代表によるコロナ時代の教育問題に関するプレゼンテーション
コロナ禍における教育に関するディスカッション

(2) 成果

日越大学の参加学生は大学院生が多く、香港、ミャンマーからの参加（新型コロナウイルス感染症拡大の影響でベトナムにまだ入国できていない）もあり多様性ある中で開催された。日越大学からの大学概要紹介は一部日本語での流暢な説明もあり、また簡単なベトナム語講習コーナーも組み込まれ、なごやかな雰囲気に進んだ。本学からは、パート 1 で女子大（ベトナムにはまだない）の意義を紹介し、パート 2 ではカンボジアでの事例（スタディツアー等）を含めてプレゼンを行い、日越大学側からも高い評価を得た。本学の参加学生は最低 1 回は発言の機会があるように配慮した。

日越大学との COIL 授業は初めての企画ということもあり、調整に時間を要し、先方の参加学生が直前まで確定せず、グループディスカッションを組み込めなかった等反省点もあったが、参加学生にとっては与えられたテーマに沿って、自分の意見を英語で人に伝わるように話す良い機会となったものとする。

【概要】

日 時：2021 年 11 月 25 日（金） 18:00～19:30（日本時間）

参加大学：日越大学、お茶の水女子大学

開催形式：オンライン（Zoom）

参加者数：28 名

日越大学：山口昌志アドバイザー、学生・院生 11 名

お茶の水女子大学：小中鉄雄特任教授、学生（「国際協力特論」履修生）16 名

JICA ベトナム事務所：石丸所員 1 名

【参加学生による実施報告】

2021 年 11 月 25 日、本学はベトナムの日越大学と COIL 授業を実施しました。授業のテーマはパート 1「両大学の紹介、日本・ベトナムについて聞いてみたいこと」、パート 2「コロナ禍を踏まえた教育問題・教育格差」の二本立てです。JICA ベトナム事務所からの参加もあり、全体で約 30 名での開催となりました。

パート 1 では、本学より足立晴日さんが、女子大の意義を含めて説明され、日越大生からは、大学紹介のみならず簡単なベトナム語講座もあり、良いアイスブレイクになったと思います。

パート 2 におけるプレゼンテーションの発表概要は、「Education Challenge in the Era

of COVID-19」(1.教育 (SDGs4)、2.コロナ禍が教育に与えた世界的影響、3.カンボジアの教育の現状 (一般論／体験談)) です。国際協力特論の授業に関する内容に加えて、コロナ禍以前に本学で実施されたカンボジアスタディツアーに参加した櫻井と、独自にカンボジアの教育支援プロジェクトで活動している太田の経験談を織り交ぜることで、中身の濃い発表となりました。

日越大学の学生さんからのプレゼンテーションは英語だけでなく日本語を交えたものもあり、始まりから笑いの起こる和やかな雰囲気です。授業が進行し、日越大学の皆さんの語学力に圧倒されつつも、本学の学生も楽しく意見を交わすことができました。

パート 1 内のディスカッションでは、日本・ベトナムの国や大学の仕組みや文化について質問し合いました。オンライン授業についての感想や、日越大学には本学における微音祭のような文化祭がないことについてなど、多岐に亘るトピックで意見交換や情報共有が行われました。

パート 2 では、カンボジアを事例に取り上げたプレゼンテーションの後のディスカッションだったことから、日本、ベトナムだけでなくカンボジアの教育についても話し合うこととなりました。SDGs との関連を含め本学からのプレゼンテーションに非常に興味を示していただき、カンボジアの奨学金制度についても議論されました。それぞれの国の小学校のクラス当たりの児童数に議論が及んだ際、ベトナムでは 50 人ほどの児童がいると知り、驚きました。

2つのパートのディスカッションを通して、本学の参加学生は 1 回以上の発言をすることができました。日越大学の皆さんの英語力と積極的な態度に大いに刺激を受けただけでなく、母語でない言語でコミュニケーションを取ることの自信に繋げることができたと思います。

(文教育学部グローバル文化学環 3 年 櫻井那由加／
文教育学部グローバル文化学環 2 年 太田朝弓)

【参加学生からの感想 (抜粋)】

- ・ VJU の学生さん方のホスピタリティにとっても刺激を受けた。日本人は謙虚さ、控えめさによって、国際交流の場で積極的になれない、相手に歓迎している気持ちを伝えられない、としばしば思うが、このような COIL 授業で他国の学生のパワフルさを見ることは、日本人にとって本当に良い刺激になると感じた。
- ・ 世界各国で教育のあり方や課題は急激に変化しており、第三者による支援が重要であると改めて考えました。日越大学のカリキュラム紹介を通して、社会のリーダーを育成するという「人」に焦点を当てた国際協力支援について知ることができました。提携している日本の大学の授業も履修している、という学生の声からは、オンライン化によって人々の可能性が国を越えて広がっていることを実感しました。その一方でどこの国でも経済格差による教育機会の不平等や児童同士のオンライン上のトラブルなど新たな問

題が浮き彫りになってきており、国際協力の支援機関はアクターの一つとして責任をもって対処することが求められていると考えました。

- ・ 海外の学生と交流する機会がなかなか無かったので、合同授業の場はとても貴重な経験でした。また、ベトナムの方々の日本語力、英語力に圧倒され、本当に良い刺激になりました。
- ・ 地球全体の課題として地球温暖化が挙げられると思うが、それ以上にコロナの流行は全世界の人々が同じ課題について考える大きなきっかけになったと思います。今回の授業を通じて、異なる文化や国民性を有する国の人と同じ課題についてお話しすることができとても楽しかったです。
- ・ 他国の同世代の学生や、教育機関とのフォーラムが初めてであったため貴重な体験でした。日本とベトナムの二つを結んだ大学があることを初めて知り、教育内容や双方の関心の度合いなどから世界を見ても稀有な例だと考えています。ベトナムの学生さんは皆日本語がとても流暢で、なおかつ日本に関心を持って生き生きと学習している様子が読み取れました。今まで、日本に対して関心を持ってくれていても全身から交流を楽しんでくれる人との出会いはなかなかなかったため、新鮮に思いました。



本学の学生によるプレゼンテーション



記念撮影

2. グローバル協力センター主催セミナー

2.1 持続可能な開発目標(SDGs)セミナー

本セミナーは、「グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成—女性の役割を見据えた知の国際連携—」事業の一環として 2017 年度より実施しているもので、今年度は以下の通り計 8 回開催した（参加者：合計 196 名）。一部セミナーには、本学微音塾の受講生や奈良女子大学生の参加を得た。また各回の実施報告については、グローバル協力センターのホームページに掲載した。

日本工営株式会社とお茶の水女子大学とは 2021 年 4 月に「SDGs に関する包括的連携協力に係る協定書」(MOU)を締結しており、第 14 回及び第 17 回持続可能な開発目標(SDGs)セミナーは同協定の一環として開催された。

(1) 第 11 回持続可能な開発目標(SDGs)セミナー

【概要】

テーマ：「日本の難民支援の現状と課題、入管法改正も踏まえて」

日 時：2021 年 5 月 25 日（火） 13:20～14:50

講 師：赤阪むつみ 氏（認定 NPO 法人難民支援協会 渉外チームマネージャー）

【参加学生による実施報告】

2021 年 5 月 25 日、第 11 回 SDGs セミナー「日本の難民支援の現状と課題、入管法改正問題も踏まえて」では、特定非営利活動法人難民支援協会 渉外チームマネージャーの赤阪むつみさんをお迎えし、世界の難民状況、日本における難民支援の現状と課題についてお話を伺いました。SDGs では「誰一人とり残さない」を理念に掲げていますが、現在、世界中で紛争や迫害によって故郷を追われた人数は 7,950 万人、全人類の 1%に上がっています。そのような状況下で日本は、難民認定率 0.4%、44 人のみです。本セミナーでは、なぜこのような現状があるのか、私たち日本における「難民を受け入れられない側の問題」を考えていきました。



講師の赤阪むつみ氏

日本での難民申請者は多岐にわたる困難に直面しています。例えば、就労への壁、日本語や文化への不慣れ、医療アクセスの難しさなどがあります。その中でも、大きな障壁が難民認定制度の課題です。(1) 諸外国に比べ約 2 倍の年月（4 年）がかかる難民申請手続きの待機期間、(2) 審査手続きの機関における独立性が担保されていないこと、(3) 審査の不透明性（一次審査の代理人同席不可）、(4) UNHCR と日本での難民条約の解釈の齟齬、(5) 公

的支援援助金の少なさ、など難民認定制度の中にも多くの課題が存在します。私は、より包括的な支援を難民に対して行うことで難民の方の不安を少しでも払拭できるのだと感じました。また、“内向きの支援”だけでなく、大学生や他団体と協力した支援活動・広報活動、難民が求めている改正案作成のための政策提言など、“外向きの支援”も重要であると学びました。

昨今、少子高齢化が進み、外国人労働者が注目されています。そのような中で、多くの健康で有能な難民を多様な側面から活用することができれば、日本の可能性はさらに広がると考えています。本セミナーを通して、包括的な支援と協働することが難民問題解決の糸口となり、日本の発展に寄与するものになるのだと感じました。そのためにも当事者意識をもって、自分ができることを考え行動することの必要性を強く感じました。



オンラインセミナーの様子

(理学部数学科 4 年 足立晴日)

(2) 第 12 回持続可能な開発目標 (SDGs) セミナー

【概要】

テーマ：「茨城県における外国人材の受入れ促進に向けた取組等について」

日 時：2021 年 6 月 29 日（火） 13:20～14:50

講 師：高野弘毅 氏（茨城県産業戦略部労働政策課雇用促進対策室主任）

【参加学生による実施報告】

2021 年 6 月 29 日、第 12 回 SDGs セミナー「茨城県における外国人材の受入れ促進に向けた取り組み等について」では、茨城県産業戦略部労働政策課雇用促進対策室主任の高野弘毅さんをお迎えし、地方自治体での外国人材支援の取り組みについてお話しいただきました。

現在の日本において、人口減少と少子高齢化は全国的に重要な課題となっています。茨城県でも 2000 年から 2015 年の間に人口が約 7 万人減少しており、市町村によっては 2040 年までに 70%以上人口が減少す



講師の高野弘毅氏

ることが予想されています。人口減少と少子高齢化が起こることで、消費活動だけでなく生活関連サービス業の衰退、税収減少によるインフラの劣化、地域コミュニティの崩壊（祭り等の地域行事が開催できない）など、様々な問題が引き起こされます。このような状況を改善するため、茨城県は海外需要に注目しました。

日本とは異なり世界全体やアジアの人口は増加傾向にあります。そこから生まれる海外需要を取り込み、輸出の拡大や海外進出、訪日外国人によるインバウンド消費の拡大を図ることが問題解決のために必要だと考えられています。そのため、茨城県では対日投資セミナーでの知事トップセールスや海外での試食販売、観光パンフレット作成などを行い、海外へのプロモーションを進めています。

また、茨城県では労働力不足解決のため外国人材受け入れ促進のための活動を行っています。茨城県の現在の外国人労働者は3万9,479人で、コロナ禍でも増加しています。隔離措置や個別での移動の負担を負ってでも受け入れる必要があり、高野さんの「外国人材なしには成り立たない社会構造」という言葉から日本の労働力不足問題の深刻さを感じました。



オンラインセミナーの様子

平成31年に創設された茨城県外国人材支援センターでは、県内企業に向けて外国人雇用セミナーや受入れ準備のための研修、県内企業に就職希望の外国人に向けた無料相談会や日本語教育支援を開催しています。また、ベトナム、インドネシア、ミャンマー、モンゴルと連携し、各国の政府機関や教育機関、JICAと締結した協力覚書に基づいて就職マッチングも行っています。

ベトナム・ロンアン省において育成した介護技能実習生を県内介護施設が受け入れる「茨城県コース」は、県内における介護従事者の不足解消だけでなく、県内での実習を通して高齢化先進国における日本の介護ノウハウを学んでもらうことも狙いとしています。そのため、技能実習修了後も、「特定技能（介護）」や「介護福祉士」などの資格取得をサポートし、茨城県やロンアン省における介護産業を支える人材を育成するプログラムとなっています。

外国人材受入れに反対する意見も少なからず見受けられますが、今回のセミナーを通して私は、「受け入れる／受け入れない」よりも「どのように受け入れるか」の議論をより活発に行っていくべきだと感じました。外国人材が必要不可欠な日本は外国人材を選ぶだけでなく選ばれる立場なのだという視点を持つことで、行政や企業、地域住民が外国人材とどう向き合うかが変わるのではないのでしょうか。

（文教育学部言語文化学科グローバル文化学環3年 廣田華子）

（3）第13回持続可能な開発目標（SDGs）セミナー

【概要】

テーマ：「ソフトバンクグループ

ー自然エネルギー事業および気候変動対策への取組について」

日 時：2021年7月13日（火） 13:20～14:50

講 師：守屋伸祐氏（SB エナジー（株）Chief Strategy Officer／戦略事業本部本部長）

奥朝子氏（SB エナジー（株）Chief Business Officer／電力事業本部本部長）

【参加学生による実施報告】

2021年7月13日、第13回SDGsセミナー「ソフトバンクグループー自然エネルギー事業および気候変動対策への取り組みについて」では、SB エナジー株式会社（以下「SB エナジー社」）の守屋伸祐氏、奥朝子氏をお迎えし、民間企業であるソフトバンクグループが取り組むエネルギー事業についてお話を伺いました。



講師の守屋氏と奥氏

ソフトバンクグループは、2011年に発生した東日本大震災を機に、「エネルギーがなければ通信もITも機能しない」という観点からSB エナジー社を設立しました。その発電事業は日本のみならず海外へも拡大しており、より適した場所での発電が可能になっています。現代でも依然として無電力地域が存在していますが、その状況の中で、SDGsの7番目のゴールである「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の達成に貢献していると理解できました。それだけでなく、事業の進出に伴って雇用の創出や経済成長が起こることも考えられ、その他のSDGsのゴールとも関わってくるように感じました。



SB エナジー社の事業戦略

またSB エナジー社では事業戦略として、Bits（情報）、Mobility（移動）、Watts（再生可能エネルギー）の3領域をもとに新たなビジネスモデルを構築するBMW 戦略を実行しているそうです。屋内光で世界最高水準の発電効率を誇る太陽光セルや、AIによる高精度リアルタイム天気予報システムなど、いくつかの事例を用いてご説明くださいました。再生可能エネルギーは、発電が不安定で予測

しづらいために普及しにくいと言われますが、蓄電技術や正確な気象予測をはじめ、彼らが取り組む多角的なエネルギー関連事業が再生可能エネルギーの利用を推進していくことが

できると学びました。

今回のセミナーを通して、気候変動だけでなく、都市計画や近年頻発している自然災害など、他の社会的課題に対しても、民間セクターが果たす役割の大きさを実感することができました。他方、今後再生可能エネルギーの急速な発展が見込まれる中、新たな環境問題や貧困問題が生み出されないよう引き続き留意していく必要があると感じます。事業を進めつつも、広い視野をもち、SDGs のあらゆる側面への配慮を怠らないようにする重要性も再認識しました。

(文教育学部人間社会科学科 4 年 山本恭子)

(4) 第 14 回持続可能な開発目標 (SDGs) セミナー

【概要】

テーマ：「SDGs 時代のインフラ整備—東南アジアでの事例を踏まえて—」

日 時：2021 年 11 月 8 日 (月) 13:20～14:50

講 師：河浪秀次 氏 (日本工営株式会社コンサルティング事業統括本部技師長
(東南アジア担当))

【参加学生による実施報告】

2021 年 11 月 8 日、第 14 回 SDGs セミナー「SDGs 時代のインフラ整備—東南アジアでの事例を踏まえて—」では、日本工営株式会社コンサルティング事業統括本部技師長 (東南アジア担当) の河浪秀次氏をお迎えし、インフラ開発の醍醐味とその在り方についてお話を伺いました。

ODA (政府開発援助) におけるインフラ事業は、産業や社会生活の基盤となる施設 (エネルギー、道路・橋梁・トンネル、空港・港湾等) を整備するために、政府や各省庁、建設業者、メーカー、商社、コンサルタント等多くの人々が関わることで実施されています。インフラ事業を行うことで、経済や民間の発展に寄与するといった利点があります。その一方で、自然・社会環境への負荷、途上国の貧困格差の助長と



講師の河浪秀次氏

いった負の影響もあるそうです。開発援助として単にインフラを整備すれば良いという訳ではなく、インフラ整備が与える影響についてあらゆる角度から考え、検証する必要があるということを学びました。さらに、インフラ整備と関連する SDGs のゴール・ターゲットがいくつも挙げられていました。複数の SDGs のゴール・ターゲットと関連があるということからも、インフラ整備が様々な分野に影響を与えることが分かりました。



インフラ整備と関連する SDGs のゴール・ターゲット

SDGsを踏まえた今後のインフラ整備の在り方として、質の高いインフラ整備が目指されています。質の高いインフラ整備について、河浪さんの「優しく」、「正しく」つくるという言葉が印象に残りました。援助を「する側」と「される側」ではどうしても上下関係ができてしまうことがあると思います。しかし、この「優しく」、「正しく」という言葉には、被援助国と援助国を対等な関係とし、「現地の人々や環境にとって良いものを」という思いが強く込められており、愛のある援助であると感じました。

開発援助では、援助を「する側」が恣意的になることのないように、その地に住む人々や自然環境に寄り添うことの重要性を再認識しました。

(文教育学部人間社会科学科 2 年 野澤梨乃)

(5) 第15回持続可能な開発目標(SDGs)セミナー

【概要】

テーマ：「東南アジアで咲く道の駅—自治体と国際協力・SDGs—」

日 時：2021 年 12 月 6 日（月） 13:20～14:50

講 師：加藤文男 氏（株式会社ちば南房総代表取締役副社長）

【参加学生による実施報告】

2021年12月6日、第15回SDGsセミナー「東南アジアに咲く道の駅—自治体と国際協力・SDGs—」では、元千葉県南房総市企画部長で、現在は株式会社ちば南房総代表取締役副社長の加藤文男氏をお迎えし、自治体としての国際協力についてお話を伺いました。道の駅という日本各地のローカルな取り組みが東南アジア諸国への支援につながったというご経験から、私たちの生活の身近なところ



に国際協力に関わるきっかけがあることに気付かされました。

まず、手軽に立ち寄れる観光スポットとして近年人気を博している道の駅について、生産者の自立性向上や観光客平準化など地域の課題を解決するための仕組みを備えた場であることを学びました。

例えば、加藤氏が長年携わってこられた「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」では、自治体が入・物・情報を積極的に提供し、道の駅を通じた地域全体のマネジメントを行うことができているそうです。道の駅として認められるための条件が「休憩・地域連携・情報発信の機能を備えている」という大まかなものであったことにより、それぞれの地域が柔軟に独自の取り組みを行うことができ、今日のような発展に繋がっていることを理解しました。



セミナーの様子

また、「道の駅が東南アジア諸国でどのように受け入れられているのか」について具体的な支援事例をもとにお話いただきました。

ベトナムでは、道の駅の大きな特徴である生産者による直売によって適正価格での販売や食の安全を実現し、現地の人々の生活水準向上に寄与することができたそうです。日本の地方と途上国のそれぞれが抱える課題が近いからこそ、こ

のような応用が可能となるのだと考えました。そして、途上国側にも費用負担をお願いするなどリスクを分担することで、現地の人々が自分ごととして支援を受けられることを学びました。

「命がけで飛躍し、閾値を越える」というキープレーズ通り、加藤氏は地元の課題解決のために尽力した経験がきっかけとなり、国際協力に携わられるようになりました。自治体・NGO など様々なアクターが存在する中で、「一発芸は道の駅です」というお言葉が象徴するように、自分の専門性を高め続けることがグローバルに活躍する第一歩となると考えます。

(文教育学部グローバル文化学環 4 年 卯月 伶奈)

(6) 第 16 回持続可能な開発目標(SDGs)セミナー

【概要】

テーマ：「民間企業と SDGs：住友化学の事業を通じた社会への貢献
ー化学の力でサステナブルな未来をー」

日 時：2021 年 12 月 13 日（月） 13:20～14:50

講 師：山本恭子 氏（住友化学サステナビリティ推進部主席部員）

【参加学生による実施報告】

2021年12月13日、第16回SDGsセミナー「民間企業とSDGs：住友化学の事業を通じた社会への貢献」では、本学卒業生でもある住友化学株式会社サステナビリティ推進部主席部員の山本恭子氏をお招きし、化学会社という立場でのSDGs関連の取り組みや、民間企業が国際協力に取り組む姿勢などについてお話いただきました。



講師の山本恭子氏

住友化学では、トップダウンでサステナブルを推進されています。しかし、ただ上層部が主導し、経営にサステナブルを反映するだけではありません。「サステナブルツリー」と呼ばれるグローバルプロジェクトを社内で企画し、社員全員がSDGsへの認識を高め、十分な知識を身につけることができるといった教育活動も同時に行っています。このような活動を行うことで、トップだけでなく、会社に関わる多くの人が、サステナブルに関する知識や高い関心を持つことができ、社内全体でSDGsに対する良い緊張感が保たれるのではないかと思います。



オリセット®ネットを通じた貢献

また、セミナーでは、マラリア感染症による死者数がアフリカ地域に集中していることから開発されたオリセットネットの効果や現地社会への影響についても学びました。オリセットネットは、感染症予防の効果はもちろんのこと、他にも現地での雇用創出や、女性の就業促進、子どもたちへの教育支援など、途上国の様々な社会問題に貢献しており、製品の開発が結果として国際協力になっているということに驚きました。以前、国

際協力分野における道の駅事業の活用に関する授業で、講師の方から、「ハイテクなものよりローテクなもののほうが途上国では役立つ」というお話を伺いました。今回、住友化学が開発したオリセットネットは最新技術が盛り込まれたハイテクな製品ではありますが、元の発想は「蚊帳」という日本で伝統的に使われてきたものであり、オリセットネットは、ハイテクとローテクが融合した製品であると考えられます。実際、オリセットネットの使い方は簡単で、途上国の人々の生活にも馴染みやすく、国際協力に向けた製品であると感じました。オリセットネットの開発によって、感染症のリスクにさらされていた多くの途上国の人々の命が救われ、生活も改善されたという結果から、その影響力は非常に大きかったと言えます。

今回のセミナーを通して、公的機関が行う支援プロジェクト以外にも、民間企業が化学等技術の力で国際協力に貢献できるということが分かりました。

(文教育学部言語文化学科2年 大嶋布貴)

(7) 第17回持続可能な開発目標(SDGs)セミナー

【概要】

テーマ：「国際協力事業のサステナビリティを考える—ミャンマーでの事例を踏まえて—」

日 時：2021年12月20(月) 13:20~14:50

講 師：菊池淳子 氏(日本工営株式会社環境技術部 SDGs&CSR 戦略ユニット長)

【参加学生による実施報告】

2021年12月20日、第17回SDGsセミナー「国際協力事業のサステナビリティを考える—ミャンマーでの事例を踏まえて—」では、多くの途上国において現場の最前線で活動されてきた日本工営株式会社SDGs&CSR 戦略ユニット長の菊池淳子氏をお招きし、国際協力事業の実施に際しての住民目線での環境社会配慮の実践についてお話をうかがいました。



講師の菊池淳子氏

今回はミャンマーのティラワ経済特区の開発に伴う地域住民の移転を中心にお話をいただき、彼らの生活向上を目指す中で、住民の衣食住に関わることは特に慎重に事を進めるべき課題であるということや、開発コンサルタントとして「誰も取り残さない」社会の実現のためにいかに地域住民らと綿密なコミュニケーションをとってきたか、について学ぶことができました。

ミャンマーの住民移転計画にはミャンマー政府のみならず、国際組織、NGO、民間企業そして実際に暮らしが大きく変わってしまう当事者である地域住民たち、その他多くの人々が関わっていたとお聞きしました。このような様々な立場の人々の利害や感情が交わる

私が学んだこと

- ・「fact」は立場によって異なる可能性がある。
- ・相手に伝わる・届くように話す。
- ・メディア報道、住民から聞いた話、政府の発言などは、critical thinkingを持つことが大事。異なる意見にも耳を傾ける。
- ・聞き取り調査は、質問の仕方、タイミング、季節、通訳、人間関係など多くの要素に左右されることを理解する。
- ・自分の一言の影響力を考える。
- ・コンサルタントとしての専門性を磨く。時代と共に求められる専門性は変わるため、学ぶことをあきらめないこと。

例) 環境社会配慮→環境・社会・人権デューデリジェンス、サステナビリティへ

私が学んだこと

るからこそ、それぞれの視点から見た「真実」や「正しいこと」が一つではないことを実感しました。特に住民にとっては、たとえ生活の質の向上のためだとしても住んでいる場所から移り住むということは格別な寂しさや不安を伴う行動であり、とても繊細な問題です。そして同じ地域の住民の間でも様々な意見があり、何を信頼するかということも異なるため、住民社会内部の分断が発生することも避

開発援助の影響を直に受ける人々との対話の機会を十分に持つことや、支援に関わる組織のそれぞれの立場からの意見を **critical thinking** の姿勢をもって注意深く聞くことなど、「誰も蔑ろにしない、誰一人置いていかない」ような **SDGs** の基本理念に則した方法で国際協力を進めることの難しさと、重要性について学ぶことができました。

(文教育学部言語文化学科 2 年 今田史桜)

(8) 第 18 回持続可能な開発目標 (SDGs) セミナー

【概要】

テーマ：「グローバル課題を市民のチカラで解決する—NGO だからできること—」

日 時：2022 年 1 月 17 日 (月) 13:20~14:50

講 師：木内真理子 氏 (国際 NGO ワールド・ビジョン・ジャパン 理事・事務局長)

【参加学生による実施報告】

2022 年 1 月 17 日、第 18 回 **SDGs** セミナー「グローバル課題を市民のチカラで解決する—NGO だからできること—」では、世界の子どもの支援する国際 NGO ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) 理事・事務局長の木内真理子氏をお迎えし、NGO として、グローバル課題の解決に向かってどのような国際協力の活動をしているかについて、お話を伺いました。



講師の木内真理子氏

まず、NGO とはどのような組織であるのか、具体的にどのような活動を行っているのかの説明をしていただきました。新型コロナウイルスの影響について、感染拡大の 1 次的影響だけでなく、休校やロックダウンによる女子学生や女性への DV 増加、早期妊娠の増加、出産後の復学が難しく、十分な教育が受けられない状況や所得減少による貧困の連鎖などの 2 次的影響も大きく、NGO での支援も感染防止とともに 2 次的影響を防ぐことに重点が置かれ、その悪影響からいかに次世代の子どもを守るべきかが重要であると学びました。

また、以前行われたエボラ出血熱の感染をどう防ぐかについてのお話では、現地の人々に科学的説明をするのみだけでは効果が薄く、昔からの習慣や宗教など、その土地の特徴を理解したうえでどう伝えるかを考える必要があるという点に、国際協力の難しさや、その在り方は国や地域によって変えていくことが重要だと実感しました。そして現地の人々には、ただ出された指示に従うだけでなく、彼ら自身が自立し、行動変容をしてもらうことが大事で、そのためには一度きりではなく、現地での活動を地道に何度も行うことによって人々に定着し、根本的解決につながるとお話をされていた点に、国際協力の本質があるように思えました。



セミナーの様子

最後に、NGO の強みや課題について説明していただきました。日本における課題として、個人の寄付率が低いこと、政府の NGO に対する資金拠出額が低い原因の一つが、国民の社会的認知度が低いからではないかということも指摘されていたのが印象的でした。この課題から、日本の国際協力の教育の遅れを感じ、初等教育の段階から NGO などの活動を知り、国際協力を実践するような機会の推進も必要

ではないかと考えました。

(文教育学部言語文化学科 2 年 林希枝)

2. 2 2021 年度 NPO 活動紹介セミナー

本セミナーは、NPO (いわゆる NPO 法人に限らず、財団法人、社団法人、社会福祉法人、任意団体等幅広い「非営利団体」を指す) 活動に携わる方々をゲストに招き、①その活動紹介等を通して国内外の社会課題に触れ、その解決策を考えること、②NPO 活動に興味・関心のある学生をエンパワーメントし、学生自身のインターンシップ・ボランティア実践や社会貢献活動に繋げることを目的とした、全 10 回のセミナーである(参加者: 合計 240 名)。

ゲストには、活動の紹介のみに留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本音ベース」の話をじっくりと語っていただいた。また、参加者がゲスト講師のお話をただ伺うというスタイルから脱却し、小グループでのディスカッションを組み込む等して、双方向性を確保するよう努めた。

「NPO 入門」や「NPO インターンシップ(実習)」(2021 年度は休講)、「持続可能な開発目標(SDGs)セミナー」等と随時連携しながら実施した。また、2021 年度第 9 回 NPO 活動紹介セミナーは奈良女子大学との大学間連携イベントの一環として開催した。

(1) 2021 年度第 1 回 NPO 活動紹介セミナー

【概要】

日 時 : 2021 年 6 月 21 日 (月) 13:20~14:50

ゲスト : 柳本千種 氏 (認定 NPO 法人カタリバ職員)

参加者 : 約 40 名

【参加学生による実施報告】

2021 年第 1 回 NPO 活動紹介セミナーでは、自身ではどうすることもできない家庭環境などの課題を抱える子どもたちの学習支援、居場所づくりを行っている、認定 NPO 法人カタリバのアダチベースから、柳本千種さんにご登壇いただきました。今回は、カタリバの活

動内容と、ご自身がカタリバで働く理由を中心にお話しいただきました。



NPO 法人カタリバ

内不和を抱えている……など、様々な課題を抱える子どもたちと繋がり続けたいと柳本さんは語られていました。

また、終盤はキャリアコンサルタントの資格を活かしてミニキャリア講座も行ってくださり、「キャリア理論」や「ブランド・ハップンスタンス」などについて知ることができました、これまでの経験や理論をもとにお話しくださり、前向きに将来を捉え直すきっかけにもなりました。

インターンシップやボランティアなど学生の私たちでもできる、アダチベースへの関わり方も紹介してくださいました。参加者からの積極的な質問や相談が絶えず、セミナー後も1時間ほどお付き合いいただくなど、熱のこもった充実したセミナーとなりました。

「どんな状況にあっても「未来は作れる」」



アダチベースの概要

これは、アダチベースが無数の可能性を秘めた10代に向けた言葉です。終わりが見えず、思い通りにいかないことが多いコロナ禍、まさに今の私たちにとっても必要な言葉なのではないでしょうか。

(生活科学部心理学科1年 山島凜佳)

(2) 2021年度第2回NPO活動紹介セミナー

【概要】

日時：2021年6月29日（火） 16:45～18:15

ゲスト：塚越優氏（隠岐国学習センター教務スタッフ／島前ICTディレクター）

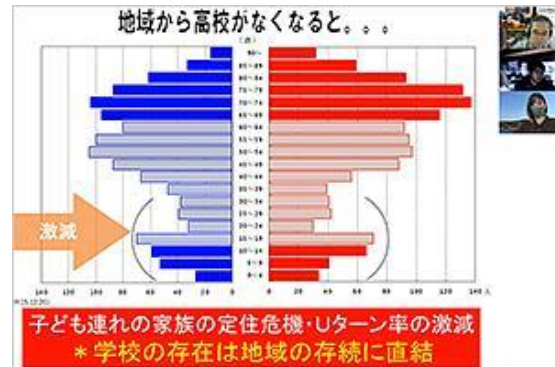
水越日向子氏（隠岐国学習センターインターン／文教育学部・学部生）

参加者：約20名

【参加学生による実施報告】

2021年6月29日に開催された第2回NPO活動紹介セミナーでは、島根県にある離島・海士町の公営塾「隠岐國学習センター」の日常、そして生徒たちと一緒に取り組んでいる活動について、同センターで教務スタッフをされている塚越優さんと、お茶の水女子大学生で、現在同センターで長期インターンをされている水越日向子さんからお話を伺いました。

「星を見たり、海を見たり、緑を見たり」する離島の生活は、大陸の真ん中（ロシア）で生まれ育った私にとって理想的にしか見えませんでした。海士町には夜中まで営業しているレストランはありませんが、そのおかげで東京では想像できないほど美しい星空が見えます。チェーン店もないし、コンビニありません。完全に都会っ子になっている私にとっては想像しにくい場所ですが、塚越さんと水越さんがおっしゃっていた通り、海士町は「ないものはない」ところです。「ないものはいっぱいあるが、それは全部なくてもいいものばかり。ただ、快適な生活に必要なものはなんでもある」という意味で、これが海士町を最もよく表している言葉だそうです。



高校と地域の関係性について

「ないものはない」離島の存続に直結する、どうしてもなくてははいけないものは学校です。海士町は人口がピーク時の3分の1に減少し、海士町（を含む島前地域）にある唯一の高校である島根県立隠岐島前高等学校へ入学する生徒は30人もいない状態になっていました。その唯一の高校の存続が危ぶまれていましたが、教育魅力化プロジェクトが発足し、平成20年からは入学する生徒が増えています。少子高齢化や都市化をはじめとした日本のいろいろな事情を考えると、かなり稀な展開かと思います。



ゲストによる活動紹介

そこで、島における教育の難しさが表面化しました。高校が一枚しかない中、背景、学力、興味・関心、目指したい進路の違う生徒が集まってくることによる難しさです。教員が少なく民間教育に頼る選択肢もない中で多様な生徒への対応が求められ、その解決策のひとつとして公営塾「隠岐國学習センター」が設立されました。

公立の塾というのは珍しい存在ですが、隠岐國学習センターは島の高校生に快適な学習スペースと学習機会、そして自立学習をキーとする指導を提供し、生徒が自ら学ぶ力を育成することを目的としています。島の高校生を

それぞれの夢につなげるのが隠岐國学習センターのコンセプトで、「つながるまなびや」を標榜しています。

水越さんが紹介してくださった生徒と一緒に自由に考えていく活動に加え、肉じゃがを作るゼミの話が印象的でした。生徒の中で流行っていることをもとにして、生徒に自己肯定感を与えるとともに、改めて自己像について考えさせます。新しいアプローチを受け入れる土台があり、塚越さんや水越さんのような若い専門家にとっても、離島の問題に取り組みながら自己実現できる場になっているんだなと感じました。

追加で2時間くらい延長したい、大変有用なセミナーでした。

(生活科学部心理学科4年 ワブーリニク・マリヤ)

(3) 2021 年度第3回 NPO 活動紹介セミナー

【概要】

日 時：2021 年 7 月 5 日（月） 16:45～18:15

ゲスト：小野寺美佳 氏（社会福祉法人福祉楽団職員）

片山侑香里 氏（社会福祉法人福祉楽団職員）

参加者：約 25 名

【参加学生による実施報告】

2021 年度第3回 NPO 活動紹介セミナーでは、千葉県と埼玉県を拠点に活動する社会福祉法人福祉楽団で働かれている小野寺美佳さんと片山侑香里さんにご登壇いただき、お二人のバックグラウンドや1日のスケジュール、福祉に対する考え方などを伺いました。福祉楽団は特別養護老人ホーム、デイサービス、相談支援、障害児通所支援、恋する豚研究所の経営など幅広い活動をされていますが、今回は特に介護に焦点を絞り講演をしていただきました。

「ちょっとした心遣いや工夫を取り入れるだけで、暮らしはより良いものにしていくこ

とができる」という言葉が一番心に残りました。普通ならば「老いたのだから仕方ない」で済ませてしまうようなことでも、豊富な経験や細やかな観察を活かし、必要とされていることを考えていく福祉楽団でのお仕事は、私が思っていたよりもはるかにクリエイティブでした。家族と職員の関わり方や施設、労働環境などにおいて、今の時代に合わせた新しいシステムがたくさん構築されているということを知り、これまで私が福祉に対して抱いていたネガティブなイメージは大きく変わりました。セミナーには、学内の方はもちろん学外の方も多く参加されていて、多様な意見や感想を聞くことができ学ぶことが多かったです。



福祉楽団が展開する事業



介護現場での取り組み



ゲストのお二人(左上)

「体力的、精神的に大変なことはあっても、いつも楽しめている」、「何も後ろめたさを感じることなく、仕事ができている」と語るお二人の姿を見て、将来の自分の理想像を考え直すことができました。

(生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳)

(4) 2021 年度第 4 回 NPO 活動紹介セミナー

【概要】

日 時：2021 年 7 月 24 日（土） 14:00～15:30

ゲスト：齋藤みずも 氏（オンライン寺子屋発起人）

中村 証 氏（オンライン寺子屋発起人）

参加者：約 25 名

【参加学生による実施報告】

2021 年度第 4 回 NPO 活動紹介セミナーでは、完全無料の学習サポート事業「オンライン寺子屋」を立ち上げられた齋藤みずもさんと中村証さんにご登壇いただきました。コロナ禍での設立の経緯、事業の成果や仕組み、学校での ICT の導入例、学校教育の問題点などをお話いただきました。

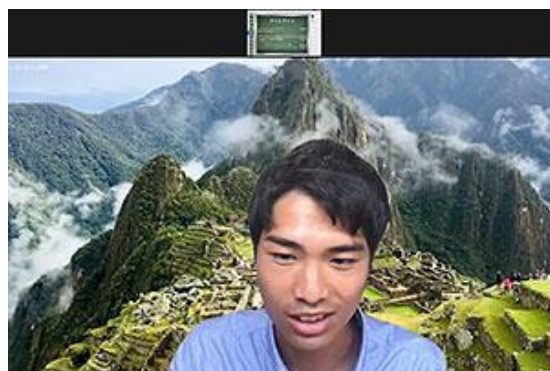
双方向のセミナーで、参加者の皆さんと一緒に、オンライン授業に対して考えていること、教育格差、なぜ教育が変われないのか？そもそも変えられるのか？ということについてグループディスカッションをしました。今回もお茶大生のみならず全国から集まった方々と意見交換ができ、教育について今まで以上の関心と問題意識を持つことができました。

できる人から行動を起こしていく大切さや「with コロナ時代」だからこそできることなど、オンライン寺子屋の授業・教育に対する真剣な姿勢に胸を打たれました。

- ・ 失敗を恐れるのではなくて気軽にアクションを起こすこと
- ・ 自分のポジションや強みを見つけてほしい
- ・ いろんな授業を取り、教授にアプローチすること
- ・ 大学生ブランドを使うこと



ゲストの齋藤みずも氏



ゲストの中村 柁氏

など他にもたくさんの大学生へ向けたメッセージをいただき、自分には何ができるか、どう変わっていけるかを前向きに考える機会をいただきました。

セミナー後も質問が続き、いろいろな方同士の繋がりがたくさん生まれ、それぞれが、これからの活動につなげることができる空間となりました。多くの良い刺激やアドバイスをいただくことができたので、私も勇気を出してできることから始めてみようと思います。

(生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳)

(5) 2021 年度第 5 回 NPO 活動紹介セミナー

【概要】

日 時：2021 年 8 月 9 日（月） 14:00～15:30

ゲスト：岡安直比 氏（認定 NPO 法人 UAPACAA 国際保全パートナーズ代表理事）

参加者：約 35 名

【参加学生による実施報告】

2021 年 8 月 9 日に開催した「2021 年度第 5 回 NPO 活動紹介セミナー」では、ブータンやアフリカ各国において大型野生動物の保護活動を展開されている認定 NPO 法人 UAPACAA 国際保全パートナーズから、代表理事の岡安直比さんに御登壇いただきました。本学のみならず、日本動物医療センター、日本ブータン友好協会、京都大学、早稲田大学などからも参加者が集まりました。



ゲストの岡安直比氏

ゴリラやチンパンジー、トラやゾウといった大型動物は、私たちにとっては動物園でしか会えない動物ですが、彼らが野生に生息する国はまだ地球上に残っています。岡安さんが主に活動されているブータンやアフリカ各国もそのような国のうちのひとつです。

セミナーの前半では、グローバリゼーションが進んだ世界全体での経済活動がどのように環境や自然、野生動物たちに影響を及ぼしているのか、そしてそれらがどのような問題を

引き起こすのかを学ぶことができました。後半では、現在岡安さんが取り組まれている“森の国ブータン「奇跡の谷」”の保護プロジェクトについて詳しくご説明いただきました。また、野生動物保護の最前線に立つ「レンジャー」の装備・教育の支援や、世界に13ヵ国しかないトラ生息国が一丸となって取り組むトラ倍增計画の支援に充てるための募金活動・SNSでの広報などについてもお話しくださしました。



野生動物保護をめぐる課題

今回、初めて参加者対象の事後アンケートを行いました。「予備知識がなくても楽しめた」、「普段は聞けない貴重な話を聞くことができた」、「建前ではなく本音を聞くことができた」などの感想を数多くいただき、充実したセミナーとなったように思います。

セミナー終了後も長時間にわたって数々の質問にお答えくださり、参加者の関心の高さと岡安さんの熱い思いが感じられました。

(生活科学部心理学科1年 山島凜佳)

(6) 2021年度第6回NPO活動紹介セミナー

【概要】

日時：2021年9月18日(土) 14:00~15:30

ゲスト：大阪谷未久氏(食と子どものひろば三芳村元代表／
南房総市中堰地区ふるさと保全指導員)

参加者：約25名

【参加学生による実施報告】

2021年9月18日の第6回NPO活動紹介セミナーでは、学生援農体験や子どもとの田んぼづくり、里山整備活動などをなさっていた「食と子どものひろば三芳村」から、大阪谷未久さんにお越しいただきました。

団体の活動紹介を通して、一つの活動が実は多くの目的や役割を持っていること、またそこには親子の問題や里山を取り巻く問題、さらには葛藤があるということを、実体験を踏まえて語ってくださいました。活動が続いていくうえで起こった困難や、大阪谷さんが抱かっていた思いから学ぶことはとても多かったです。

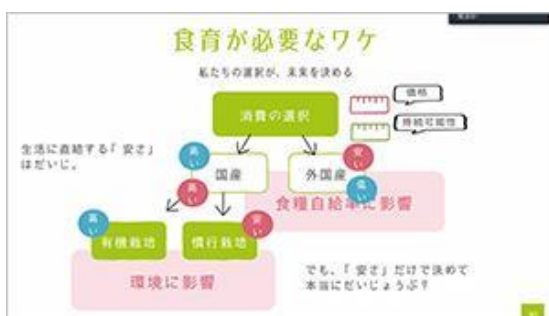


親子をとりまく課題

忙しい学生や社会人にこそ必要とされている食育についてのお話では、ショッキングな

ものも含め、あまり知られていない事実を学び、参加者それぞれが食生活や食べ物、環境に対する考え方を振り返りました。私は特に、食べ物を購入する際には価格だけではなく持続可能性など多くの物差しで測らなければいけない、「消費は投資である」という考え方に納得しました。また、賢い選択をしていくためには、まずは「知る」ことから始めなければいけないということを改めて感じました。

終盤では、大阪谷さんの発表スライドの完成度の高さが話題に上がり、スライド作りのコツやおすすめ素材、さらに、見やすく、かつ聞きやすいプレゼンをするためのポイントまで教えていただきました。学生生活に役立つことを、思わぬところで学ぶことができました。



食育の必要性に関して

セミナー参加者を対象とした事後アンケートでは、心に残ったものとして、「大阪谷さんの動物の命も自身の活動もサステナブルに考え続けている姿勢」や「活動の一貫性」、「有機農業に携わる方の素敵な姿勢」などが寄せられました。また全回答者から、セミナーについて「大変満足」もしくは「満足」との評価をいただきました。

(生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳)

【参加者からの感想・コメント（抜粋）】

- ・ 初めて知ることが多く、とても有意義な時間になった。
- ・ 人間も他の生き物もちょうどよく共存するには？と考える時間が過ごせた。
- ・ 将来何がしたいのか、何ができるのかを考えるきっかけになると同時に、そういう生き方もあるんだと視野が広がるような気がした。
- ・ 食の大切さを広めるだけではなく、コミュニティを広げる活動もしていることに感動した。
- ・ 「自分の経験にラベルを貼っていた」という気づき。自分もそうかもしれないと考えさせられた。
- ・ 有機農業の消費者グループの方たちの、農家の方に対する姿勢が素敵で印象に残った。
- ・ 都心で暮らす人や地元で協力してくれる人たちだけでなく、普通にそこで生活している人たちのことも大切にされているということが印象に残った。

(7) 2021 年度第 7 回 NPO 活動紹介セミナー

【概要】

日 時：2021 年 9 月 27 日（月） 14:00～15:30

ゲスト：真屋友希 氏（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
アフガニスタン事務所チーフ）

参加者：約 15 名

【参加学生による実施報告】

2021 年 9 月 27 日の第 7 回 NPO 活動紹介セミナーでは、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA) でアフガニスタン事務所チーフとして働かれている真屋友希さんにお越しいただきました。

前半は主に、シャンティ国際ボランティア会が行っている、絵本を通じた識字教育支援活動について伺いました。図書館整備に関して、またそこを利用する子どもたちの様子に関してたくさんの写真や映像を通して学ぶことができ、参加者からは、子どもたちに図書館へ継続して通ってもらうために行っている工夫や、親の教育に対する意識についての質問が出ました。また、タリバンによる制



SVA の教育文化支援事業



アフガニスタンでの活動実績

後半は、現地スタッフとしてではなく遠隔支援スタッフとして活動に携わることに對する想いや葛藤についてもお話をしてくださいました。遠隔であってもできることは多く、現地へ送る絵本に翻訳シールを貼る市民参加型の支援の場や、ボランティアやインターシップを通じた支援の場を提供しているとのことでした。コロナ禍の中で現在は制限されている活動もありますが、参加者の中には、

再開されれば実際に活動にかかわりたいと関心を寄せる方もいました。

事後アンケートには、「文字を読み書きできないことが生活に与える影響の大きさを改めて考えさせられた」、「絵本が子どもだけでなく大人にとっても希望になっているということがわかった」などの感想が寄せられました。これまでのセミナーに引き続き、チャットでの質問・コメントの受付を行いました。これについては、思いついたときにタイミングを気にせず質問ができる点が好評でした。また、今後、話を聞きたい団体の希望も寄せられました。

(生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳)

【参加者からの感想・コメント (抜粋)】

- ・ 「本の力を、生きる力に」の映像で、絵本が、子どもたちのためになるだけでなく、本を読むことのできない大人にとっても未来への希望として映っていることが、素敵だと思った。
- ・ プレゼンテーションは映像や写真が多く興味深く拝聴しました。現地の人たちの声はとても説得力がありました。
- ・ シャンティさんのお話も興味深かったのですが、来年度「NPO インターンシップ」の授業が予定されていることやお茶大に自分の知らなかったこのような学びの場があったことを、知ることができてよかったと思いました。

(8) 2021 年度第 8 回 NPO 活動紹介セミナー

【概要】

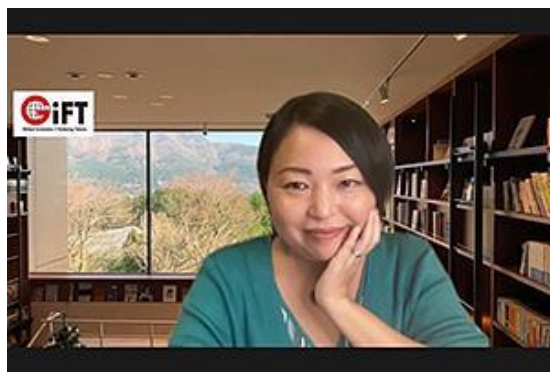
日 時：2021 年 10 月 20 日（水） 16:45～18:15

ゲスト：辰野まどか 氏（一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト代表理事）

参加者：約 15 名

【参加学生による実施報告】

2021 年 10 月 20 日の第 8 回 NPO 活動紹介セミナーでは、一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) 代表理事の辰野まどかさんをお招きし、お話を伺いました。GiFT はグローバル・シチズンシップ（地球志民）で世界をつなぐということをミッションに掲げ活動をしている団体で、「グローバル・シチズンシップ」を「世界をより良くしようと思う志」と捉え、これを育む教育に力を入れています。



ゲストの辰野まどか氏

はじめに、「グローバル・シチズンシップ」を育むために必要なプロセスの紹介がありました。

- ① 自己を知り受け入れる
- ② 相手を知り受け入れる
- ③ 共に取り組み、創る
- ④ 社会に参画、還元していく

これは、ラオス、フィリピン、ブータンなど様々な国で海外短期研修プロジェクトを展開する GiFT が、プロジェクトを実現させていくときに必ず追っているプロセスだそうです。

GiFT は官民協働海外留学支援制度トビタテ！留学 JAPAN（高校生版）の事前・事後研修も担当されていますが、そこでもこのステップに沿い、自問自答する時間、そしてそれらを共有する時間を用意しているとのことでした。また、突然「大きな社会問題を解決しよう」、「海外に行ってこんなことをしよう」と行動するのではなく、まず自分がワクワクすることやモヤモヤしていることを知ることから始めることの重要性をお話してくださいました。参加者の皆さんからも、この部分に関しては共感する声が特に多く寄せられました。



GiFT による海外短期研修プログラム例

辰野さんは、「若者は内向きなんかではなくて、大きな力を持っているのだ」という考えのもとで、多くの若者と関わられています。若者が交流し実行に移すことができる場づくりを通して、多くの若者が、楽だと感じられる（が学びの少ない）“Comfort Zone” から学びの多い“Learning Zone”へ、時にはその奥の“Panic Zone”へと足を踏み出せるよう背中を押し続けていらっしゃいます。

今回のセミナーはアットホームな雰囲気で行われました。参加者対象の事後アンケートには、「期待していた以上に得られるものが多かった」、「将来のことを考えるきっかけになった」といった感想や今後の活動についてアドバイスを求める声も寄せられ、参加者の「これから」に繋がられるセミナーとなったように思います。

（生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳）

【参加者からの感想・コメント（抜粋）】

- ・ 17 歳の時に感じたことから、今に至るまで一本でつながっていることがとても素敵でした。私は関心のある分野がかなり幅広いのですが、今のうちにたくさんを経験して 10 年後 20 年後につなげられればいいなと思いました。
- ・ あまり深い目的もなく参加しましたが、得られたものは多くあったように感じます。
- ・ 私が将来のことで悩んでいた際、高校でお世話になった先生に「やりたいことは言っていれば、いつか叶うものだ」という言葉をかけていただき、その言葉がずっと心に残っていました。今回のお話を聞いて、辰野さんがその言葉通りの人生を歩んでいらっしゃることに驚きました。
- ・ 今回初めてご一緒させていただき大変うれしかったです。最後はご挨拶もできないままで大変失礼しました。アットホームな雰囲気の中、一体感もありゆったりとお話を聞いて良かったです。波乱万丈な人生、たくさんの経験が今のまどかさんを形成しているのだと改めて感じました。人生の SDGs、鎌倉での生活というのもいいですね。大変共感します。

(9) 2021 年度第 9 回 NPO 活動紹介セミナー

【概要】

日 時：2021 年 11 月 20 日（土） 14:00～15:30

ゲスト：執行泰輔 氏（STUDY FOR TWO 学生代表／

支援先調査プロジェクトリーダー／支部設立チームリーダー／会計チーム）

北野昂大 氏（同・学生副代表／HR チームリーダー）

内藤百合子 氏（同・前関東地区代表／支部設立チーム／文教育学部・学部生）

STUDY FOR TWO お茶の水女子大学支部及び奈良女子大学支部のメンバー

参加者：約 20 名

【参加学生による実施報告】

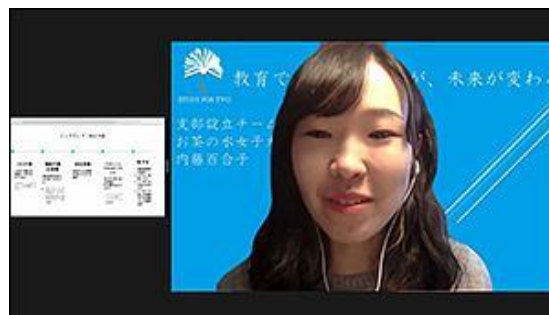
2021 年 11 月 20 日の第 9 回 NPO 活動紹介セミナーでは、STUDY FOR TWO（以下 SFT）から、学生代表の執行泰輔さん（広島大学 3 年）、学生副代表の北野昂大さん（金沢大学 3 年）、前関東地区代表の内藤百合子さん（お茶の水女子大学 4 年）にお越しいただきました。これまでの NPO 活動紹介セミナーとは異なり、現役の大学生にお話をしていたく会となりました。また、奈良女子大学とお茶の水女子大学の 2021 年度大学間連携イベントも兼ねていたため、後半には、両大学支部の活動内容の報告も行っていました。



執行さんによる発表



北野さんによる発表



内藤さんによる発表

執行さんからは教育支援の実情や SFT の活動内容について、北野さんからはキャリアの視点から見た学生団体への参加について、内藤さんからはお茶大生としての SFT との関わりについてご発表いただきました。御三方とも大学生ならではの視点で悩みや強みをざっくばらんに語ってくださり、参加者からの共感や質問、感想が多く寄せられました。

セミナー終了後には、SFT お茶の水女子大学支部と奈良女子大学支部の交流会を開催し、コロナ禍での活動における悩みなどに関する意見交換が行われました。同じ国立の女子大

学であってもなかなか交流の機会が持てずにいたとのことだったので、有意義な時間になったのではないかと思います。

参加者を対象にした事後アンケートでは、満足度、質問のしやすさ、登壇者へのメッセージ、セミナーの良かった点、改善点、今後聞いてみたい団体を尋ねました。回答者全員が大変満足・満足と回答してくださり、「堅苦しくない和やかな雰囲気が良かった」、「熱気を感じることができた」などの声が寄せられました。今後のセミナーの改善点としては、時間配分が挙げられました。今後は上手くタイムマネジメントをしていけるよう工夫していきたいです。

(生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳)

【参加者からの感想・コメント（抜粋）】

- ・ 活動の様々な内容、現代の社会の様態などを知ることができ、大変勉強になりました。
- ・ 「大学生にしては」でとどまらない質を求める姿勢、自分の考えを発信していく必要性や自身の価値観の再発見、様々な気づきや自己受容等、自分の刺激になるものがたくさんありました。
- ・ それぞれの経験も踏まえて話してくださったので、より **STUDY FOR TWO** の活動に参加してみたいと思いました。
- ・ 堅苦しくない和やかな雰囲気で、すごく楽しみながら参加させていただきました。
- ・ とても緩やかな雰囲気で、部外者も参加しやすく、ありがたかったです。
- ・ 調べた内容についての引用元なども紹介していただけたため、追って調べることができ助かりました。
- ・ 活動内容に限らず、それぞれの方の視点からお話を聞くことができた。
- ・ リーダー目線だけでなく、活動メンバーの視点からの発表があったところが良かった。

(10) 2021 年度第 10 回 NPO 活動紹介セミナー

【概要】

日 時：2021 年 12 月 7 日（土） 16:45～18:15

ゲスト：太田朝弓 氏（サンキュー・カンボジア・プロジェクト代表／
文教育学部・学部生）

三原璃子 氏（NPO 法人はちどりプロジェクトインターン生／
文教育学部・学部生）

参加者：約 20 名

【参加学生による実施報告】

2021 年 12 月 7 日に開催した第 10 回 NPO 活動紹介セミナーには、お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科 2 年の太田朝弓さんと三原璃子さんがいらしてくださいました。

前半、三原さんからは「NPO 法人はちどりプロジェクト」でインターンを始めるまでの経緯、インターン先での活動内容、NPO でインターンをしてみて感じたことなどをお話いただきました。インターンは、堅苦しいもの・意識の高い人が行っているもの・就活のために行うものといったイメージを持たれがちですが、そうは捉えずに挑戦してみてもいいとのアドバイスをいただきました。



三原さんによるインターン報告

後半、太田さんからは、クメール語の紹介やカンボジアの豆知識を交えながら、高校在学中に立ち上げた「サンキュー・カンボジア・プロジェクト」の活動内容やプロジェクトを始めたきっかけについてお話いただきました。新型コロナウイルスの影響で思い通りにカンボジア支援ができない中でも、ご自身にできることを探して朝の挨拶運動やゴミ拾いなどの工夫をされているとのことでした。お話の中でご出身地の福島のことにもたくさん触れられていて、福島への愛も存分に感じられました。



太田さんによる活動紹介

お二人ともとてもエネルギッシュで、「やってみる」ことの大切さを強く伝えてくださいました。また、Zoom のリアクション機能やチャット機能を使い、終始、和やかな雰囲気の中でセミナーが進みました。今回は高校生も参加してくださり、セミナー終了後も積極的に質問されている様子が伺えました。

参加者を対象にした事後アンケートでは、「話しやすい雰囲気だった」、「それぞれが意見を出し刺激しあうことができた」、「明るい雰囲気の中で質問がしやすかった」、「お二人の行動力の凄さが心に残った」などの感想が寄せられ、セミナー全体の満足度も高かったです。

「2021 年度 NPO 活動紹介セミナー」は今回で最後となりましたが、この一年を通して、各回のゲストのかたから良い刺激を受けることができました。さまざまな社会問題に向き合い、考え、行動していくロールモデルにたくさん出会えたことで、はじめはどこか「他人事」と思っていたことも、どんどん身近に感じられるようになり、私にも何かできるのではないかという気持ちを抱くようになりました。このセミナーの参加者の皆さんも同じような気持ちになれていたら嬉しいです。今後も、普段の生活の中では出会うことのできない人に出会い、普段知ることができない世界を教えてもらい、このような機会をお茶大でもっと増やしていきたいです。

(生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳)

【参加者からの感想・コメント（抜粋）】

- ・ 太田さんが高校生の時に行っていた国際協力が心に残りました。私は国際協力をしたいという思いは常に持っていたとしても行動に移せないまま、高校生活も残り半分、そして受験シーズンへと差し掛かっています。太田さんの、高校生の時から自ら考え行動に移している姿はとても刺激になりましたし、憧れました。
- ・ はちどりプロジェクトの、「微力だけど無力じゃない」という言葉に基づいて色々な発展途上国の支援を行なっていることが心に残りました。特に、乾季の収入源として紙漉きの仕事を提供することなどは、今まで想像したことのないもので、様々な視点で考える大切さを学びました。
- ・ 本日は内容の濃いお話をお聞きすることができ、大変嬉しく思います。私の高校の先輩がこのような素敵な活動を高校時代から行っていたということは私にとって、とても刺激になりました。私なりに考え、行動していきたいと思います。
- ・ 太田さんが、カンボジアの支援だけでなく、コロナ禍でも出来ることとして朝に挨拶とゴミ拾いを行っていることを伺い、様々な支援に目を向けることの大切さを感じることができました。
- ・ 三原さんがおっしゃっていた、法人を維持するために苦勞している、というお話がとても心に響きました。海外支援などのボランティアと言うと、実際の活動に目が行きがちですが、支援をする前提として、お金などの売り上げを考えなければならないことは、私が今まで想像したことがなかったので、海外支援を考える際の一つの重要な側面として考えていきたいと思います。

2.3 2021 年度ブータン連続セミナー

本セミナーは、①南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れること、②それらから開発政策や国・地域の在りかたを考えることを目的とした、全 10 回の地域研究型セミナーである（参加者：合計 595 名）。日本ブータン研究所との共催という形式を採り、同研究所が 2013 年 4 月より続けているブータン勉強会（第 141 回～第 150 回）を兼ねた。

ブータンは総人口 70 万人ほどの小国であるが、政府はその主体性・独自性を保つ努力を怠らずに国づくりを進めており、経済成長一辺倒の開発の在りかたを問い直す国として世界各国から注目を集める存在となっている。特に前国王が提唱した GNH（Gross National Happiness、国民総幸福）という開発哲学は広く知られ、ブータンがメディアで紹介される際は、たいてい「幸せな国」や「世界一幸福な国」といった枕詞が付せられる。一方で、都市への人口の一極集中や貧富の差の拡大等近代化に伴って顕在化しはじめた問題も多く抱えており、近年はそうした点が注目されることも増えている。このような特徴を有するブータンから学べることは多いと考え、本セミナーを企画した。

毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、映像作品の視聴、発表者（コメンテーター）からの簡単な解説、質疑応答及び意見交換という流れで実施した。取り上げる

映像作品の選定にあたっては協力団体である「海士ブータンプロジェクト」の学生と協働し、各回のテーマに偏りが生じないように工夫した。

(1) 2021 年度第 1 回ブータン連続セミナー

【概要】

日 時：2021 年 6 月 26 日（土） 14:00～16:00

題 目：「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ①

ー『世界ふれあい街歩き』『ティンブー／ブータン』（2011 年）ー

発表者：山本けいこ 氏（『ブータン 雷龍王国への扉』・『ブータンの染と織』著者）

平山雄大（グローバル協力センター講師）

参加者：約 75 名

【参加学生による実施報告】

2021 年 6 月 26 日、グローバル協力センターと日本ブータン研究所が共催する「2021 年度第 1 回ブータン連続セミナー」がオンラインで開催されました。ブータンの首都ティンブーの街並みや文化、人々の暮らしを映像作品『世界ふれあい街歩き』『ティンブー／ブータン』（NHK、2011 年）を通して学んでいくとともに、コメンテーターの山本けいこさん（『ブータン 雷龍王国への扉』・『ブータンの染と織』著者）より、映像に出てくる場面のポイントや実際の様子について解説いただきました。



ティンブー中心部

回転するもの、携帯できるサイズのものやソーラーマニ車などがあり、ブータンの人々にとって身近なものとなっています。



昔の映像を探る

ティンブーは標高 2,400m、人口約 10 万人のブータン最大の都市です。ブータンでは多くの人々が仏教を信仰していて、学校での朝礼の際のお祈りや街中の建物のデザインなどにその影響が見られます。それが顕著に表れている例として、マニ車という仏具があります。マニ車は円筒状をしており、時計回りに回すことで経を読むことと同じ功德があるとされています。そのマニ車は様々な種類があり、街の至る所におかれているものや水力で

また、街中には民族衣装であるゴ、キラを着ている人が多くいます。ゴは男性用民族衣装で日本の着物のような形をしています。帯を締める際に少し上半身部分をたるませることでおなかの部分に空間をつくり、そこをバッグ代わりに教科書やパソコンなどを入れて持ち歩いています。キラは女性用民族衣装で、インドのサリーのように一枚の布を体に巻きつけています。ブータンでは、国が公の場での民族衣装着用を義務付けていることもあり、学生や公務員をはじめ多くの人が着用して生活しています。

そして私が一番驚いたことは、ブータンには信号機がなく、お巡りさんが交通整備をしているということです。これまでブータンには車が少なかったことからその制度でも問題はなかったそうですが、最近では車の数が増えて交通渋滞が起きているようなので、これからその問題にどう取り組んでいくのか注目したいと思います。

決して先進国ではないが幸せの国と言われているブータン。本セミナーでは、ティンプーの街並みを通してブータンという国の様子を知ることができました。しかし今回見た映像作品は2011年のものだったので、コロナ禍の今はどのような様子であるのかについても興味が湧きました。

(理学部物理学科1年 高鍋美涼)

(2) 2021年度第2回ブータン連続セミナー

【概要】

日時：2021年7月25日(土) 14:00～16:00

題目：「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ②」

—『世界の国境を歩いてみたら…』『インド×ブータン編 一本の線を越えると別世界が広がる国境』(2019年)—

発表者：高橋洋氏(日本ブータン研究所研究員／『地球の歩き方 ブータン』編集者)

平山雄大(グローバル協力センター講師)

参加者：約75名

【参加学生による実施報告】

2021年7月25日の第2回ブータン連続セミナーでは、コメンテーターとして日本ブータン研究所研究員で『地球の歩き方 ブータン』の編集者である高橋洋さんにご登壇いただきました。『世界の国境を歩いてみたら…』『インド×ブータン編 一本の線を越えると別世界が広がる国境』(2019年)の映像を視聴した後に、それに関する解説や質疑応答が行われました。



以前の国境ゲート

はじめに、グローバル協力センターの平山雄大先生から映像に出てくる街・地理の豆知識や映像内で注目すべきポイントの紹介があったので、ブータンの知識がなくても映像をよく理解することができました。

インドとブータンの人々は買い物や仕事などお互いの国を自由に行き来できるということだったのですが、国境に位置する門（国境ゲート）を境にインド側の町ジャイガオンとブータン側の町プンツォリンとで街並みがまったく違うということに驚きました。



高橋洋氏による解説

また仏教の振興が根強いブータンでは輪廻転生が強く信じられており、人々は殺生を好みません。踏まれそうな場所にいる虫を学生が助けるなど、ふとした場面でもそれが感じられました。そのため食肉などはインドから仕入れているようで、物流という点でも国境は重要な存在となっているようです。

高橋さんによる解説を受けて、山で採れた作物と平地で取れた作物の物々交換など交

易の面を考慮した国境の引き方になっているという説について考えたり、境目はあるものの日常生活から深く関わり合うインドとブータン両国の生活を覗いたりすることで、「国境の在り方」を深く考えることができました。

（生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳）

（3）2021 年度第 3 回ブータン連続セミナー

【概要】

日 時：2021 年 8 月 30 日（月） 14:00～16:00

題 目：「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ③

—『旅のチカラ』『幸せの国で、聖なる踊り USA（EXILE） ブータン王国」（2012 年）—

発表者：渡辺千衣子 氏（日本ブータン友好協会事務局長）

平山雄大（グローバル協力センター講師）

参加者：約 55 名

【参加学生による実施報告】

2021 年 8 月 30 日の第 3 回ブータン連続セミナーでは、日本ブータン友好協会事務局長の渡辺千衣子さんにご登壇いただきました。2012 年に放送された映像作品『旅のチカラ』『幸せの国で、聖なる踊りを USA（EXILE） ブータン王国』を鑑賞するうえで注目すべきポイントの説明とその鑑賞ののちに、渡辺さんによる解説や質疑応答が行われました。

映像作品では、ブータンの祭りで行われる「チャム」という神聖な仮面舞踊が中心に紹介

されていました。エンターテインメントとしての踊りなのではなく、見ている人や大切な人の幸せを祈る意味を持つものであることを学びました。チャムが特別な意味を持つことに対する出演者 USA (EXILE) の葛藤や、それを支える村人の温かさが垣間見え、ブータンの世界に引き込まれる作品でした。

また、観賞後の渡辺さんによる解説では、ブータン各地で行われている祭りや、あまり

注目されることのないブータンの東部と西部との文化的な違いに関する紹介がありました。

「渡辺さんならではの」の実体験に基づいた解説は、参加者からも好評でした。これまでのブータン連続セミナーよりも多様かつ多くの質問が寄せられ、充実した印象を受けました。



祭りの練習風景

寄せられ、今後のセミナーに活かすべきことが多く得られました。



ブータンの開発理念に関して

ブータン連続セミナーとしては初めての試みとなった参加者対象の事後アンケートでは、全回答者から、ブータンについての知識の有無に関わらず「楽しむことができた」との回答が寄せられました。「堅苦しくない雰囲気です質問がしやすかった」、「コロナ禍でブータンに行けない中でも前向きになれた」という声だけでなく、「ブータンでの良い面だけでなく、苦悩や問題についても知りたい」などの声も

(生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳)

【参加者からの感想・コメント（抜粋）】

- ・ 基本的な質問でも大丈夫という呼びかけを度々してくださるので、質問しやすいように感じる。
- ・ 参加者の方も含めてブータンを深く理解されている方が多く、有意義な会だった。
- ・ ブータンの実生活に即した情報を得られた。
- ・ ブータンの多様な面と、ブータンの方々の優しさが感じられて良かった。
- ・ 映像の視聴と解説の合体でとても分かりやすい。
- ・ 一般の方向けの題材だったため、ブータンについて知識がなくても楽しめた。
- ・ マスクダンスの踊りの意味と、あの踊りを支える足腰の鍛錬に感銘を受けた。
- ・ これまでの3回のセミナーでブータンの良い面について、特に仏教との関連から知ることができたが、国民の文化的・地理的な苦悩なども知ることができたら良いと思う。
- ・ ほのぼのとした雰囲気が好きなので、継続していただけると嬉しい。

- ・ ブータンに詳しい方も初心者も一緒に学べて嬉しい。
- ・ 平山先生やゲストの先生方の解説付きでブータンに関する映像を見られるのは、とても有難い。
- ・ 斜め 45 度くらいの切り口の意見を楽しみにしている。
- ・ 参考になる資料を提示してほしい。

(4) 2021 年度第 4 回ブータン連続セミナー

【概要】

日 時：2021 年 9 月 25 日（土） 14:00～16:00

題 目：「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ④

ー『ドキュメンタリーWAVE』「幸せの国の子どもたち ブータンからの報告」
(2012 年)ー

発表者：澤多加奈子 氏（元 JICA 青年海外協力隊／
島根県立隠岐島前高校女子寮ハウスマスター）
平山雄大（グローバル協力センター講師）

参加者：約 55 名

【参加学生による実施報告】

2021 年 9 月 25 日に開催された第 4 回ブータン連続セミナーでは、ブータンにまつわる映像作品『ドキュメンタリーWAVE』「幸せの国の子どもたち ブータンからの報告」の鑑賞及び解説・質疑応答が行われました。コメンテーターには、元 JICA 青年海外協力隊で、現在は島根県立隠岐島前高等学校の女子寮のハウスマスターをされている澤多加奈子さんにお越しいただきました。



小学校の朝礼風景

セミナー前半にグローバル協力センターの平山先生によって行われた勉強会では、主に映像作品に登場する地域やブータンの教育機関・教育制度に関して学びました。また、視聴にあたって注目すると良いポイントに関しても紹介いただきました。

その後、映像作品の視聴を通して、ブータン政府が推進する国民総幸福（Gross National Happiness: GNH）政策による特徴的な教育方針や、ユニセフをはじめとした国際機関による支援の状況を知ることができました。特に、校長先生が子どもを学校に通わせるよう親を説得しに行く様子や、学校に通う子どもたちの家での様子や通学風景が印象的でした。

セミナー後半では、コメンテーターとして登壇された澤多さんから、実際にブータン東部モンガル県にある学校で体育と美術を教えられていた経験をもとにしたお話を伺いました。



澤多氏による活動紹介

ブータンに暮らし人々と交流することで気づいた発見や、澤多さんの見た教育現場の現状と映像作品に出てきた状況との相違点に関して、多くの質問が寄せられました。

終了後も約 40 分に渡り澤多さんにお時間をいただき、男女間格差の実状、多言語国家でもあるブータンの言語分布、就学率と残存率（初等教育 1 年目に在籍した子どもが、特定の学年にどれくらい残っているか）などに

関して、活発な質疑応答が行われました。

参加者対象の事後アンケートには、「ネット上では情報の少ない地域のことが知れた」、「次回も今回のような穏やかな雰囲気ですミナーを受けられればと思う」、「ブータンが直面している問題点を知ることができた」などの感想が寄せられました。今後のセミナーに関しては、ブータンの国家財政、観光、言語状況などを掘り下げた内容を期待する声が寄せられました。

（生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳）

【参加者からの感想・コメント（抜粋）】

- ・ チャットなので随時気軽に質問を送ることができる。また、いつも丁寧に拾って答えてくださるので積極的に質問できる雰囲気があり、ありがたい。
- ・ ゲストの方のお話から教育現場で体感した生の声を聞けてすごく勉強になりました。
- ・ 現地に滞在している方や研究者の皆さま、澤多さんのようなゲストの方から、1 週間観光だけではわからなかった実態を毎回大変興味深く聞かせていただいている。
- ・ 最初の解説、映像、後半の質疑応答の組み合わせがとてもうまくできている。
- ・ 現地でボランティアをされた方のお話が大変印象に残りました。
- ・ 入ってきたときに主催の方々が和気藹々としていらっしやって、とても良い雰囲気のセミナーだと思いました。
- ・ 肩のこらない今の雰囲気がとても貴重だと思います。
- ・ 毎回様々なゲストの方がいらして多様な観点からブータンを学ぶことができるのが大変面白いので、今後とも是非いろいろなゲストの方を呼んでいただきたい。

（5）2021 年度第 5 回ブータン連続セミナー

【概要】

日 時：2021 年 10 月 23 日（土） 14:00～16:00

題 目：「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ⑤

—『ブータンが愛した日本人 向井理が見た、幸せの国のキセキ』（2018 年）—

発表者：高橋洋 氏（日本ブータン研究所研究員／『地球の歩き方 ブータン』編集者）
平山雄大（グローバル協力センター講師）

参加者：約 60 名

【参加学生による実施報告】

10 月 23 日に開催された第 5 回ブータン連続セミナーでは、日本ブータン研究所の研究員で、ガイドブック『地球の歩き方 ブータン』の編集者でもある高橋洋さんをコメンテーターにお招きし、2018 年 2 月にテレビで放送された『ブータンが愛した日本人 向井理が見た、幸せの国のキセキ』を鑑賞しました。

今回の映像作品では、「ブータン農業の父」と呼ばれる日本人の西岡京治氏について学びました。西岡氏は 1964 年に農業の専門家としてブータンに派遣されました。以降 1992 年に現地で亡くなるまで、作物の新品種の導入や農業の機会化・近代化、食品加工方法のアドバイスなど、多岐にわたってブータンの農業や地域の人々の暮らしを支え、変化をもたらし続けました。その功績を称え、ブータンで最も荣誉ある称号「ダショー」が国王から授けられたそうです。

西岡氏への感謝を込めて「西岡橋」と呼ばれる橋があったり「ニシオカボーイズ」というサッカーチームがあったりするといったストーリーからは、今も西岡氏が尊敬され続けているということが伺えました。



高橋洋氏による解説

後アンケートからは、チャットでの質問の仕方が分からないというかたが結構いらっしやるのが分かったので、必要に応じて説明をするなどの工夫を取り入れていく予定です。

また、今回はこれまでのセミナーに比べてお茶大生の参加が少なかったのが、次回以降、多くの学生に参加してもらえよう広報に力を入れていきたいと思っています。

（生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳）



平山講師による視聴映像紹介

観賞後の高橋さんによる解説・質疑応答では、西岡京治氏の話だけではなく、ブータンの地形や、民族衣装である「ゴ」（男性用）・「キラ」（女性用）のことも学ぶことができました。

ブータン連続セミナーでは毎回チャット欄にて質問や感想を受け付けていますが、今回はいつも以上に多くのかたが意見を送ってくださり、双方向の交流が感じられました。事

【参加者からの感想・コメント（抜粋）】

- ・ 楽しかった。講師と進行係の捌きが良く質問の回答も分かりやすかった。次回も期待しています。
- ・ 質問のやり取りで理解を深められた。肩のこらない今の雰囲気がとても貴重だと思います。
- ・ チャットで質問出来て、聞いている側も中断されず、文字で追え、わかりやすい。
- ・ 同様のセミナーを継続してほしい。
- ・ なかなか取り上げられない南部の話を知ることができた。
- ・ 一度行ったことがあるだけで、毎度いろいろな地域の話が出て理解が広がります。
- ・ 西岡京治氏について理解が深まった。
- ・ ブータンを知るには良い機会だと思いました。
- ・ ブータンに関する偏ったイメージを崩す内容を期待します。
- ・ ブータンならではの課題や、我々が世界観を理解しにくい仏教についても今後聞けるといいなと思います。

（6）2021 年度第 6 回ブータン連続セミナー

【概要】

日 時：2021 年 11 月 27 日（土） 14:00～16:00

題 目：「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ⑥

— 『Themes Around the World』「Bhutan, In Search of a Celestial Kingdom
Part 1. Road to Merak, an Uncharted Land / Part 2. Golden Langurs and
Black Yaks」（韓国・2014 年）—

発表者：石内良季 氏（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科一貫制博士課程）

平山雄大（グローバル協力センター講師）

参加者：約 60 名

【参加学生による実施報告】

2021 年 11 月 27 日の第 6 回ブータン連続セミナーには、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の石内良季さんにお越しいただきました。セミナーでは、ブータンにまつわる映像作品『Themes Around the World』「Bhutan, In Search of a Celestial Kingdom Part 1. Road to Merak, an Uncharted Land / Part 2. Golden Langurs and Black Yaks」の鑑賞及びその解説が行われました。この映像作品は、韓国で制作され 2014 年に放送された全編英語の番組でした。

今回は新しい試みとして、チャットの使い方が分からないかたへの説明も行いました。参加者を対象に行った事後アンケートでは、ブータンのことを知っているかどうかに関わら

ず、楽しめたという意見を回答者全員からいただくことができました。普段はあまり聞くことのできない研究の話、リアルな生活の話、また比較的取り上げられることの少ないブータン東部地方のことや海外の番組に着目していたことを高く評価してくださったかたも多かったです。

今後の改善点としては、まだ気軽に質問することができない参加者のかたがいることや、お茶大からの参加者が少ないということが挙げられます。他にも、セミナー後にもっと内容を深めたいかたへの参考文献・ウェブサイトの紹介や見逃し配信の希望もありました。



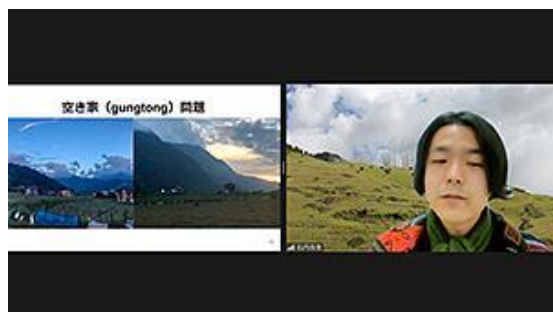
メラに関する説明

(生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳)

映像中の撮影クルーは、インドのアッサム州にあるグワハティからブータンを目指します。ブータン北部のゲートウェイと言われているサムドゥプ・ジョンカルからブータンに入国した一行は、そこからタシガン県のメラを訪れました。

撮影時期がブータンでは雨季に当たる 9 月だったこともあり、車での移動に苦戦している様子が映像からうかがえました。ひどいぬかるみや落石の中、雨に打たれながら車を移動させるシーンがありましたが、撮影クルーたちを手伝う現地の人たちはそんな状況も楽しんでいるような様子で、車が動き出すまで手厚くサポートしており、ブータンの人々の温かさが感じられました。

メラでの映像からは、人々とヤクの生活を知ることができました。ヤクとのふれあいの様子から、ブータンの人々はヤクに敬意を払い、文字通り「共生」していることが分かりました。このメラの人々の精神はとても尊いものだと思います。メラで暮らす人々は、ブータンの民族衣装として知られている「ゴ」・「キラ」とは別の民族衣装を着ており、ブータン国内の文化的多様性に関しても考えることができました。



石内氏による解説

石内さんには、主にブータンでの留学・研究調査のお話をさせていただきました。学生寮での生活は少しハプニングもあったようですが、写真を用いてお話いただいた内容からは、ブータンの学生と交流しながら楽しんで学ばれていた様子がうかがえました。また、空き家問題や村のお寺の維持など、現在のブータンで表出している問題についてご説明いただきました。「移動」に着目したブータン研究のお話は非常に興味深く、セミナー参加者からも好評でした。参加者からの質問にも丁寧に答えていただきました。

総じて、学びの多い充実したセミナーでした。

(文教育学部言語文化学科 1 年 山本愛理)

【参加者からの感想・コメント（抜粋）】

- ・ 映像ではブータン人の方々の暮らしのリアルを知ることができてありがたかった。石内さんのお話は学生目線のお話から「移動とブータン」のお話までどれも興味深かった。
- ・ 東の話はあまり聞かないのでとても興味深かったです。
- ・ Zoom での講演会を初めて経験させていただきました。気軽に参加でき、対面とはまた違った楽しさがありますね。
- ・ 映像とトークの組み合わせは、今のコロナ禍でのセミナーとして、とても有意義に思います。ここから現地に貢献できる余地はないのでしょうか？
- ・ 今回、視聴させていただいた映像が英語字幕、音声のものだったため、字幕を読むのに集中してしまった。英語に不慣れな自分自身がいけないのだが、楽しい映像だったので、日本語字幕などあれば、さらにリラックスして楽しめたのではないかと思います。
- ・ リアルなブータン情報は貴重でおもしろいです。
- ・ 開放的で、とてもよいセミナーだと思います。
- ・ 毎回とても楽しみにしています。関心を持つ一般の人にこのようなセミナーを参加しやすいオンライン形式で（しかも無料で）提供していただけていることは大変ありがたく感じています。各回のテーマ毎に「さらに一歩先に」進みたい人のためにブータン学会の研究成果への手引きとなる「文献案内」「ウェブサイト」などをご紹介いただけると嬉しいです。チャットで言及されるウェブサイトの URL 等はメモし忘れると後で参照できず残念に思うことがあったりしますので…。
- ・ 平山先生やコメンテーターの研究の成果の一端（簡単で結構です）をお聞かせいただけると、有難い。諸相をと言う点では OK ですが、「なるほど、そうか」感にややパンチが弱い気がしますので…。
- ・ 質問しやすい雰囲気がつくられている。
- ・ 見逃しや、時間の関係でアーカイブ配信があればと思います。

(7) 2021 年度第 7 回ブータン連続セミナー

【概要】

日 時：2021 年 12 月 25 日（土） 14:00～16:00

題 目：「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ⑦

— 『Themes Around the World』「Bhutan, In Search of a Celestial Kingdom Part 3. The Legend of Tiger's Nest Monastery / Part 4. Thimphu Tsechu, the Kingdom's Festival」（韓国・2014 年）—

発表者：石内良季 氏（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科一貫制博士課程）

平山雄大（グローバル協力センター講師）

参加者：約 50 名

【参加学生による実施報告】

今回視聴した映像では、ブータン東部の中心都市であるタシガンからコトカ、ガサ、パロ（タクツァン僧院）を経てプナカ（チミ・ラカン）、そして首都のティンブーをめぐる旅が映し出されました。

映像の中では、チベット仏教の寺院・僧院が紹介される場面が多くありました。タシガン・ゾンもそのひとつです。県庁と僧院を兼ねたこの建物は、周りの家屋よりも高い位置にそびえたっていました。建物の所々に施された緻密で色彩豊かな装飾はブータンの建築物によく見られるものですが、周りの景色とも相まってタシガン・ゾンをより神秘的なものに見せていました。映像の中には僧の姿も見られ、仏教がブータンの人々の心に根差していることが良く分かりました。



サブジ・バザールに関する説明

コトカでは、他の地域へ物資や人を運ぶためにケーブルカーが使われています。映像では雄大な自然の中をゆっくりと進む木製のケーブルカーを見ることができました。歴史を感じさせるケーブルカーは安全面で少し心配な部分もありますが、コトカの人々からは大切な交通手段として重宝されています。途中に停車駅は無く、乗客が降りたいところで止まるというおおらかさからも、ブータンのお国柄が伺えました。

映像の後半で紹介された首都ティンブーのサブジ・バザールは、正式名称を王制百周年記念市場といい、生鮮食品以外の食品も幅広く取り扱う大きな市場です。そこでは、商品の呼び方の違いからブータンの多言語社会の一面がうかがえました。また、ヤクの乾燥チーズなども紹介されました。食の視点からブータンの諸相について知ることができた新鮮な時間でした。



石内氏による解説

コメンテーターの石内さんにはまず、ブータンにチベット仏教を伝えた聖者グル・リンポチェを称える祭りであるツェチュについて、次にブータン社会の多言語状況についてお話をいただきました。

最初にツェチュに関して、ご自身がブータンに滞在されていたときに撮られた写真や資料を用いて分かりやすく説明してくださいました。ツェチュはブータン各地で毎年行われていますが、地方では踊り手不足が深刻で

人口が多い都市の方に助っ人を頼むところも少なくないそうです。思わぬところからブータンの地方都市の過疎化問題が浮き彫りになりました。

またブータン社会の多言語状況については、ブータンの人々は基本的に英語、ゾンカ語、ツァンラ語の3言語を話せる前提で生活基盤が作られていることを認識させられました。

今回も多く質問・コメントが寄せられ、1つ1つの質問に丁寧に答えていただきました。中でもブータンにおけるジェンダー観については様々な歴史的因子が関係しているようで、非常に興味深い議論が展開されました。

(文教育学部言語文化学科1年 山本愛理)

【参加者からの感想・コメント（抜粋）】

- ・ 現地の映像がたっぷり見られて興味深かったです。
- ・ 人数も多すぎず、活発に意見交換が行われており、さらにすべての質問を拾ってくださるので、聞きやすかったです。
- ・ 主催者の雰囲気作りがうまい。
- ・ 何回も行ったことがあるが、それでも未知のことはたくさんあり、研究者からお話が聞けるのは貴重な機会です。
- ・ 放送中での間違いは平山さんが指摘してくさるので、安心して聞けました。
- ・ ブータンのキリスト教の現状を聞いて、真新しい知識を得ることができた。
- ・ 予てからブータンには興味がありましたが、テレビなどでは中々取り上げられないので、大変良い機会になりました。
- ・ 初心者にもわかるよう映像についてひとつひとつ平山先生が解説してくさるので、とてもわかりやすかったです。
- ・ 映像使用によりイメージがつかみやすかった。解説もわかりやすい。
- ・ 今回が初参加でしたが、学びがとても多く、次回も本当に楽しみになりました。
- ・ 興味深いお話でした。知りたかったことだったので、大変面白かったです。
- ・ 貴重な資料・情報を惜しみなく提供してくさるのでとても勉強になり有難い。
- ・ ブータンのことが思い出され、また新たな気づきとなった。
- ・ 先生方にも丁寧に説明していただき、理解が深まりました。
- ・ 韓国のEBSの番組を選ぶという選択が適切でした。
- ・ 日本だけでなく、ブータンを紹介している海外の番組を紹介するのはとても良いと思う。

(8) 2021年度第8回ブータン連続セミナー

【概要】

日 時：2022年1月22日（土） 14:00～16:00

題 目：「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ⑧

—『BS世界のドキュメンタリー』「HAPPINESS ブータン・幸せの国の少年」

(2014 年) 一」

発表者：瀧原早紀子 氏（早稲田大学教育学部・学部生）

平山雄大（グローバル協力センター講師）

参加者：約 45 名

【参加学生による実施報告】

第 8 回ブータン連続セミナーでは、国際共同制作による「HAPPINESS ブータン・幸せの国の少年」を視聴しました。これは、ブータン北部でヤクを放牧して生活を営む少数民族ラヤッパとして育つ少年ペヤンキの成長物語です。

8 歳のペヤンキは家族とヤクと共に暮らすことを望みますが、家が貧しく学校にも通わせられないという理由で村の僧院に入れられ、修行に勤しむ日々が始まります。しかし、修行は厳しくまだ幼いペヤンキはしばしば僧院から抜け出し、自分は通えない学校の様子を見に行ったり、家族に会いに行っては僧院に戻ることを繰り返していました。

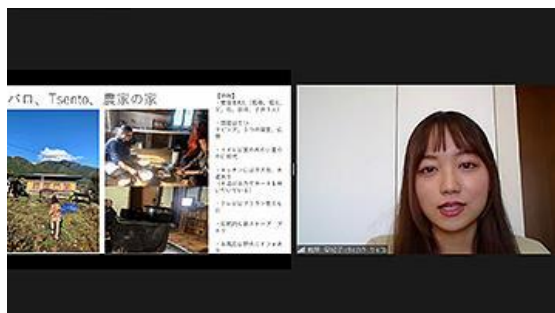


ラヤの学校

そうしているうちに村に電気が通り、ペヤンキはブータンの首都・ティンプーにテレビを買いに行く伯父について行くことになりました。自動車が走り、見たことのないお菓子やおもちゃに溢れた都会は、ペヤンキにとってすべてが新鮮でした。村の生活とはかけ離れた都会での暮らしぶりを目にし、ペヤンキはただただ驚くばかりでした。

ペヤンキの姉に会うこともティンプーへの旅の目的でしたが、役所で働いているはずの姉はいくら探しても見つかりませんでした。姉の友人を伝ってようやく探し当てた姉の居場所は、ナイトクラブでした。

映像の最後は、村に戻ったペヤンキが家族や近所の人たちと暗がりテレビを観るシーンで締めくくられています。テレビを観るペヤンキの表情には子どもらしいあどけなさや喜びはなく、ただその瞳にテレビが流す映像が映し出されていました。



瀧原氏による解説

ペヤンキに起こる数々の出来事を通して、「幸せとは何か」という問いをこの作品は視聴者に投げかけます。情報化が進んで便利になること、家族に迷惑をかけないこと、お金を稼ぐこと……。幸せの国で、ペヤンキはどんな人生を歩むのか。ブータンについて、幸せについて深く考えさせられる作品でした。

コメンテーターの瀧原早紀子さんには、ブータンに留学した経験をもとに、コロナ禍での人々の暮らしやご自身の留学生活について

お話しいただきました。

人々の暮らしについては、ロックダウン前と後のブータンの様子の変化や街での感染対策など、人々がどのようにコロナに向き合ってきたかを事細かにお話しいただきました。また、ご自身の留学生活についても寮での生活やホームステイ先の様子を写真とともに分かりやすく説明していただきました。住む場所や所得の違いによってブータンの人々の暮らしも様々であることが良く分かりました。参加者にとって非常に興味深い内容で、たくさんの質問・コメントにも丁寧に回答いただきました。

ブータンについて深く思いを馳せることができたセミナーでした。

(文教育学部言語文化学科 1 年 山本愛理)

【参加者からの感想・コメント (抜粋)】

- ・ チャットで気軽に質問ができて嬉しいです。平山先生を中心に皆さんすぐにレスを下さるのでつuitたくさん質問してしまいます。
- ・ 主催者の雰囲気づくりとセミナーのすすめ方がうまい。
- ・ 実際に、ブータンに留学した方の話が聞けて興味深かった。
- ・ 最初の解説が映像を視聴する観点を示してくれるので、漫然と見るのではなく、考えながら見ることができました。事前の解説はとても分かりやすく、有効です。瀧原さんの報告もパンデミック以降のブータンの様子がわかり、興味深かったです。
- ・ 僧院は信仰心の強い親が入れるものだと思っていたが、実際は経済的な理由で（言い過ぎかもしれないが児童養護施設のように）預ける親もいるのだと知った。信仰者を助けるという意味では僧院が貧困家庭の子どもの担い手として機能しているのは道理にかなっているかもしれないが、その子どもが将来僧侶として職務を全うできるのかは疑問だと思った。
- ・ 瀧原さんの体験談として、ブータンへの留学生はヨーロッパの学生がほとんど、アジアはベトナムからのみと伺った。出稼ぎを受け入れているタイ、経済的に繋がりの深いインド、地理的に近く一部民族と文化の近いチベットやネパールの人たちにとって、ブータンはどのような位置付けなのか気になった。

(9) 2021 年度第 9 回ブータン連続セミナー

【概要】

日 時：2022 年 2 月 26 日（土） 14:00～16:00

題 目：「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ⑨

—『ベスト・オブ・ドキュメント』『アジア・モナーク 君主制の過去と未来 ブータン編』（2012 年）—

発表者：平山雄大（グローバル協力センター講師）

参加者：約 50 名

【参加学生による実施報告】

今回のブータン連続セミナーでは、Real Royalty 制作の『Asia's Monarchies』『The Magnificent History Of Bhutan's Royal Family』を視聴しました。タイトルの通り映像はブータンの王室、君主制に関するものでしたが、特にその「裏」の部分に焦点を当てた珍しい内容でした。

セミナー前半では、歴代王国の功績を辿りながら、今まであまり語られてこなかった政策の背景や、彼らを取り巻く陰謀・権力闘争について、研究者やブータンにおいて重要なポストにつく方々のインタビューと共に明かされていきました。

歴代の国王がブータンの人々の心を掴み、これまで統治を続けてこられた理由のひとつ

に、仏教信仰の利用があったそうです。映像の中では、自分自身を仏と結びつけることによって「国王は崇拜の対象」という概念を人々の心に植え付け、従うように仕向けた…といったお話や、国民の敬愛を集めるために、ブータンの建国の父を連想させるワタリガラスを王冠にあしらった…といったお話も出てきました。

また、国を統治していく上で障壁となるものは容赦なく排除していったそうです。「幸せの国」として名高いブータンですが、実は、幸せとは程遠い陰謀や権力闘争が渦巻いていたのかもしれません。ブータンの裏側に迫った珍しい映像資料は、様々な犠牲の上に「幸せの国」があることを教えてくれました。



ワンデュチョリン・ゾン

について触れられている 150 年以上前の資料からは彼とイギリスの友好関係が読み取れ、彼が国内随一の実力者となっていく背景を考察することができるとのことでした。

また、歴史の真実を明らかにする資料の収集に熱心な先生は、遠い昔に撮影された初代国王の写真の撮影場所を、時代背景や背後に写っている壁の細かな特徴から特定されていました。正確な撮影場所を明らかにするためにワンデュチョリン・ゾンと呼ばれる建物の内壁を一日中調査していたこともあるそうで、研究熱心な先生の興味深いお話が聞けました。

歴代国王



歴代の国王

セミナー後半には、コメンテーターの平山雄大先生から、イギリスのブータンに関する資料や初代国王の写真から読み取れる王室の情報についてご解説いただきました。

平山先生によると、ブータン王国の成り立ちを知るためには、初代国王ウゲン・ワンチュクの父親であるジグメ・ナムゲルについて理解する必要があります。ジグメ・ナグメル

ブータンの裏側や知られざるエピソードに触れられた貴重な回となりました。

(文教育学部言語文化学科 1 年 山本愛理)

【参加者からの感想・コメント (抜粋)】

- ・ 主催者が質問しやすい雰囲気をつくってくれている。
- ・ 毎回とても勉強になります。平山先生のブータン愛溢れる話、非常に興味深いです。
- ・ チャット機能を活用されていて、随時取り上げておられ、解説がとても丁寧で詳しい。
- ・ 平山先生は初歩的な質問に対しても懇切丁寧に答えてくださり、大変質問しやすい雰囲気でありがたいです。
- ・ はじめに見どころ（セリフの抜き書き）を示してもらったのでわかりやすかった。
- ・ イギリスからの攻めたコメント、興味深いものでした。平山先生が言われたように、色々な角度から見ることは大切だと思いました。
- ・ 動画、写真を活用し、かつ解説が面白かった。
- ・ ブータンに興味があるので毎回楽しめています。平山先生の熱量にも毎回感動しています。
- ・ 王家を中心としたブータン史は知っているようで知らなかった。
- ・ 平山先生の解説を含め、歴史ドキュメンタリーを見ているかのような、大変面白い内容でした。
- ・ ブータンではこれまでに様々な権力闘争があったと知って、本当に驚きました。また、民主主義より王政を望んでいる人がいることにも驚かされました。
- ・ たまたま知りましたが、興味深いセミナーだと思いました。
- ・ とても興味深く、楽しめました。ありがとうございました。今まで日程の関係で出席できておらず残念&事前知識が少ないので、毎回小まとめのものがあると嬉しいです。
- ・ いつも大変興味深い内容で、毎回違った方面からブータンについて教えて頂き、大変勉強になりました（私のような何も知らない者が参加していいのかともいつも思っています）。残すところあと 1 回かと思うと、本当に名残惜しいです。何らかの形でまた是非続けて頂きたいと思っています。映像を見てお話を聞いているうちにすっかりブータンに魅了され、行ってみたくくなりました。
- ・ ブータン人で初めてイギリスに留学したかただという第 3 代国王妃アジ・ケサンについて、知りたいです。お茶大の学生にはとても興味深いのではないかと思います。

(10) 2021 年度第 10 回ブータン連続セミナー

【概要】

日 時：2022 年 3 月 26 日（土） 14:00～16:00

題 目：「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ ⑩

—『NHK 海外取材番組 小さな国々』第 5 集 ヒマラヤの秘境ブータン(1967

年) 他一」

発表者：平山雄大（グローバル協力センター講師）

参加者：約 50 名

【参加学生による実施報告】

2022 年 3 月 26 日、今年最終回となった第 10 回ブータン連続セミナーでは、『NHK 特派員報告』『秘境の戴冠式 ブータン』（1974 年）と『NHK 海外取材番組』『小さな国々 第 5 集 ヒマラヤの秘境ブータン』（1967 年）を鑑賞しました。



視聴した映像の紹介

は学生の留学費用もすべて国が負担していたそうです。

コロボ計画で日本からブータンに派遣された農業技術者の西岡京治さんに関しては、どちらの映像作品でも取り上げられており、改めてその存在感の強さを感じました。外貨を稼ぐ策がなく外国からの援助への依存度が高いままだという当時の状況において、野菜を作ってインドに輸出することこそが経済発展の一番の近道だと考えた西岡さんは、集約農業の導入や稲の品質改良を行いブータンの開発に大きく貢献されました。これまでのセミナーでも何回も名前が挙がった人物ですが、今回は、当時の農業事業の様子とともに、皇太后（第 3 代国王妃）との交流の様子なども見ることができ新鮮でした。

1960～1970年代前半の主な出来事

1961年	インドの全面的支援のもと第1次5ヵ年計画（国家開発計画）開始
1962年	ブツォリン・ティンブー間自動車道路開通 コロボ計画開始
1964年	ジグメ・ナルデン・ドルジギヤル学校 東郷文彦・いせ 夫妻が訪布
1965年	ティンブー・パブリック・スクール（現・ヤンチェンブーHSS）開校 西岡京治・金子 夫妻が赴任
1966年	第2次5ヵ年計画開始
1967年	ブータン銀行設立／教員養成校（現・王立ブータン大学サムツェ教育カレッジ）開校
1968年	インディラ・カンデー2回目の訪布
1969年	万国郵便連合加盟
1971年	計画委員会設置 第3次5ヵ年計画開始 国連加盟
1972年	第3代国王崩御／第4代国王即位
1974年	第4代国王戴冠式 ブータン初の気象観測所設置 外国人観光客受入開始

平山先生による解説

質疑応答の時間では、チャットに寄せられた質問や感想を共有しました。平山先生だけでなく参加者の方からも考察をいただき、双方向の交流会となったように思います。

セミナーの前半ではこれら 2 つの映像作品を鑑賞し、ブータンの前国王（第 4 代国王）の戴冠式や当時の国会、農場、学校などについて、また空港建設やタシチョ・ゾンと呼ばれる建物の改修の様子を学びました。

特に、学費がすべて国によって賄われてい

たティンブー・パブリック・スクールの様子はとても興味深かったです。教育が国づくりの第一歩という考えから、当時のブータンで

セミナー後半には、映像内のナレーションの秀逸さや表現の気になる部分、また、戴冠式に関するインドの公式記録映像と日本の映像の内容の違いなどについて平山雄大先生から解説いただきました。参加者の皆さまが観賞中に気になっていたことを、この時間にスッキリさせることができたのではないのでしょうか。時間が足りなくなるほど、たくさんのトピックが挙げられました。

参加者を対象にした事後アンケートには、「初心者向けの説明がわかりやすかった」、「現在の様子だけでなく歴史がいきいきと感じられた」、「映像を見た上での解説・説明だったのでわかりやすかった」といった声が寄せられました。

今年度のブータン連続セミナーは最終回となりましたが、アンケートへの回答をはじめとした参加者の皆さまの声のおかげで小さな改良を重ね、良いセミナーを作り上げられたと感じています。この 1 年間、セミナーに関わってくださった皆さまに心より感謝いたします。

来年度もブータン連続セミナーは開催されますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(生活科学部心理学科 1 年 山島凜佳)

【参加者からの感想・コメント（抜粋）】

- ・ どんなに初歩的な素朴な疑問に対しても、先生が一つ一つ丁寧に答えてくださるので、とても質問しやすいです。
- ・ 毎回新たな情報を得られて楽しい。
- ・ いろんな方達からの見方が聞け、新たな発見になる。
- ・ これまで詳しく知ることがほとんどなかったブータンについて、毎回様々な映像を通して知ることができるので、大変楽しいです。
- ・ ドキュメンタリーを通じて昔のブータンの生の姿を拝見できてよかったです。
- ・ 当時の様子が理解出来ました。
- ・ 戴冠式で、インドに断りなく、中国代表を招いたとコメントしていたところが印象深かったです。
- ・ 毎回興味深いセミナーをありがとうございます。来年も楽しみにしております。
- ・ 来年度のセミナーにも期待しています。
- ・ 直接お会いできないのは寂しいですが、オンライン形式は遠い方も気軽に参加できて、とても良いと思います。この調子で頑張ってくださいね。
- ・ 毎回興味深い映像、コメント有難うございます。
- ・ ブータンについて何も知りませんが、セミナーに参加するとブータンのことが少しわかるようになり、興味が持てます。
- ・ ありがとうございました。2022 年度の講座も楽しみにしています。
- ・ いつも大変興味深く拝見しています（ハマってしまったと言えるかもしれません）。平山先生、是非「桜蔭塾」でもお話し頂きたく存じます。
- ・ 来年度も続けられるとのこと大変うれしく思っています。

2. 4 「国際共生社会論実習・同フィールド実習」スタディツアー座談会

グローバル協力センターでは、学部・学年を問わず開発途上国の社会・経済・政治や国際

協力に関心を有する学生（学部生及び博士前期課程の大学院生）を対象とし、スタディツアーを実施してきた。2019年度までに160名の学生が参加し、開発途上国における研究・実践を有する教員の指導のもとで事前学習と現地実習を通して現場に根差した学習を行っている。

2020年度及び2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止しているが、スタディツアー再開を見据えて、2021年11月19日（金）と11月30日（火）に2019年度にネパール及びカンボジアでのスタディツアーに参加した学生とスタディツアーに関心を有する学生との座談会を実施した。

【概要】

日 時：2021年11月19日（金）・11月30日（火） 12:20～13:00

場 所：文教育学部1号館第一会議室

参加者：17名



平山講師による企画概要紹介



座談会の様子

3. 途上国研究・国際協力分野海外調査支援

(1) 実施概要

【目的】

「グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成—女性の役割を見据えた知の連携—」事業の一環として、本学大学院博士課程（前期・後期）の学生による途上国研究、国際協力に関する現場に根ざした調査研究を支援するため、公募により選定された海外調査への支援を行う。

本事業は、以下の2つからなる。

- ① 「グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成—女性の役割を見据えた知の連携—」事業の一環として、2011年度から実施している海外調査支援。
- ② 本学卒業生の故野々山恵美子様の遺贈により、アフガニスタンをはじめとする困難な状況にある開発途上国を対象とした調査、研究、実践のために設立された「アフガニスタン・開発途上国女子教育支援事業野々山基金」事業の一環として、2013年度より実施している開発途上国における女子教育分野の海外調査支援。

【対象分野】

- ① 国連・持続可能な開発目標（SDGs）の17ゴールに関連するテーマ（「グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成—女性の役割を見据えた知の連携—」）
- ② 開発途上国の女子教育、基礎教育、ノンフォーマル教育に関連するテーマ（「アフガニスタン・開発途上国女子教育支援事業野々山基金」）

【支援内容】

20万円を上限として、航空運賃、ビザ代、予防接種代、海外の調査地での宿泊費、その他グローバル協力センターが必要と認める費用を本学及びグローバル協力センターの規定に基づき支給する。これらの費用の総額が20万円未満の場合は実費を、20万円以上の場合には20万円を支給する。

また、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い海外渡航が困難な状況であることを考慮して、国内で活動している国際協力団体へのヒアリング調査、インターネットを活用したオンライン学術調査や研究交流等の実践を含む研究計画の申請も受け付けることとした。

(2) 今年度の募集と選考結果

【募集時期】

2021年5月19日（水）～6月16日（水）

2021 年 10 月 15 日（金）～11 月 12 日（金）

【選考結果】

① 国連・持続可能な開発目標（SDGs）の 17 ゴールに関連するテーマ

応募者：3 名、採択者：3 名

氏名	苗苗
所属	人間発達科学専攻 M2
テーマ	日中若年層の家事労働における性役割意識とライフスタイルの比較研究—家事労働を左右する諸条件を中心に—
調査国・都市	中国（西安市）
調査時期	9 月 15 日～9 月 30 日（現地での隔離期間：9 月 1 日～14 日）

氏名	佐々木幸子
所属	比較社会文化学専攻 M1
テーマ	フランス在住継承日本語学習児へ向けたオンライン日本語クラス実践のための現地教育機関実態調査及び調査対象児・保護者を対象としたニーズ・レディネス調査
調査国・都市	フランス（リール）
調査時期	※2022 年 3 月 6 日～3 月 12 日を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から実施できず、次年度に実施することとなった。

氏名	侯ティ玉
所属	ジェンダー学際研究専攻 D1
テーマ	市民社会の視点から見たミャンマーの経済特区における日本の ODA 政策と中国の「一帯一路」構想の実践に対する比較について
調査国・都市	タイ（メーソート、バンコク）
調査時期	2022 年 2 月 13 日～2 月 24 日

② 開発途上国の女子教育、基礎教育、ノンフォーマル教育に関連するテーマ

応募者：0 名、採択者：0 名

4. 大学間連携イベント

4.1 2021 年度第 9 回 NPO 活動紹介セミナー

今年度計 10 回実施した 2021 年度 NPO 活動紹介セミナーのうち、第 9 回セミナーについては、大学間連携イベントの一環として奈良女子大学生の参加を得、セミナー終了後には STUDY FOR TWO お茶の水女子大学支部と奈良女子大学支部との交流会を行った。

※2021 年度第 9 回 NPO 活動紹介セミナーの内容については、**2. 2 2021 年度 NPO 活動紹介セミナー**（p.33～）を参照。

4.2 第 14 回・第 16 回・第 17 回持続可能な開発目標(SDGs)セミナー

今年度計 8 回実施した持続可能な開発目標 (SDGs) セミナーのうち、第 14 回・第 16 回・第 17 回セミナーについては、大学間連携イベントの一環として奈良女子大学生の参加を得た。

※第 14 回・第 16 回・第 17 回持続可能な開発目標 (SDGs) セミナーの内容については、**2. 1 持続可能な開発目標(SDGs)セミナー**（p.23～）を参照。

4.3 「難民アシスタント養成講座 42 期」参加者意見交換会

グローバル協力センターでは、国際協力や平和構築等「共に生きる」社会に関する学生の自主的な学習・活動を支援している。

2021 年 11 月 26 日（金）に、グローバル協力センターの支援を受けて認定 NPO 法人難民支援協会主催「難民アシスタント養成講座 42 期」（開催：2021 年 10 月 30 日及び 11 月 6 日）を受講したお茶の水女子大学生 7 名と奈良女子大学生 1 名による意見交換会を、大学間連携イベントとして実施した。



意見交換会の様子

意見交換会では、同講座の参加を通して

「日本国内の難民の方が直面している困難に触れ、現状を知り、問題を身近に感じることができた」、「『事実』ではなく、『人』の感情を聞くことができた」、「日本に暮らす一員として無知なのはいけないだろうと感じた」、「国際問題を国内問題としてとらえることができた」、「『まずは知ること』から輪を広げて問題解決に向けてアクションを起こせたら良い」等の意見が交わされた。30 分と短い時間の中での意見交換会だったが、学生それぞれの次なるアクションに向けた機会となった。

【概要】

日 時：2021 年 11 月 26 日（金） 12:20～13:00

形 式：オンライン（Zoom）

参加者：お茶の水女子大学生 7 名

奈良女子大学生 1 名

※難民アシスタント養成講座 42 期の内容については、**5. 3 難民アシスタント養成講座 42 期への参加支援**（p.74～）を参照。

4. 4 国際協力ボランティアを知ろう@オンライン

本企画は、国際協力ボランティアの役割や草の根の国際協力の在りかたを考えることを目指し、お茶の水女子大学と奈良女子大学による大学間連携イベントとして実施した。これまで JICA 二本松青年海外協力隊訓練所に訪問していたもののオンライン版で、実施にあたっては JICA 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所の協力を得た。参加申込はお茶の水女子大学生 8 名、奈良女子大学生 1 名であった。

当日はまず、海外協力隊としてコスタリカで野球指導をされていた方とコロンビアで皮革工芸の指導をされていた方から、JICA ボランティア事業の概要及び海外協力隊としての活動の体験談を伺った。現地での生活、活動中の悩みや葛藤、工夫等に関して写真や映像を交えてご説明いただき、国際協力ボランティアの意義に加え、活動を行ううえでの異文化理解・他者理解の重要性等に関しても考える時間となった。

後半は、これから任地に派遣される訓練生・特別派遣前訓練中の隊員の方々 3 名へのインタビュー（海外協力隊に応募した理由、合格するために準備したこと等）を行った後、「女性のキャリア」・「インタビュー内容を深掘り」の 2 グループに分かれて、座談会を 2 セッション行った。座談会では、任地での住まいや食事の実状、JICA によるバックアップ体制、印象に残っている出来事、帰国後のキャリアプラン等に関して、活発な質疑応答が行われた。

【概要】

日 時：2021 年 12 月 11 日（土） 13:00～15:00

形 式：オンライン（Zoom）

内 容：JICA ボランティア事業に関する講義

海外協力隊参加者による体験談

訓練生・特別派遣前訓練中の隊員の方々へのインタビュー

海外協力隊参加者、訓練生・特別派遣前訓練中の隊員の方々との座談会

参加者：お茶の水女子大学生 8 名

奈良女子大学生 1 名



海外協力隊参加者による体験談



座談会の様子

5. 「共に生きる」スタディグループの活動

5.1 「共に生きる」スタディグループ説明会の実施

「共に生きる」スタディグループとは、グローバル協力センターがその活動を支援する、国際協力や平和構築に関心を持ち「共に生きる」社会について自主的に学習・活動する学生のグループである。メンバーは、グローバル協力センターやメンバー有志が企画したイベントやセミナーに、それぞれの関心に応じて参加することができる。

グローバル協力センターでは、新入生等を対象とした「共に生きる」スタディグループ説明会を毎年実施しており、今年度はオンラインにて5月27日（木）に実施した。冒頭、グローバル協力センターの活動及び「共に生きる」スタディグループの概要に関する説明を行い、その後実際に学生自主活動を行っている STUDY FOR TWO お茶の水女子大学支部のメンバー6名に活動紹介をしてもらった。同メンバーからは STUDY FOR TWO の理念や支援の仕組み、活動の成果等についてリレー形式で説明があり、参加者からは具体的な活動内容に関して質問が寄せられた。

【概要】

日 時：2021年5月27日（木） 12:30～13:00

形 式：オンライン（Zoom）

内 容：「共に生きる」スタディグループに関する概要説明

国際協力活動に取り組む学生団体（STUDY FOR TWO お茶大支部）の活動紹介

参加者：11名



平山講師による概要説明



STUDY FOR TWO お茶大支部の活動紹介

5.2 学生自主活動の支援

学生自主活動に関しては、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で制約を受けることとなったが、STUDY FOR TWO お茶の水女子大学支部はコロナ禍においても工夫して活動を行い、12月には対面での教科書販売を実施した。

【STUDY FOR TWO お茶の水女子大学支部 2021 年度活動報告】

STUDY FOR TWO は、「勉強したいと願うすべての子どもたちが勉強できる世界に」、「大学の教科書をより安価に購入できることが当たり前の世界に」という活動理念を掲げています。この理念のもと、大学生から使い終えた教科書を寄付していただき、安価に再販売して生まれた利益の 80%以上を途上国の子どもたちの教育支援に充てています。



オンラインミーティングの様子

お茶大支部は 2012 年より「共に生きる」スタディグループの一員として学内で活動しており、今年で 10 年目を迎えます。現在は 1 年生から 4 年生まで計 22 名で主にオンラインで活動しています。今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響で活動が制限されてしまう時期もありましたが、昨年度の経験を活かしながら、さらなる成長を目指して支部員一人ひとりができることを積み重ねてまいりました。



販売した教科書

私たちは、現在、学内と学生寮の合計 6 か所に設置しているボックスに使い終えた教科書や書籍を入れていただく形で、お茶大生の皆さまにたくさんの寄付をいただいています。後期には少しずつ対面授業も増え、入構の際に教科書・書籍を寄付してくださったお茶大生の皆さまには心より感謝申し上げます。今年度は昨年度に引き続き、寄付していただいた教科書を学期初めにオンライン・郵送で販売いたしました。また、12 月には新型コロナウイルスの感染拡大状況が落ち着き、2 年ぶりに対面での販売を行うことができました。参考書に限った販売とはなりましたが、多くのお茶大生の皆さまにお立ち寄りいただき、ご購入いただいた方々に直接お礼をお伝え出来ることの喜びを実感いたしました。

今年度は、春の教科書販売で 5 万 8,110 円、秋の教科書販売で 6 万 8,800 円、冬の参考書販売で 1 万 1,340 円を売り上げることができました。また、秋の教科書販売では、全国に 43 支部（2021 年 6 月時点）ある中で 4 位、関東地区 1 位の実績を上げることができました。これはすべて、STUDY FOR TWO の理念にご賛同いただき、ご寄付やご購入・公式 SNS へのリアクションなど、お茶大生の皆さまの様々な形でのご協力があったことです。本当にありがとうございます。



12 月の対面販売の様子

これからも、お茶大生の皆さまに国際協力を身近に感じていただくと共に、STUDY FOR TWO が、皆さまが教科書を購入する際の選択肢のひとつであり続けられるよう活動してまいります。そのために、まずは支部員一人ひとりが自分自身のために活動に目的意識をもって参加し成長し続ける所存です。“FOR ME, FOR TWO”、それが私たちの目指す場所です。最後になりますが、私たちの活動にご理解・ご協力くださるお茶大生の皆さま、支えてくださるすべての方々に改めて感謝申し上げます。今後とも、STUDY FOR TWO お茶大支部をどうぞよろしくお願いいたします。

(STUDY FOR TWO お茶大支部代表／生活科学部食物栄養学科 2 年 小野春香)

5.3 難民アシスタント養成講座 42 期への参加支援

「共に生きる」スタディグループは、お茶の水女子大学生（OCHA）が難民問題（NAN）にアクションを起こすために 2016 年から活動をスタートした学生グループ OCHANAN を支援している。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け活動は休止しているが、活動の再開に繋げるため、難民問題に関心を有する学生の、難民支援協会主催「難民アシスタント養成講座 42 期」への参加を支援した。同活動は奈良女子大学との大学間連携イベントの一環としても実施し、受講後には参加者間の意見交換会を行った。

【概要】

日 時：2021 年 10 月 30 日（土）・11 月 6 日（土） 9:30～17:30

形 式：オンライン（Zoom）

参加者：お茶の水女子大学生 7 名

奈良女子大学生 1 名

【参加学生による実施報告】

去年放送された『MIU404』というドラマで、移民問題がテーマとなっていた。ドラマの登場人物の移民の女性が、「（日本が）欲しいのは、文句ない、言わない、お金かからない、働くロボット！」と涙ながらに訴えていたのを見て、私もとても苦しく感じた。また今年の 3 月には名古屋の収容施設でスリランカ出身の女性が残酷な扱いを受けて亡くなった。そこから日本人は外国人に対して根本的にとても差別的な視点を持っているのではないかと感じ、移民問題や難民問題に興味、というよりも「知らなければならない」という気持ちが湧き、難民アシスタント養成講座に参加した。

難民アシスタント養成講座では、難民の方々を第一線の現場で心から支援している方々のお話を聞くことができた。また、実際に難民申請をしている方々が日本の入管でどれほど非人道的な扱いを受けているのかを知った。「家族と一緒に過ごさせない」とか「生活に必要なものを取り上げる・与えない」とか、どうして同じ人間なのにこれほどまでに醜悪なことができるのだろう、と強い憤りを感じた。日本では女性差別やジェンダー不平等などが著

しいが、それ以上にもっと根強く時代錯誤な（戦前の特高警察の体制を引きずる）差別があるのだ、祖国から逃れて暮らさざるをえない・帰る場所がないという弱い立場の人に対して、不寛容な法と権力を振りかざして排除しようとする人々がいるのだということが分かった。

そしてそれについて知らずにのうのうと過ごしていた自分が恥ずかしくなった。難民支援を続けている弁護士、ボランティアの方々のお話を聞いて、「難民」に対してぼんやりとしたイメージ（移民と難民をごっちゃにして考えたいし、難民＝貧しい人？となんとなく思っていた。しかしそんなことはなく、祖国から逃げざるを得なかった人々なのだった）しか持っていなかったと気づいた。さらに、難民支援は全く簡単なことではないのだと本講座のボランティアの事例などを聞いて理解した。「難民」と一括りにして「支援しなきゃ！」と考えるのではなく、難民支援に携わっている方々は、「難民」という言葉の先にある一人ひとりの人生がより良くなるように覚悟を持って真摯に向き合っているのだと分かった。当たり前なことなのだが、私はこの講座を受ける前はそれに気づけていなかった。

最後の時間のグループディスカッションで多様な経験を持つ方々とお話した。そこでお話したように、難民の方々と接する機会は少ない（日本社会から孤立せざるを得ない構造になっている、というのが大きな要因だと思う）ため、自ら進んで「さぼうと 21」などのボランティアに携わっていきたいと感じた。

（文教育学部言語文化学科 1 年 三木香花）

この秋 2 日間にわたって難民アシスタント養成講座を受講した。私が本講座に参加した理由は、難民について基礎的な知識を身につけたいと思ったためである。幼い頃からニュースや新聞などで難民という言葉を目にしていた。しかし、いつかはきちんと学ばなければと思いつつも学校の授業で詳しく学ぶこともなく、また難民を身近な存在として捉えることができなかったこともあり、あまり知識を持たずにここまで来てしまっていた。今回大学からの案内で難民に関する講座があると知り、良い機会だと感じ参加した。

講座では現在の難民を取り巻く世界及び日本の状況や日本の難民申請制度、難民申請中もしくは滞在許可が下りた後の支援などについて、難民支援に携わっている難民支援協会の方や弁護士の方などから学んだ。私が講義の中で印象に残っていることは 2 つある。1 つ目は日本の難民認定があまりにも厳しいことだ。今の日本では難民である人が難民として認められていない状況があると知った。そういった人たちが祖国に送り返されてしまえば、命の危険を感じながら国に留まらざるを得ない。講義の中では難民に関するスペシャリストが難民認定を行うべきだという話があったが、私もその通りだと感じた。彼らは日本を選んで渡航してきたわけではなく、日本しか選択肢がなかったために日本に来たのである。確かに難民申請を悪用する者もいるのだろうが、難民を難民として認められない状況は改善すべきだろう。また難民申請中の人収容されるなどして多くの自由が奪われていることも知り、非常に心が痛んだ。2 つ目は少し具体的ではあるが、難民の方を支援しようとした際に大使館に連絡をしてはいけないということだ。私にとって大使館というのは異国の地

にいる際に頼れる機関である。考えてみれば当たり前のことであるが、祖国から逃げてきた難民にとって大使館は自分の命を狙っている政府が運営している施設であり、頼ることは出来ないのだ。また講義を通じ、今の日本では公の場で現政権に批判的な意見を述べる事が可能であり、その発言によって国から命を狙われることもないが、それは幸せなことであると実感した。

講義 2 日目の最後に他の受講生と交流し社会や自分ができるアクションを考える機会があった。私は同じく大学 1 年生の受講生 2 人と社会人の受講生 1 人と話をした。彼らはすでに難民に関心を持ち交流の機会を持ったり勉強会に参加したりするなど精力的に活動していた。話をしているうちに、私はまだまだ知識不足で難民申請に関して支援することは出来ないかもしれないが、難民として認定された方や在留許可を得て日本で暮らしている方々の生活を支援することならできると感じた。そのため、私は難民問題を自分事としてとらえその知識を増やすこと、そしてまずは自分の地域にサポートグループがないかを探し参加してみようと思っている。社会人になった折には寄付など支援できる手段が増えるが、それらも検討しながら少しでも難民支援に携わっていきたい。

(生活科学部人間生活学科 1 年 溝部萌佳)

日本難民協会の方、異議申し立ての裁判で弁護士をしていらっしゃる方、難民の方等の話を伺った。難民受け入れの現状や難民申請、支援団体の活動等について知ることができた。

一番印象に残ったのは、弁護士の方々のお話だった。実際に現場の様子を知る方々の言葉は力強く、実際のクライアントのストーリーからも、臨場感をもって現状を知ることができた。他国では難民申請をした 40%前後が認定を受けているのに対し、日本では 0.5%のみと極端に少ない。その原因の一つが書類だという。基本情報でさえも、恐怖や緊張の中で書けなくなる人もしばしばいるそうだ。思い出すのも苦しいことを書くのだから、相当苦しいだろう。また、このような危機的状況では証明書類を持っていることも少ない。それを更に翻訳しなければならないというのだ。弁護士の先生方の「まず依頼者に生きていてもらうことからだ」というお言葉も衝撃的だった。収容施設の環境や言語の問題、いつ結果が出るかもわからない上に認定されにくいこと、不認定の理由がわからないことなど、収容されている難民の方々は苦しい思いをしているということだ。聴取も録音できないなど、弁護士も救いきれない部分も多いという。これ以上ここで苦しむくらいなら祖国で殺された方がいいと思うほどで、再申請や異議申し立てを諦めてしまう人も多いという。一番驚いたのは、難民申請関連の審査は、全て出入国在留管理庁が進めているということだ。難民認定の再申請も、唯一の救済手段の仮釈放も、判断するのは同じ機関である。これが最大の問題だと感じた。

最後のグループディスカッションでは、5 人で自分たちにどんなことができるかを考え、何をするかの宣言をした。その班内でも、性別も年齢も立場も様々で、同級生と話すことの多い私にとっては貴重な機会だった。実際に企業で難民の方への雇用や寄付を提案する、という案もあり、実際に行動を起こすことができる社会人の方をととても尊敬した。

今の自分にまずできることは、現状を正しく知ることだと思う。今回の講座では、私の知らない現実ばかりを目の当たりにし、自身の無知さに愕然とした。日本の難民保護の問題も漠然とは知っていたが、今回の講座で深刻な一面を知ることができた。マスメディア等で得る表面的な情報だけではなく、当事者から聞く深い経験談など、多角的な視点で情報を得ることは非常に大切だと実感した。そして、周りには真剣に意見交換できる存在が多いので、積極的に今回知ったことを話し、議論していこうと思う。難民の方に私たちができることを伺った時も、存在を知って声をかけてほしいということだったので、この問題に意識を向けてくれる人を増やしていきたい。「傷ついた経験をした人を難民と呼んではならないのか」という問いかけがあり、難民問題に当事者意識が湧いた。無意識に外国の話だという認識を持っていたが、自分の経験も重ね合わせて考えていこうと思った。また、英語とフランス語を会話できるレベルまで学び、直接的な支援に繋げたい。私も、まだできることは少ないが、「知る」「話す」というアクションから始めて、途上国支援のサークル活動でも積極的に取り入れていきたいと思う。また、将来紛争地域にいる子どもたちの精神面のサポートをしたいという気持ちがさらに強くなった。

(生活科学部心理学科 1 年 小川祐奈)

2021 年 10 月 30 日、11 月 6 日の第 42 期難民アシスタント養成講座では、9 人の講師の方々をお迎えし、日本における難民支援の現状・課題と、難民受け入れに前向きな社会づくりについてお話を伺いました。

10 月 30 日には、難民の現状を知るために難民支援協会の職員の方々、弁護士の方からのお話を伺いました。世界の難民の現状や日本での難民認定の現状を伺い、難民申請が困難であるということを知りました。日本での難民認定への壁は、申請するまで自体に言語や文化の壁があり、さらに申請しても難民認定されるまでに時間、言語そして人権の問題があります。これらの問題には日本の難民に対する制度の問題が根本的に存在しています。私は、弁護士の方々の難民申請に関する実際の経験を聞いて、難民申請に関わる人が難民のエキスパートであることの重要性を痛感しました。難民認定判断するには申請者の状況や申請に至った背景を理解し、適切な根拠を元に判断しなければなりませんが、現在は一時手続きでの録音録画がなく判断が不透明です。難民申請者の人生を大きく左右する判断が情報不透明のまま、難民のエキスパートではない人によって判断されているということは、人権を保護するという観点で制度から変える必要があると考えました。

11 月 6 日には、難民受け入れの支援について知るために、難民の方、大学の講師の方、社会福祉法人の職員の方のお話を伺い、最後にグループディスカッションを行いました。難民の方のお話では、日本に来た経緯や方法、難民申請を行い認定されてからの生活の経験を知り、さまざまな困難があることを痛感しました。特に、難民認定後にもさまざまな困難があり、難民認定がゴールではないということが印象に残っています。日本に来て難民申請をする方々は多様な経緯を持ち、全く予定も決まっていない不安定な状態で難民申請を行わ

なければならず、制度の柔軟性だけではなく、多様な方法での支援も必要であることを理解しました。グループディスカッションでは、難民申請中の方々の住居支援に空き家を用いることや、就労に必要となる日本語の教育支援の方法についてディスカッションを行いました。

講座を通して、どこか遠い存在だった難民という言葉が、受け入れ国に住んでいる人として身近な存在に感じられるようになりました。当事者意識を持ち、自分から行動することが受け入れ国に住んでいる人として大切だと感じました。

(文教育学部人間社会科学科グローバル文化学環 2 年 石田優花)

2021 年 10 月 30 日・11 月 6 日の 2 日間、難民支援協会（JAR）主催の難民アシスタント養成講座 42 期に参加しました。全国各地からオンライン上で集まった約 140 名もの仲間とともに、難民をめぐる様々な問題と真剣に向き合える充実した時間を過ごすことができました。講座を通して私たちの誰もが難民アシスタントとしてできることを考え、行動し続けることの重要性を実感しました。

1 日目は「難民の現状」をテーマに、長年支援活動に従事している弁護士や JAR 職員の方から日本の申請制度や難民の方の実体験に関する講義がありました。日頃授業などで目にしてきた「2020 年の難民認定数 47」という統計上の数字が、祖国を逃れてから厳しく制限された日本での生活に耐え続け、ようやく希望を得た一人ひとりの人生を表しているのだと改めて気付かされました。お話の中では、難民の方々が理不尽な入管の対応に憤ったり申請が認められ喜んだりする様子が語られていました。彼らがただ「よりよく生きたい」と望んでいる普通の人々であり、彼らとの間に見えない境界線を引いてしまっているのは私たちであることが明らかでした。「どんな人でも難民になる可能性はある」という言葉を踏まえ、この問題を知らない誰かの身に起こっていることではなく、私たち自身の問題であると捉えることが必要だと考えました。

2 日目は「難民受け入れに前向きな社会づくり」に取り組む様々なアクターや難民当事者の方の講演、受講者同士のディスカッションが行われました。難民の方々が自立した生活を送れるようになるためには就労支援・コミュニティ支援・学習支援など必要なことがたくさんあり、多様な支援者の方が自分の置かれた場所で尽力なさっているのだと学びました。そして、「(支援が) 良かったのかは 5 年後、10 年後になってわかる」という登壇者の言葉が示すように、隣人として長期にわたって関わり続けることが私たちに求められていると考えました。

2 日間のプログラムを通して浮かび上がったのは、やはり受け入れる側である日本社会の理解不足でした。確かに難民の方のセンシティブな体験と向き合う支援活動は一定の専門性が求められます。しかし、2 日目最後の受講者ディスカッションでは、学生・日本語教師・経営者・小学校教員など様々なバックグラウンドを持つ自分「だから」できる支援がある、という意見が活発に飛び交っていました。弁護士や NGO 職員の方だけではなく、私たち一

人ひとりが難民問題の当事者＝難民アシスタントであるという意識を持つことが社会を少しずつ変えていくのだと考えました。

(文教育学部グローバル文化学環 4 年 卯月 伶奈)

以前から難民に関わる問題について関心があったが、日本の現状を含め、深く知れる機会はなかなか無かったため、今回、難民アシスタント養成講座を受講することにした。国外避難民と国内避難民がおり、我々から見えにくい国内避難民のほうに実は深刻な問題を抱えているという話もこれまで耳にすることがあったが、なんとなく知っていたことを基礎から学び、深めることができた充実した 2 日間となった。

難民問題などと括ってしまうと、その問題によって困難な状況に陥っている人々の顔が見えにくくなってしまいが、現在難民と呼ばれている人々やその家族、現在の「難民」の定義には当てはまらないものの困難な状況に陥っている多くの人々がこの問題に関わってくるということで、問題の裏側にまで想像を巡らせることの重要性を改めて感じた。また、そもそも「難民」とは誰のことなのか、ということについても、時代の変化とともに変わってきた部分を見直す必要があると感じた。難民問題というと、少し遠いところで起こっている問題だとまだまだ思われがちで、国際的な問題にそこそこ関心のある私でもそう思っていた節があった。しかし、むしろ日本国内で起こっている難民に関わる問題のほうが深刻だと分かり、今後さらに多くの日本国民が国内の状況を認識し、早急に問題が改善されていくべきだと感じた。

海外、特にヨーロッパでは、難民を多く受け入れている国があり、その上で、出てきた雇用問題や就労問題、宗教や治安に関する問題などについての議論が進められているが、日本では難民の受け入れ自体がほとんど行われておらず、年間で数十人という認定数を見たときは衝撃だった。さらに、日本の難民保護制度は欠点が多いというより欠陥だらけだということが分かった。命懸けで逃げてきた難民が保護を求めても空港で拒絶され、東日本入国管理センターに収容されるということが、現状で一般的に行われているとは信じたくなかった。難民の方々の人権が蔑ろにされており、難民調査官による聴取や情報収集・情報調査に関しても、正当な方法だとはどう考えても思えなかった。「日本で“動物のように生きる”なら、本国で“人間として死ぬ”ほうがマシだ」と、かつて難民の方が言っていたという話は非常に心が痛かった。本当に難民であるのかを疑うにしても、日本の難民保護には「この人たちは辛い目にあって命を懸けて逃げてきたのかもしれない」「できる限り寄り添ってどうにか助けたい」という想像力が圧倒的に足りていないと感じる。このような現状に怒りを感じながらも、日々冷静に真摯に向き合われている今回の講師の方々から生きた言葉を聞くことができ、考えさせられることが多くあった。

少し観点はずれてしまうかもしれないが、近年、「保護する責任」という考え方があり、平和維持活動（PKO）においても文民の保護は重要視されている。「保護する責任」とは、自国民の保護という国家の基本的な義務を果たす能力のない、あるいは果たす意志のない

国家に対し、国際社会全体が当該国家の保護を受けるはずの人々について「保護する責任」を負うという新しい概念である。国際社会全体で保護を受けるはずの人々を保護しよう、守ろうという世界の潮流があるにも関わらず、世界の中でも平和だといわれる日本が、保護を受けるはずの人々に手を差し伸べないことなどあって良いのだろうか。難民の方々を受け入れるには、入国から定住まで難民の方々が安心・安全に生活できるよう、法律や制度、人々の意識など、整えていくべき様々なことがあり、課題は山積しているが、今我々も真剣に向き合わなければならない。今回の講座で学んだことを忘れずに、自分にできることを見つけていきたい。

(文教育学部人間社会科学科4年 江尻彩菜)

今回の講座で私が問題意識を深められたことの1つは、日本の国外避難民に対する制度・法や実際の対応、支援について抱える問題点や課題である。制度や法については、日本に逃れてくる人々のニーズとのズレがあり、存在していても上手く機能していないものになってしまっていると実感した。「入管制度」と「保護制度」は別物であるはずなのに、日本の「難民保護制度」は入国管理局が管轄しているということに対する違和感に気づくことができた。しかし、難民問題に対する知識がほとんどなかった私は、今回の講義で指摘されるまでそのことに思い至ることがなかった。報道で知る「難民」の姿は、どこか遠い存在で、逃れてきた日本の中で辛い環境に留め置かれている事実を初めて知った。私と同じように、日本の中にいる国外避難民に対する意識がほぼない人は少なくないと思われる。この国外避難民への対応の問題には、日本の「外国人」への対応に通ずるところがあるのではないかと思う。「外国人観光客」、「外国人労働者」、「移民」など、日本国外から来る人々を表す言葉はいくつかある。しかしそれらには「日本人ではない」ことを強調するニュアンスがあるように私には感じられる。また、外国人観光客とのトラブル、外国人技能実習生に対する過酷な待遇の問題 などもある。日本には陸上の国境もなく、生活習慣や言語、文化も独特で、海・空を越えてやってきた人々の、「日本人」とは異なる特徴・属性に戸惑うばかりであるという状況は、グローバル社会などと言われる現代になってもなお根深いと思われる。こうした日本人の国際感覚の乏しさが、日本の難民保護制度の問題点に関わっていると考えられる。

もう1つは、「難民とはだれか」という問いについて考えたことである。私は先の段落で、日本に逃れてくる人々を「難民」ではなく「国外避難民」と表した。その理由は、今回の講義で「難民」という言葉はもっと広い概念を表す言葉だと考えたからである。久保山先生の講義で、ある脅威から逃れようとする人々は「難民」といえるのではないかという話がとても印象的だった。「難民問題」は、政治的・国際的な側面だけを持つ問題なのではなく、人間が人間らしく生きることに関わってくる問題だと認識を新たにしたい。

また、チン・カイさんのお話や、支援の実際に、「親切な人々」の存在が見え隠れしていた。空腹になったり、病気になったり、ストレスがたまったりすることは、人間なら全員あ

ることである。そのとき自分はどう感じるか。あるいは自分が現在の生活で享受できているものが享受できなくなったらどうなるか。そのうえでその人が基本的な生活を営むこともできない背景を抱えていたら、その人の持つ属性に関わらず、まず同じ人間として辛い状況を想像することが「難民問題」解決の第一歩なのではないか。想像できれば、次の行動も考えられる。法や制度などをつくる際にも足りていないことだと考えた。

今回の講義では難民問題について持つべき知識や広い視野を得ることができ、このような問題意識が深まった。

(奈良女子大学文学部人間科学科心理学コース 4 回生 谷口桜都)

5. 4 OCHANAN 説明会の実施

上記に加えて、OCHANAN 立ち上げ OG による活動説明会が開催され 3 名が参加した。次なるアクションに向けた機会となった。

【概要】

日 時：2021 年 11 月 24 日（水） 14:00～15:00

場 所：グローバル協力センター（学生センター棟 308 室）

参加者：お茶の水女子大学生 2 名

お茶の水女子大学卒業生 1 名

IV. 開発途上国の女子教育・幼児教育に
関する支援事業
(教育・研究成果の国際社会への還元)

1. アフガニスタン国未来への架け橋・中核人材プロジェクト

JICA は、アフガニスタンの持続的な開発を支える中核人材の育成を目標として、2011 年から 2025 年まで、同国の行政官及び大学教員を日本国内の大学院修士課程等へ受け入れる「未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト（PEACE）」を実施している。

お茶の水女子大学では、これまで 2 名の研修員を受け入れている（2014 年 4 月～2017 年 3 月、2017 年 10 月～2020 年 3 月）。新型コロナウイルス感染症拡大の影響から受入が延期となっていた研修員 2 名を、2021 年 10 月に受け入れた。研修員は 2023 年 9 月の大学院博士前期課程修了を目指す。

2. アフガニスタンへの絵本寄贈

(1) 概要

アフガニスタンをはじめとする開発途上国における女子教育に関する事業への支援を行うことを目的として 2011 年度に設置された「アフガニスタン・開発途上国女子教育支援事業野々山基金」の活動として、同国で絵本・図書館事業を展開する公益社団法人シャンティ国際ボランティア会と協力し、2012 年度から絵本の作成・印刷・配布を実施している。これまで 8 タイトル、ダリ語とパシュトゥ語で各 1,200 冊（合計 1 万 6,800 冊）印刷し、カブール州とナンガハル州の子ども図書館・公共図書館・学校図書館を中心に配布している。今回は 9 タイトル目の絵本出版事業となる。

またシャンティ国際ボランティア会は、今年度、アジア 6 カ国 8 地域で図書館活動を中心とした教育支援活動への長年の取組が評価され、第 28 回読売国際協力賞を受賞された。本学絵本配布事業も受賞に貢献している。



これまでに出版された絵本

(2) 背景と目的

内戦を経て復興に取り組むアフガニスタンにおいては、タリバン政権下において禁止されていた女子の就学を含めて教育の復興が国家再建の重要な課題である。しかし識字率や就学率は依然として低い状況にあり、学校や教材の整備も十分に整備されていない。このような状況下で、アフガニスタンの児童のための図書の作成・寄付を実施することとし、同国において子どものための図書館事業を実施しているシャンティ国際ボランティア会に子ども向け絵本の作成・配布を委託する。

(3) 対象地域・事業受益者

アフガニスタン・イスラム共和国（カブール州、ナンガハル州、ラグマン州等）

絵本・紙芝居配布：小学校 175 校、公共図書館 12 館、子ども図書館 1 館

研修：省庁職員、公共図書館員、教員養成校教員計 10 名

移動図書館活動：延べ 3,134 名の子ども

子ども図書館運営：延べ 2 万 2,178 名（2020 年 1 月～12 月）の子ども

(4) 2021 年度絵本の作成状況

アフガニスタンにおいては障がい者への差別が根強い背景から、2021 年度はインクルーシブ教育をテーマとし、アフガニスタンで障がい者支援を行う団体より紹介のあった方にインタビューを行い、その話を基にした絵本を制作している。8 月上旬にはドラフトが完成していたが、政変が起き活動は一時中断され、様子を見ながら活動の再開に向けて調整を始めている。話や絵の承認までのプロセスにおいて、管轄省庁との調整に予想以上に時間を要しているが、出版配付に向け少しずつ進めている。

(5) 2020 年度絵本の活用状況等

8 タイトル目の絵本となった『数をかぞえよう』は、対象地域全体において幼児や低学年向けの絵本が少ないため、小さな子どもたちが好きな動物で数をかぞえながら数字を学べる内容とした。また絵本のサイズは、幼児でも読みやすい、A4 よりも小さいサイズ（17cm×18cm）で製本した。

シャンティ国際ボランティア会アフガニスタン事務所では、子ども図書館活動の他、アフガニスタン国内における子どもの図書館普及に向け、教育省・州局、情報文化省・州局、公共図書館、教員養成校よりマスタートレーナーを 10 名選定し、研修、移動図書館活動、ラジオでの読み聞かせキャンペーン等の図書館活動啓発キャンペーンを実施した。



『数をかぞえよう』表紙

【参考】

これまでに作成した絵本(ダリ語、パシュトゥ語各 1,200 冊印刷・配布)

出版年	タイトル
2013	『孤児の女の子』
2014	『亀とイチジクの木』
2015	『クジャクの羽』
2016	『幸せの半分は健康から』
2017	『パンダの冒険』
2018	『ハミダと栄養三兄妹』
2019	『恩返し/Pay Back』
2020	『数をかぞえよう』

これまでに作成した絵本の配布先

配布対象小学校・図書館	校・館数
小学校図書館 (カブール州、ナンガハル州、ラグマン州)	175 校
公共図書館 (カブール市国立図書館、ナンガハル州 5 館、マザリシャリフ州 1 館、クナール州 2 館、ヘラート州 1 館、ラグマン州 2 館)	12 館
シャンティ国際ボランティア会運営図書館 (ナンガハル州ジャララバード市子ども図書館)	1 館

3. 乳幼児ケアと就学前教育研修

(1) 概要

お茶の水女子大学では、JICA の委託を受け「中西部アフリカ幼児教育研修」を 2006 年度から 2017 年度にかけて 12 年間実施してきた。2018 年度からは、それまでの成果を継続する形で、対象地域を拡大し「乳幼児ケアと就学前教育（アフリカ・中東）」を実施している（2018～2020 年度の 3 年間実施し、さらに 3 年間の継続更新を行った）。今回の研修は、2021～2023 年度の 3 年計画の 1 年目に相当するものである。

(2) 背景と目的

開発途上国においては、財源不足や政府関係者の乳幼児ケアと就学前教育（Early Childhood Care and Education: ECCE）に関する意識の低さ等から、ECCE 分野を専門とする人材が不足している状況がある。こうした状況を踏まえ、特に ECCE へのアクセスや質の改善が急務となっているアフリカ・中東地域を対象にその整備・普及を図るため、同分

野の政策レベルでの人材育成と能力向上を目的とするものである。

(3) 対象国・人数

5 カ国・10 名（ブルキナファソ 1 名、エジプト 1 名、マダガスカル 6 名（うち 3 名はオブザーバー参加）、マラウイ 1 名、セネガル 1 名）。

(4) 研修員

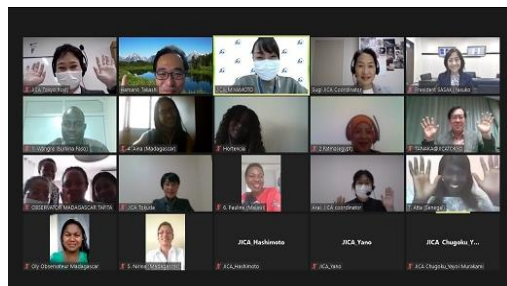
中央の教育省や子ども省等、政策レベルで幼児教育や就学前教育を監督している省庁の担当課長レベル。

(5) 研修期間

2021 年 11 月 15 日（月）～12 月 10 日（金）

(6) 研修形態

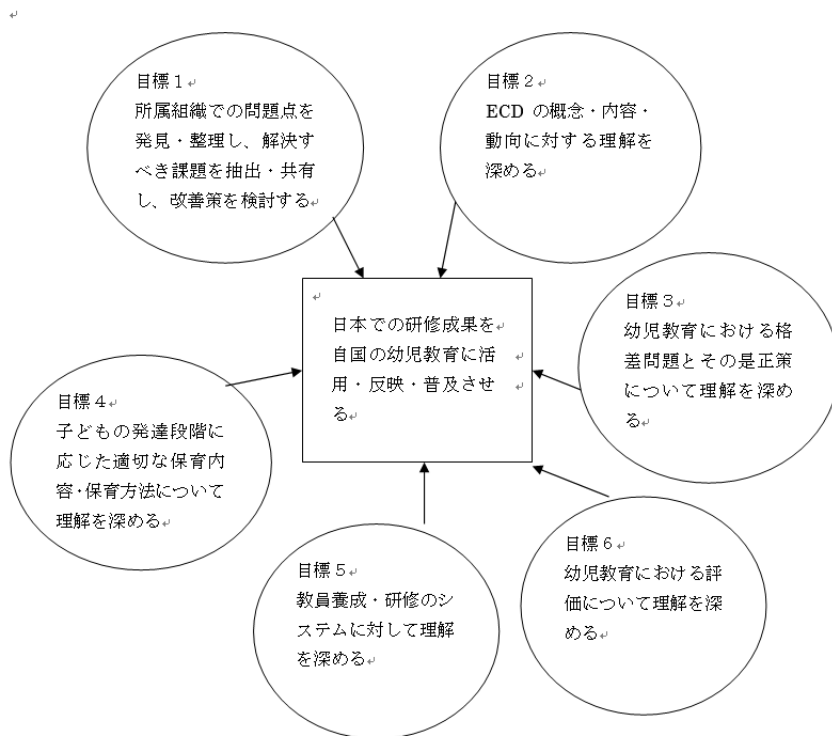
オンライン（Zoom）



開講式の様子

(7) プログラム概要

6 つの単元目標に沿って、講義、実習、討議を行った。研修員の理解を確実なものにするため、併せて 2 回の振り返り（シェアリング・タイム）も実施した。



乳幼児ケアと就学前教育研修 6 つの単元目標

(8) 日程表

日付	時刻			形態	研修内容	講師	
						氏名(敬称略)	所属先及び職位
11/15(月)	17:00		17:30		開講式		
	17:30		19:00	講義	日本の幼児教育(1)	浜野隆	お茶の水女子大学・教授
11/18(木)	17:00		19:00	実習	インセプションレポート発表		
11/22(月)	17:00		19:00	講義	論理的思考の芽生え	坪川紅美	JICA海外協力隊 幼児教育技術顧問, マレーシア幼児教育専
11/24(水)	17:00		19:00	講義	ECDの理念と国際動向	三輪千明	広島大学・准教授
11/25(木)	17:00		18:30	講義	日本の教員養成	小原優貴	日本学術振興会・研究員
	18:30		19:00	討議	シェアリング・タイム		
11/29(月)	17:00		19:00	講義	子ども中心の保育	内田伸子	IPU・環太平洋大学教授
11/30(火)	17:00		19:00	講義	保育内容と保育計画(領域「環境」を中心に)	松島のり子	お茶の水女子大学・助教
12/1(水)	17:00		19:00	討議	帰国研修員との意見交換		
12/3(金)	17:00		19:00	講義	幼児教育における評価(QOLを中心に)	松本聡子	お茶の水女子大学・特任アソシエイトフェロー
12/6(月)	17:00		19:00	講義	障害児保育	齊藤彩	お茶の水女子大学・助教
12/8(水)	17:00		18:30	講義	日本の幼児教育(2)	浜野隆	お茶の水女子大学・教授
	18:30		19:00	討議	シェアリング・タイム		
12/10(金)	17:00		19:00		研修員発表・総括・閉講式		

4. 「JASIS 2021」留学生特別企画展への参加支援

一般社団法人日本分析機器工業会、一般社団法人日本科学機器協会が主催する「JASIS(最先端科学・分析システム&ソリューション展)2021」の留学生企画“Insight into the Future”に、本学で学んでいるアフガニスタン人留学生2名が参加した。

グローバル協力センターでは、参加に際し大学規定による交通費の補助を行った。本イベントは、当該分野の新技术に関心のある学生、また将来かかる分野での関連企業へ就職を考えている学生にとって良い機会となった。



「JASIS2021」ポスター

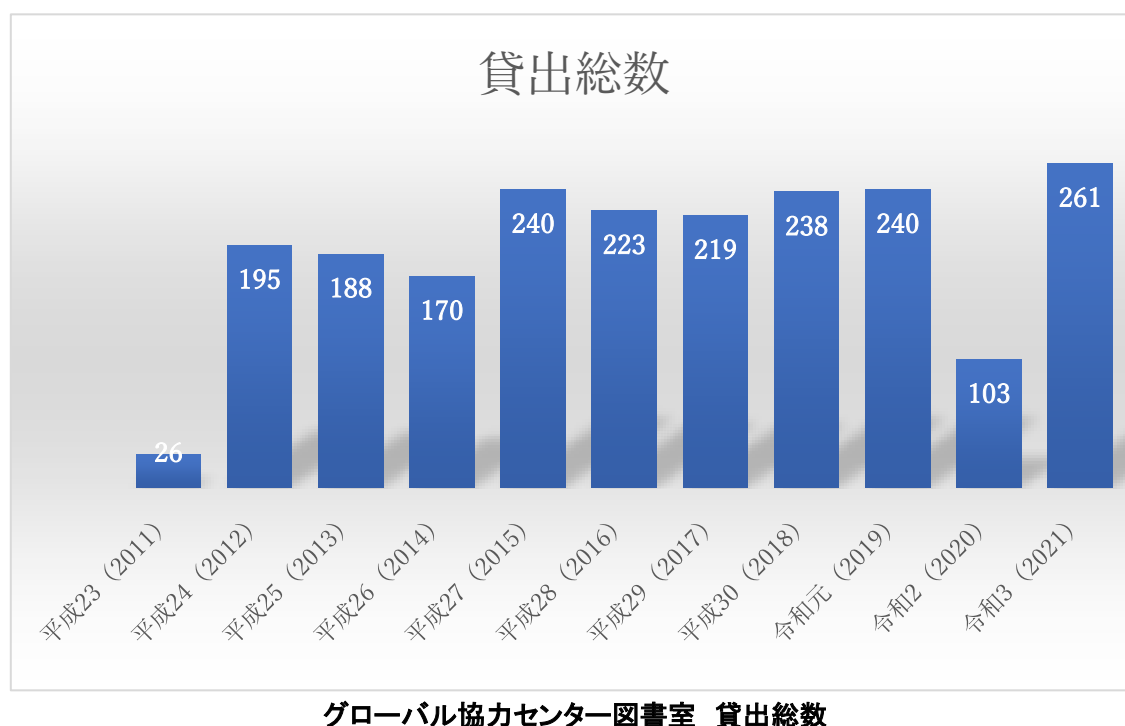
V. その他

1. 図書貸出状況

グローバル協力センター図書室は2011年から開室しており、国際協力、平和構築、開発等に関する教育・研究、学習に必要な図書及びその他の資料を収集・管理し、お茶の水女子大学学部生、大学院生、附属高校生、卒業生及び教職員の利用に供するように務めている。今年度は図書を300冊受け入れ、2022年2月末時点で2,102冊所蔵している。開室時間は祝祭日、夏季・冬季一斉休業日を除く月曜日から金曜日の9時から16時としているが、グローバル協力センタースタッフが対応可能な場合は時間外でも利用が可能である。貸出方法は利用登録をし、直接貸出、返却をする形を採っている。年間開室日について、今年度は235日であった。今年度の延べ利用者数は118名（学部生52名、大学院生22名、附属高校生2名、教職員42名）で、合計261冊の貸出があった。また、新規利用登録は28名あった。2011年のグローバル協力センター図書室開室以来延べ2,103冊の貸出を行ったことになる。

利用者は、附属図書館の蔵書検索（OPAC）で資料を検索し来室している。グローバル協力センター図書室の貸出期間は学部生でも4週間（延長可）であるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、申し出を受け柔軟に返却期間を延長した他、返却ボックスを設置し、利用者の都合の良い時間に返却ができるよう工夫した。

今年度末の時点で3年以上不明の図書が3冊あり、除却となった。貸出本については台帳とAccessで管理し、利用者にはメールで返却のリマインドを行い、長期末返却の利用者が生じないように注意を払っている。



2. 情報発信

(1) ホームページによる情報発信

グローバル協力センターのホームページは、主催・協力する各種イベント情報（公開講座、セミナー、大学間連携イベント、履修説明会等）の学内外への通知及び実施報告を中心に情報を掲載している。

今年度はイベント情報（持続可能な開発目標（SDGs）セミナー8回、2021年度NPO活動紹介セミナー10回、2021年度ブータン連続セミナー10回等）を41件、新着情報（実施報告）を41件掲載した。なお、掲載した実施報告は各セミナーの参加学生、「共に生きる」スタディグループのメンバーをはじめとする学生、グローバル協力センターの所属教員及びアカデミック・アシスタントが執筆した。

また、上記活動報告のうちイベント情報1件、新着情報（実施報告）20件は英訳して英語版ホームページにも掲載し、対外的な情報発信に努めた。

(2) メーリングリストによる情報発信

2021年度の「共に生きる」メーリングリストへの登録者は約150名となり、学内及び学外（国連機関、JICA、NGO等が主催するもの）のイベント情報や「共に生きる」スタディグループの活動情報を104件発信し、関連するイベント等への関心を高めるきっかけを作った。

(3) 大学メールマガジン、公式 SNS 等による情報発信

上記以外の広報手段として、学内者に向けてイベント情報を発信する場合は大学メールマガジン（OchaMail）、学内掲示板及び電子掲示板（Digital Signage）、Twitter、Slack（Ochat）を利用し、一般向けに広く発信する場合は大学ホームページやFacebookを利用する等、よりタイムリーかつ広範囲にグローバル協力センターの活動や取り組みを発信することに努めた。

(4) パンフレットによる情報発信

これまで、グローバル協力センターではパンフレットを編集・印刷して、大学院オープンキャンパス（4月開催）や学部オープンキャンパス（7月開催）に来学された方々に広く配布しその活動や取り組みに関して発信してきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い2021年度はいずれもオンラインでの開催となったため、パンフレットは電子版（PDF）のみを作成し、グローバル協力センターホームページに掲載するとともに必要に応じて印刷する形で対応した。



パンフレット表紙

3. 各種イベント・案内のポスター

(1) 持続可能な開発目標(SDGs)セミナー

グローバル協力センター学内公開連続講座

第11回「持続可能な開発目標(SDGs)セミナー」

「日本の難民支援の現状と課題、入管法改正問題も踏まえて」

現在世界中で紛争や迫害により故郷を追われた人の数は7,950万人(2019年度末時点)となり、全人類の1パーセントに達しています。今秋SDGsセミナーでは、日本における難民支援の現場で活動されている認定NPO法人の専門家をお招きし、本国会での「入管法改正」審議なども踏まえつつ、世界の難民状況、日本における難民支援の現状と課題などについてお話しいただきます。

「平和と共生」演習・実践演習授業の一環として実施しますが、履修者以外の学生・教職員お茶大関係者で関心のある方も是非ご参加ください。

日時 2021年 5月 25日(火) 13:20 ~ 14:50

形式 Zoomによるオンライン開催(事前申込)

申込 件名を「5/25SDGsセミナー」とし、本文に氏名、所属、学年、emailを明記の上、グローバル協力センター (info-cwed@cc.ocha.ac.jp) までメールしてください。



講師

赤坂むつみ氏：特定非営利活動法人難民支援協会
渉外チーフマネージャー

お問合せ先：グローバル協力センター (info-cwed@cc.ocha.ac.jp)

2021. 7.13 TUE
13:20 ~ 14:50

本学・学部・大学教員・教職員等(本学関係者)向け

Zoomによるオンラインセミナー

※ 件名を「7/13SDGsセミナー」とし、本文に氏名、所属、学年、emailを明記の上、下記メールアドレスまでメールしてください。
「平和と共生」演習・実践演習履修者は申込不要です。

自然エネルギーはいまや環境問題、気候変動の観点だけでなく経済合理性で選択される時代を迎えつつあり、SDGsのゴール達成に重要な役割を果たすものとなっています。

一方、ソフトバンクグループ(以下「同社」)は、「Bits」「Watts」「Mobility」を事業の軸に定め、特に東日本大震災以降、国内外で自然エネルギーの普及拡大を進めてきました。

本年に入りG7サミット、日本政府の青木方針2021等で「グリーン成長」「グリーン社会の実現」が掲げられ、11月にはCOP26(気候変動サミット)が開催が予定される中、自然エネルギー、気候変動対策につき企業の実務的視座から同社の専門家に伺います。

グローバル協力センター学内公開連続講座 第13回「持続可能な開発目標(SDGs)セミナー」

ソフトバンクグループ 自然エネルギー事業および気候変動対策への取組について

守屋 伸祐 (Mr. Shinsuke Moriya)

2001年、ソフトバンクメディアアンドマーケティング(株)(現SBメディアホールディングス(株))入社。主に雑誌の広告ビジネス、Webビジネスに従事。2011年、ソフトバンク(株)(現ソフトバンクグループ(株))入社。主に海外での電力関連事業において、投資案件および事業開発、企画・推進に従事。現在、ソフトバンクグループ(株)デベロップメント・プロジェクト・電力事業企画グループ長。2017年よりSBエナジー(株)Chief Strategy Officer / 戦略事業本部 部長を兼任。

奥 朝子 (Ms. Asako Oku)

1998年に慶應義塾大学商学部卒業。2000年に英国ロンドン大学東洋・アフリカ研究科にて経済学修士課程修了。2001年に三菱商事(株)に入社し、アジアを中心とした液化天然ガス事業や炭素排出削減事業の開発・投資に10年以上従事。同社退社後は、グローバル教育導入コンサルティング / 女子学生のためのライフ・キャリアコンサルティングのベンチャーを経営し、その後アクセンチュア・ジャパンにてエネルギー・IT関連のコンサルティングを務める。

2019年からはSBエナジー(株)にて電力事業本部、戦略事業本部両本部長の副本部長等を歴任。海外の再生可能エネルギー関連の事業開発、投資機遇に従事。2020年1月に、Chief Business Officer / 電力事業本部本部長に就任。

お申込・お問合せ先：グローバル協力センター (info-cwed@cc.ocha.ac.jp)

グローバル協力センター学内公開連続講座
第12回「持続可能な開発目標(SDGs)セミナー」

「茨城県における外国人材の受入れ促進に向けた取組等について」

少子高齢化等を背景に、我が国は外国人材の受入れを推進しており、日本で就労している外国人は、2020年10月末時点で過去最高の172万人超となっています。在留資格の面でも、従来の「技能実習」等に加え、平成30年の法改正で「特定技能」が創設されていますが、一方で外国人材は生活面、待遇面で各種困難を抱え、企業サイドも雇用ミスマッチの回避等に苦心する等課題も多々あります。

全国の自治体では本問題に積極的に取り組んでおり、多くの外国人材が在留する茨城県でも外国人材と企業を結ぶ外国人材支援センターを新設し、各種促進・改善策を講じているところ。今般、茨城県庁にて、外国人材の受入れ促進業務に従事されている専門家をお招きし、現場での取組等についてお話しいただきます。「平和と共生」演習・実践演習授業の一環として実施しますが、履修者以外の学生・教職員・お茶大関係者で関心のある方も是非ご参加ください。

日時 2021年 6月 29日(火曜日)
13:20 ~ 14:50

形式 Zoomによるオンライン開催(事前申込)

申込 件名を「6/29SDGsセミナー」とし、本文に氏名、所属、学年、emailを明記の上、グローバル協力センター (info-cwed@cc.ocha.ac.jp) までメールしてください。



講師 高野弘毅氏：茨城県産業戦略部労働政策課
雇用促進対策室 主任

茨城県つくば市出身。2011年茨城県庁入庁・企画総務課企画推進室、県民生活環境部環境対策課を経て、2016年4月より茨城県立大学公共政策大学院、2017年7月よりオーストラリア国立大学ロワイヤード公共政策大学院で学ぶ。2018年10月より県民生活環境部環境対策課、2019年4月より産業戦略部労働政策課、同年8月から外国人材業務を担当。茨城県外国人材支援センター運営の他、「外国人材に選ばれる茨城」を目指し、海外の政府や公的機関、高等教育機関と連携し、茨城県内企業への外国人材受入れスキームの構築業務に従事。

お問合せ先：グローバル協力センター (info-cwed@cc.ocha.ac.jp)

お茶の水女子大学グローバル協力センター



学内公開講座 第14回持続可能な開発目標(SDGs)セミナー

SDGs時代のインフラ整備 —東南アジアでの事例を踏まえて—

日時 11月 8日(月) 13:20~14:50

形式 Zoomによるオンライン開催(要事前申込)

「ローマ人はインフラを人間が人間らしい生活をおくるためには必要な大事業と考えていた」と作家 塩野七生さんは語られていますが、SDGsのゴール7では、質の高い、信頼でき、持続可能な強靱(レジリエント)なインフラ開発を重要ターゲットに掲げています。これは日本政府やG7が提案している「質の高いインフラ」構想とも軌を一にするものです。

本年4月本学は日本工営株式会社とSDGsに関する包括的連携協力に係る協定書を締結しており、今回は東南アジアでの国際協力事業実施に豊富な経験を有する同社の河津秀次氏をお招きしインフラ開発の醍醐味につきご講演いただきます。

グローバル文化学環「国際協力特論」の一環として実施しますが、履修者以外の学生・教職員でも参加可能です。関心のある方は是非ご参加ください。



講師 河津 秀次氏：日本工営株式会社
コンサルティング事業統括本部技術員(東南アジア担当)

大学・大学院では農学部で農業工学を専攻。スリランカ、インド、ネパールなどにアジアの国々で農業事業の調査、計画、設計、施工管理に従事。現在は、日本工営株式会社コンサルティング事業統括本部で東南アジア地域担当の技術員としてインフラ整備事業の実施や運営における課題解決に努めている。また、日本工営株式会社がグローバル展開のために設立したインドネシア、フィリピン、ベトナム、ミャンマーにおける現地法人の役員として会社経営に関与している。

申込 件名を「11/8公開講座」とし、本文に氏名、所属、学年、E-mailを明記の上、グローバル協力センター(info-cwed@cc.ocha.ac.jp)までメールしてください。



お問合せ先：グローバル協力センター (info-cwed@cc.ocha.ac.jp)



日時 2021年12月6日(月) 13:20~14:50

場所 共通講義棟 1号館204室

日本生まれの「道の駅」は、海を渡り「MICHINOKEI」として広がっています。今回は、千葉県南房総市で長年市役所職員として国際協力に取り組み、また道の駅の初代駅長として地域活性化を支えてきた加藤文男氏(株式会社南房総 代表取締役社長、観光カリスマ)をお招きし、タイ、ベトナム等における「道の駅」プロジェクトの取り組みと今後の課題などについてお話しいたします。

新しい視座でSDGsゴール1「貧困をなくそう」、8「働きがいも経済成長も」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」について考える機会になれば幸いです。

グローバル文化学環「国際協力特論」の一環として実施しますが、履修者以外の学生・教職員でも参加可能です。関心のある方は是非ご参加ください。



加藤 文男氏
株式会社南房総
代表取締役社長
観光カリスマ

講師プロフィール

1950年 千葉県生まれ、元南房総市企画部長
1992年 道の駅「とみうら」として初代駅長
2004年 「観光カリスマ」(内閣府・国土交通省・農林水産省)
2007年 「地域中小企業サポーター」(経済産業省・国土交通省)
2008年 「地域活性化推進員」(内閣府)
2010年 JICAの地域活性化事業「道の駅」の知見を活かした
住友参加による地域振興「(ベトナム)のプロジェクトリーダー
2018年~ JICAの地域活性化事業「道の駅」の知見を活用したアグロツーリ
ズム推進による農業振興と観光振興の向上」(インドネシア)に
従事

申込み方法

件名を「12/6公開講座」とし、本文に氏名(ふりがな)、
所属、学年、E-mailを明記の上、グローバル協力センター
までメールしてください。



お問合せ先：グローバル協力センター (info-cwed@cc.ocha.ac.jp)



国際協力事業の「サステナビリティ」を考える ：ミャンマーでの事例を踏まえて

～『誰一人として取り残さない』社会の実現に向けて～

「環境と開発の両立」は古くから新しい問題ですが、国際協力事業実施にあたっては、自然環境のみならず、非営利の住居移転等社会面も考慮した環境社会配慮の取り組みが提案されてきました。これは、SDGsの「誰一人取り残さない」という基本理念や「人間の安全保障」「質の高いインフラ」にも通じるものです。今回は、多くの途上国において現場の最前線で活動されてきた日本工営株式会社SDGs&CSR戦略ユニット長の菊池淳子氏をお招きし、ミャンマーでの事例を中心に住居移転での環境社会配慮の実践につきご講演いただきます。

グローバル文化学環「国際協力特論」の一環として実施しますが、履修者以外の学生・教職員でも参加可能です。関心のある方は是非ご参加ください。

日時 12月20日(月)
13:20~14:50

形式 オンライン開催
※Zoom、要事前申込



講師 菊池淳子氏
日本工営株式会社
環境技術部SDGs&CSR戦略
ユニット長

入学では農学部で植物育種学を専攻。8年間の地方自治体勤務を経て、入学後環境と開発学を修了。NGOや民間企業で海外移住に関する活動に従事。現在は、日本工営株式会社環境技術部SDGs&CSR戦略ユニット、ユニット長として、民間とODA事業におけるSDGs推進業務に従事している。また、海外コンサルティング協会(EOFA)サステナブル推進チーム、チームリーダーを務める。

申込方法

件名を「12月20日公開講座」とし、本文に氏名、所属、学年、
E-mailを明記の上、グローバル協力センターまでメールして
ください。※「国際協力特論」履修生は申込不要



お問合せ先：グローバル協力センター (info-cwed@cc.ocha.ac.jp)

民間企業とSDGs：住友化学の事業を通じた社会への貢献

—化学の力でサステナブルな未来を—

【日時】12月13日(月) 13:20~14:50
【形式】オンライン(Zoomによるリアルタイム配信)

講師 山本 恭子氏
(住友化学株式会社 サステナビリティ推進部 主席部長)

1992年：お茶の水女子大学 理学部化学科卒
1992年~2018年：住友化学株式会社 先端材料開発研究所(筑波)
2018年~2020年：同社 CSR推進部
2020年より：同社 サステナビリティ推進部(組織改正)

詳細はこちら

お問合せ・申込先：グローバル協力センター (info-cwed@cc.ocha.ac.jp)



グローバル課題を市民のチカラで 解決する — NGOだからできること

日時 1月17日(月) 13:20~14:50
場所 共通講義棟 1号館204室



講師 木内 真理子氏
(国際NGOワールド・ビジョン・ジャパン(WVI) 理事・事務局長)

青山学院大学を卒業後、国際協力銀行(IBIC)前身のOECPに入社。
途次英国LSE(社会政策学)、オックスフォード大(開発経済学)での修士
号取得をほさみ、アフリカ、インドネシア、フィリピンにおいて開発政策
を担う。母になったことを契機に転職。東京大学にてSustainability Science
の研究教育拠点形成に従事。
「現場に戻ろう」をキーワードに08年10月よりWVIに勤務。アフリカ、中南
米、ウズベキスタンを担当。2011年5月より、東日本緊急復興支援部長。
2017年4月より事務局長。東京工業大学非常勤講師、JICA 事業評価外部有識
者委員、JANIC理事、日本NPOセンター理事。

お問合せ・申込先：グローバル協力センター (info-cwed@cc.ocha.ac.jp)

(2) 2021 年度 NPO 活動紹介セミナー

お茶の水女子大学グローバル協力センター 主催



2021年度
NPO活動紹介セミナー
参加者募集!



グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp
詳細はコチラ▶

お茶の水女子大学グローバル協力センター 主催



2021年度
NPO活動紹介セミナー
参加者募集!



グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp
詳細はコチラ▶

お茶の水女子大学グローバル協力センター 主催



2021年度 第①回
NPO活動紹介セミナー

◆全体概要:

本セミナーは、NPO活動に携わる方々をゲストにお招きし、その活動紹介等を通して国内外の社会問題に触れることを主目的としています。ゲストには、単なる活動の紹介に留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本音ベース」の話をさくばらんにお願いいたします。ぜひ気軽にご参加ください。

◆日時:

2021年6月21日(月) 13:20~14:50
【本セミナーは、全学共通科目「NPO入門」の公開講座を兼ねます。】

◆ゲスト:

柳本千穂氏
(認定特定非営利活動法人カトリバ 職員)



新卒でWEB広告代理店に入社。その頃、家族の人生に巻き合ったことが転機となる。「自分の人生を生かされる人を増やしたい」という想いから、人生初期の進路選択に携わるために大学受験予備校に転職。そのなかで無気力な生徒にも数多く出会ひ、10代へのキャリア教育と非認知能力育成の必要性を感じる。カトリバへ転職し、現在はアダプティブに生活に困難する10代の自立支援に従事。国家資格キャリアコンサルタント保有。



◆形式:

オンライン (Zoomによるリアルタイム配信)

◆問合せ:

グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ▶



お茶の水女子大学グローバル協力センター 主催



2021年度 第②回
NPO活動紹介セミナー

◆全体概要:

本セミナーは、NPO活動に携わる方々をゲストにお招きし、その活動紹介等を通して国内外の社会問題に触れることを主目的としています。ゲストには、単なる活動の紹介に留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本音ベース」の話をさくばらんにお願いいたします。ぜひ気軽にご参加ください。

◆日時:

2021年6月29日(火) 16:45~18:15

◆ゲスト:

塚越優氏

(四国国学センター)

教育スタッフ/島根ICTディレクター



1990年生まれ。埼玉県出身。早稲田大学教育学部卒業後、島根県松江市立小中学校へ移住。一般財団法人島根ふるさと観光財団、公立島根県立国学センターの教職スタッフとして勤務。移住8年目。島の中学生や高校生を主な対象とし、教科学習のみならず、教科外ICT活用までさまざまな学びの場づくりを探索・提案している。

水越日向子氏

(四国国学センター)

インターン/文教育学部 学部生



お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科教育科学コース所属。現在3年次を休学中。2021年4月から四国国学センターでインターンとして勤務。東京の商業から転進し、自然に囲まれた離島ライフを満喫している。出身は宮城の県立商業高校。自身の通う中学が閉校した経験から四国島前教育魅力化プロジェクトに興味を持つ。マイテーマは「人間とは何か」。人間は人間という存在の不自然さ(そもそも自然とは何か)や、商業の地獄について考えている。



◆形式:

オンライン (Zoomによるリアルタイム配信)

◆問合せ:

グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ▶





◆全体概要：本セミナーは、NPO活動に関わる方々をゲストにお招きし、その活動紹介等を通して国内外の社会問題に触れることを主目的としています。ゲストには、単なる活動の紹介に留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本書ベース」の話をざっくりとお話しいただく予定です。ぜひ気軽にご参加ください。

◆日時：2021年7月5日（月）16:45～18:15

◆ゲスト：小野寺美佳氏
（社会福祉法人福祉楽園 職員）



2018年早稲田大学文化構想学部卒業。専攻は文化人類学で、フィールドワークと特許で都市近郊の農村のある場所に入り、子どもと自然遊びをするサークル「食と子どものくらしと自然」に所属。4年生で1年休学し、ゲストハウスのスタッフやNPOのインターンを経験。地域づくりやマイノリティへの関心から福祉に関わり、福祉系団体に就任して入職し、ケアワーカー4年目。

片山侑香里氏
（社会福祉法人福祉楽園 職員）

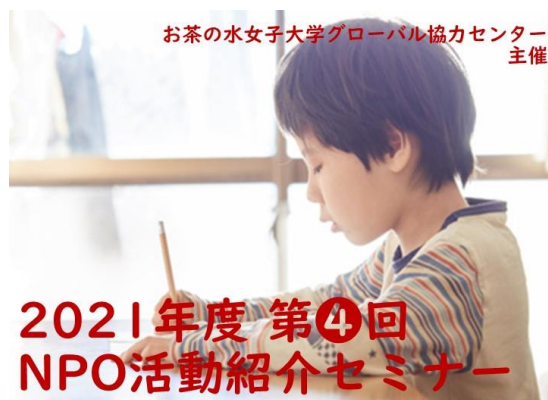


2019年早稲田大学社会学部卒業。学生時代はCSRを主に学ぶゼミに所属。ボランティアサークルや教育系NPOで活動する。卒業後、医療介護業界専門の人材紹介会社に就職。営業の仕事をするも、自分自身が介護業界で働いてみたいくなり1年経過後、福祉系団体に転職し、現在は特別支援老人ホームのケアワーカーとして勤務。

◆形式：オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）

◆問合せ：グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



◆全体概要：本セミナーは、NPO活動に関わる方々をゲストにお招きし、その活動紹介等を通して国内外の社会問題に触れることを主目的としています。ゲストには、単なる活動の紹介に留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本書ベース」の話をざっくりとお話しいただく予定です。ぜひ気軽にご参加ください。

◆日時：2021年7月24日（土）14:00～15:30

◆ゲスト：齋藤みずも氏
（オンライン寺子屋 発起人）



上智大学文学部英文学科卒業後、半年間ワーキングホリデーでカナダを訪れたのち、ホテル・旅館の会社で勤務。大学時代に参加したNPO・ボランティアの経験から改めて教育に関わりたいと思い、2019年から2年間島根県海士町の隣接国語センターで勤務。コロナ禍にオンライン寺子屋を実施。

中村征氏
（オンライン寺子屋 発起人）



公立中学校教員3年目。英語科担当。大学在学中より、アメリカでの教育実習を皮切りに世界各地の学校で長期ボランティアをしていた。世界を旅したあとに教員になる。アメリカでの教育実習中の様子を書いた電子書籍「日本人は一人だけアメリカ教育実習生」はアマゾン総合3位。コロナ禍にオンライン寺子屋を実施。

◆形式：オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）

◆問合せ：グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



◆全体概要：本セミナーは、NPO活動に関わる方々をゲストにお招きし、その活動紹介等を通して国内外の社会問題に触れることを主目的としています。ゲストには、単なる活動の紹介に留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本書ベース」の話をざっくりとお話しいただく予定です。ぜひ気軽にご参加ください。

◆日時：2021年8月9日（月・祝）14:00～15:30

◆ゲスト：岡安直比氏
（認定NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ 代表理事）



1960年東京生まれ。子供の頃からアフリカに憧れ、それが高じて、コンゴ共和国ゴリラ孤児院の院長をしたり、WWF（世界自然保護基金）ジャパンで会長をしたり、NGOで自然保護活動を行ってきた。その後、ブータンやアフリカの大規模野生動物の保護活動を経験するため、2018年NPO法人を設立。著書『子育てでゴリラの育て』（小学館・1999年）、『みなしごゴリラの学校』（草思社・2000年）、『サルに学ぶ！自然な子育て』（草思社・2000年）など。



◆形式：オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）

◆問合せ：グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



◆全体概要：本セミナーは、NPO活動に関わる方々をゲストにお招きし、その活動紹介等を通して国内外の社会問題に触れることを主目的としています。ゲストには、単なる活動の紹介に留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本書ベース」の話をざっくりとお話しいただく予定です。ぜひ気軽にご参加ください。

◆日時：2021年9月18日（土）14:00～15:30

◆ゲスト：大阪谷末久氏
（食と子どものひろば三芳村 元代表／南房総市中囃地区 ふるさと保全指導員）



早稲田大学在学中に、学生団体「食と子どものひろば三芳村」に所属。千葉県南房総の里山で子どもと一年をかけた田んぼづくりや有機農業への学生援体験などを企画していた。地域に関わる面白さや奥深さを体感し、大学卒業後も週末に南房総に通って農家や地域住民と交流を深めた。現在は出版業界で働きながら、南房総地域の課題解決や魅力発見のため、里山の素材の活用やワークショップの企画に取り組んでいる。



◆形式：オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）

◆問合せ：グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ





◆ 全体概要：
本セミナーは、NPO活動に携わる方々をゲストにお招きし、その活動紹介等を通して国内外の社会問題に触れることを主目的としています。ゲストには、単なる活動の紹介に留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本音ベース」の話をざっくばらんに話しいただく予定です。ぜひ気軽にご参加ください。

◆ 日時：
2021年9月27日（月） 14:00～15:30

◆ ゲスト：
真屋友希氏
（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
アフガニスタン事務所チーフ）



兵庫県出身。日本からの遠隔にてアフガニスタンの教育支援事業に携わる。学生時代に国際機関やNGOでのインターンシップを経験。引継いで他NPOにて東日本大震災復興支援における「子ども参加によるまちづくり」事業に従事。その後、シャンティの東京事務所にカンボジア、ラオス、ネパールを担当し、現職。子育てを通して絵本の力を実感中。「アフガニスタンの子どもたちに絵本を通して希望を届けたい」という思いで活動をしている。

◆ 形式：
オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）

◆ 問合せ：
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



◆ 全体概要：
本セミナーは、NPO活動に携わる方々をゲストにお招きし、その活動紹介等を通して国内外の社会問題に触れることを主目的としています。ゲストには、単なる活動の紹介に留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本音ベース」の話をざっくばらんに話しいただく予定です。ぜひ気軽にご参加ください。

◆ 日時：
2021年10月20日（水） 16:45～18:15

◆ ゲスト：
辰野まどか氏
（一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GIFT） 代表理事）



「私たちは今、未来の地球社会に何をギフトすることが出来るだろう」という問いとともに、グローバル・シチズンシップ（世界をより良くする力）育成を掲げ、2012年にGIFTを設立。現在は「トビタテ！留学JAPAN」高校生コース事前事後研修やアジア7カ国を舞台にした海外研修等、SDGs、グローバル・シチズンシップ育成に関するプロジェクト、研修、講演等を行っている。東洋大学環境科学部研究科客員教授。

◆ 形式：
オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）

◆ 問合せ：
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



◆ 全体概要：
本セミナーは、NPO活動に携わる方々をゲストにお招きし、その活動紹介等を通して国内外の社会問題に触れることを主目的としています。ゲストには、単なる活動の紹介に留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本音ベース」の話をざっくばらんに話しいただく予定です。ぜひ気軽にご参加ください。

◆ 日時：
2021年11月20日（土） 14:00～15:30

◆ ゲスト：
執行泰輔氏
（STUDY FOR TWO学生代表/支機兼調査プロジェクト
リーダー/支所設立チームリーダー/会計チーム）



広島大学工学部3年。2019年、大学1年生のときに入会したタイフーンに参加。支所設立チームに加え、2020年、支機兼調査プロジェクトに参加。部活動の環境問題に関心し、新設プロジェクトの立ち上げを担い、1年間で支所の売上を3倍、寄付額を1倍にまで引き上げた。2年生からはHRチームに加え、団体の中にメンター制度を導入するとともに、slack、Google Workspace導入の補助を行う。3年生からは学生代表として、人材育成と環境整備、また団体への発展意欲の向上に取り組んでいる。



金沢大学人間社会学部3年。1年生の8月に支所の代表として、支所が所有するほぼ活動がなされている地域から参加し、1年間で支所の売上を3倍、寄付額を1倍にまで引き上げた。2年生からはHRチームに加え、団体の中にメンター制度を導入するとともに、slack、Google Workspace導入の補助を行う。3年生からは学生代表として、人材育成と環境整備、また団体への発展意欲の向上に取り組んでいる。

◆ 形式：
オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）

◆ 問合せ：
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

STUDY FOR TWO
奈良女子大学支部の皆さま
お茶の水女子大学支部の皆さま



【本セミナーは、お茶の水女子大学と奈良女子大学による「2021年度大学間連携イベント」を兼ねます。】

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



◆ 全体概要：
本セミナーは、NPO活動に携わる方々をゲストにお招きし、その活動紹介等を通して国内外の社会問題に触れることを主目的としています。ゲストには、単なる活動の紹介に留まらず、自身のバックグラウンドや学生時代の振り返り、活動を行う中で生まれた違和感、悩み、葛藤等、「本音ベース」の話をざっくばらんに話しいただく予定です。ぜひ気軽にご参加ください。

◆ 日時：
2021年12月7日（火） 16:45～18:15

◆ ゲスト：
太田朝弓氏
（サンキュー・カンボジア・プロジェクト 代表/
お茶の水女子大学文教育学部 学部生）



東日本大震災の直後、カンボジアの被災地の農村から、地元・福島へ避難民が寄せられた。カンボジアの人々の思いに共感し、1年間で支所の売上を3倍、寄付額を1倍にまで引き上げた。2年生からはHRチームに加え、団体の中にメンター制度を導入するとともに、slack、Google Workspace導入の補助を行う。3年生からは学生代表として、人材育成と環境整備、また団体への発展意欲の向上に取り組んでいる。

三原瑞子氏
（NPO法人はちどりプロジェクト インターン生/
お茶の水女子大学文教育学部 学部生）



海外に渡った経験のある友人の影響で海外ボランティアに興味を持ち、グローバル文化理解に携わってお茶に入会。以後、授業で幅広く学んでいく中で、自分の見えないところで様々な問題が起きていることを知る。子ども好きということもあり、特に途上国の教育について興味を持つようになる。その中で、カンボジアで教育・救済活動を行っている「NPO法人はちどりプロジェクト」に参画し、インターンとして活動に参加している。

◆ 形式：
オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）

◆ 問合せ：
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



(3) 2021 年度ブータン連続セミナー

お茶の水女子大学グローバル協カセンター
日本ブータン研究所 共催



2021年度
ブータン連続セミナー
参加者募集!



グローバル協カセンター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp
詳細はコチラ

お茶の水女子大学グローバル協カセンター
日本ブータン研究所 共催



2021年度
ブータン連続セミナー
参加者募集!



グローバル協カセンター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp
詳細はコチラ

お茶の水女子大学グローバル協カセンター
日本ブータン研究所 共催



2021年度 第①回
ブータン連続セミナー

◆ 全体概要：
本セミナーは、南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れることを主目的とした、全10回の地域研究型セミナーです。初學者にとって「ブータン入門」となるような内容です。具体的には、毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、①映像作品の視聴、②コメンテーターからの簡単な解説／意見交換という流れを予定しています。ぜひ気軽にご参加ください。

◆ 日時：
2021年6月26日(土) 14:00～16:00
【本セミナーは、日本ブータン研究所の定例勉強会(第141回ブータン勉強会)を兼ねます。】

◆ 形式：
オンライン (Zoomによるリアルタイム配信)

◆ 題目：
映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ①
—『世界ふれあい街歩き』「チンペー／ブータン」(2011年)—

◆ コメンテーター：
山本けいこ氏
(『ブータン 富麗王国への扉』・『ブータンの染と織』著者)
+ 平山雄大
(お茶の水女子大学グローバル協カセンター講師)

◆ 協力：
海士ブータンプロジェクト(あまたん)

◆ 問合せ：
グローバル協カセンター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp



要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



お茶の水女子大学グローバル協カセンター
日本ブータン研究所 共催



2021年度 第②回
ブータン連続セミナー

◆ 全体概要：
本セミナーは、南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れることを主目的とした、全10回の地域研究型セミナーです。初學者にとって「ブータン入門」となるような内容です。具体的には、毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、①映像作品の視聴、②コメンテーターからの簡単な解説／意見交換という流れを予定しています。ぜひ気軽にご参加ください。

◆ 日時：
2021年7月25日(日) 14:00～16:00
【本セミナーは、日本ブータン研究所の定例勉強会(第142回ブータン勉強会)を兼ねます。】

◆ 形式：
オンライン (Zoomによるリアルタイム配信)

◆ 題目：
映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ②
—『世界の国境を歩いてみたら』「インド×ブータン編
—一本の線を越えたら別世界が広がる国境」(2019年)—

◆ コメンテーター：
高橋洋氏
(日本ブータン研究所研究員／『地球の歩き方 ブータン』編集者)
+ 平山雄大
(お茶の水女子大学グローバル協カセンター講師)

◆ 協力：
海士ブータンプロジェクト(あまたん)

◆ 問合せ：
グローバル協カセンター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp



要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ





**2021年度 第③回
ブータン連続セミナー**

- ◆ **全体概要：**
本セミナーは、南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れることを主目的とした、全10回の地域研究型セミナーです。初學者にとって「ブータン入門」となるような内容です。具体的には、毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、①映像作品の視聴、②コメンテーターからの簡単な解説／意見交換という流れを予定しています。ぜひ気軽にご参加ください。
- ◆ **日時：**
2021年8月30日（月） 14:00～16:00
【本セミナーは、日本ブータン研究所の定例勉強会（第143回ブータン勉強会）を兼ねます。】
- ◆ **形式：**
オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）
- ◆ **題目：**
映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ③
—『旅のチカラ』「幸せの国で、聖なる舞を
USA (EXILE) ブータン王国」（2012年）—
- ◆ **コメンテーター：**
渡辺千衣子氏
（日本ブータン友好協会事務局長）
+ 平山雄大
（お茶の水女子大学グローバル協力センター講師）
- ◆ **協力：**
海士ブータンプロジェクト（あまたん）
- ◆ **問合せ：**
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp



要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



2021年度 第④回 ブータン連続セミナー

- ◆ **全体概要：**
本セミナーは、南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れることを主目的とした、全10回の地域研究型セミナーです。初學者にとって「ブータン入門」となるような内容です。具体的には、毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、①映像作品の視聴、②コメンテーターからの簡単な解説／意見交換という流れを予定しています。ぜひ気軽にご参加ください。
- ◆ **日時：**
2021年9月25日（土） 14:00～16:00
【本セミナーは、日本ブータン研究所の定例勉強会（第144回ブータン勉強会）を兼ねます。】
- ◆ **形式：**
オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）
- ◆ **題目：**
映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ④
—『ドキュメンタリーWAVE』
「幸せの国の子どもたち ブータンからの報告」（2012年）—
- ◆ **コメンテーター：**
澤多加奈子氏
（元JICA青年海外協力隊／島根県立隠岐島前高等学校女子寮ハウスマスター）
+ 平山雄大
（お茶の水女子大学グローバル協力センター講師）
- ◆ **協力：**
海士ブータンプロジェクト（あまたん）
- ◆ **問合せ：**
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp



要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



2021年度 第⑤回 ブータン連続セミナー

- ◆ **全体概要：**
本セミナーは、南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れることを主目的とした、全10回の地域研究型セミナーです。初學者にとって「ブータン入門」となるような内容です。具体的には、毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、①映像作品の視聴、②コメンテーターからの簡単な解説／意見交換という流れを予定しています。ぜひ気軽にご参加ください。
- ◆ **日時：**
2021年10月23日（土） 14:00～16:00
【本セミナーは、日本ブータン研究所の定例勉強会（第145回ブータン勉強会）を兼ねます。】
- ◆ **形式：**
オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）
- ◆ **題目：**
映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ⑤
—『ブータンが愛した日本人』
「向井理が見た、幸せの国のキセキ」（2018年）—
- ◆ **コメンテーター：**
高橋洋氏
（日本ブータン研究所研究員／『地球の歩き方 ブータン』編集者）
+ 平山雄大
（お茶の水女子大学グローバル協力センター講師）
- ◆ **協力：**
海士ブータンプロジェクト（あまたん）
- ◆ **問合せ：**
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp



要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



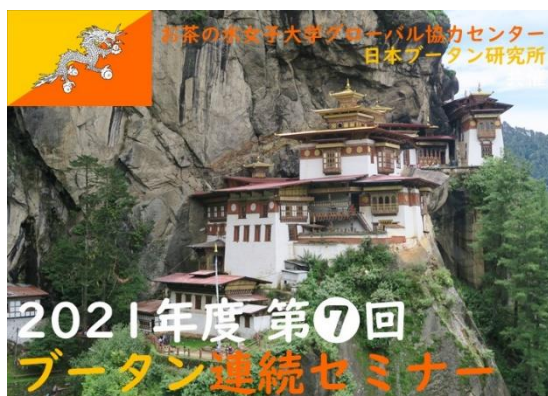
2021年度 第⑥回 ブータン連続セミナー

- ◆ **全体概要：**
本セミナーは、南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れることを主目的とした、全10回の地域研究型セミナーです。初學者にとって「ブータン入門」となるような内容です。具体的には、毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、①映像作品の視聴、②コメンテーターからの簡単な解説／意見交換という流れを予定しています。ぜひ気軽にご参加ください。
- ◆ **日時：**
2021年11月27日（土） 14:00～16:00
【本セミナーは、日本ブータン研究所の定例勉強会（第146回ブータン勉強会）を兼ねます。】
- ◆ **形式：**
オンライン（Zoomによるリアルタイム配信）
- ◆ **題目：**
映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ⑥
—『Themes Around the World』「Bhutan, In Search of a Celestial Kingdom Part 1. Road to Merak, an Uncharted Land / Part 2. Golden Langurs and Black Yaks」（韓国・2014年）—
- ◆ **コメンテーター：**
石内良季氏
（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科一貫制博士課程）
+ 平山雄大
（お茶の水女子大学グローバル協力センター講師）
- ◆ **協力：**
海士ブータンプロジェクト（あまたん）
- ◆ **問合せ：**
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp



要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ





- ◆ **全体概要:**
本セミナーは、南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れることを主目的とした、全10回の地域研究型セミナーです。初學者にとって「ブータン入門」となるような内容です。具体的には、毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、①映像作品の視聴、②コメンテーターからの簡単な解説／意見交換という流れを予定しています。ぜひ気軽にご参加ください。
- ◆ **日時:**
2021年12月25日(土) 14:00~16:00
【本セミナーは、日本ブータン研究所の定例勉強会(第147回ブータン勉強会)を兼ねます。】
- ◆ **形式:**
オンライン (Zoomによるリアルタイム配信)
- ◆ **題目:**
映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ⑦
—「Themes Around the World」: Bhutan, In Search of a Celestial Kingdom Part 3. The Legend of Tiger's Nest Monastery / Part 4. Thimphu Tsechu, the Kingdom's Festival」(韓国・2014年) —
- ◆ **コメンテーター:**
石内良季氏
(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科一貫制博士課程)
+ 平山雄大
(お茶の水女子大学グローバル協力センター講師)
- ◆ **協力:**
海士ブータンプロジェクト (あまたん)
- ◆ **問合せ:**
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp



要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



- ◆ **全体概要:**
本セミナーは、南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れることを主目的とした、全10回の地域研究型セミナーです。初學者にとって「ブータン入門」となるような内容です。具体的には、毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、①映像作品の視聴、②コメンテーターからの簡単な解説／意見交換という流れを予定しています。ぜひ気軽にご参加ください。
- ◆ **日時:**
2022年1月22日(土) 14:00~16:00
【本セミナーは、日本ブータン研究所の定例勉強会(第148回ブータン勉強会)を兼ねます。】
- ◆ **形式:**
オンライン (Zoomによるリアルタイム配信)
- ◆ **題目:**
映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ⑧
—「BS世界のドキュメンタリー」
「HAPPINESS ブータン・幸せの国の少年」(2014年) —
- ◆ **コメンテーター:**
瀧原早紀子氏
(早稲田大学教育学部学際生)
+ 平山雄大
(お茶の水女子大学グローバル協力センター講師)
- ◆ **協力:**
海士ブータンプロジェクト (あまたん)
- ◆ **問合せ:**
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp



<http://www6.nhk.or.jp/webcontent/backstage/detail/?pid=141023>

要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



- ◆ **全体概要:**
本セミナーは、南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れることを主目的とした、全10回の地域研究型セミナーです。初學者にとって「ブータン入門」となるような内容です。具体的には、毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、①映像作品の視聴、②コメンテーターからの簡単な解説／意見交換という流れを予定しています。ぜひ気軽にご参加ください。
- ◆ **日時:**
2022年2月26日(土) 14:00~16:00
【本セミナーは、日本ブータン研究所の定例勉強会(第149回ブータン勉強会)を兼ねます。】
- ◆ **形式:**
オンライン (Zoomによるリアルタイム配信)
- ◆ **題目:**
映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ⑨
—「ベスト・オブ・ドキュメント」: 「アジア・モナーク」
「君主の過去と未来 ブータン編」(2012年) —
- ◆ **コメンテーター:**
平山雄大
(お茶の水女子大学グローバル協力センター講師)
- ◆ **協力:**
海士ブータンプロジェクト (あまたん)
- ◆ **問合せ:**
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp



要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



- ◆ **全体概要:**
本セミナーは、南アジアに位置するブータン王国を巡る諸相に触れることを主目的とした、全10回の地域研究型セミナーです。初學者にとって「ブータン入門」となるような内容です。具体的には、毎回ブータンを扱った国内外の新旧映像作品を取り上げ、①映像作品の視聴、②コメンテーターからの簡単な解説／意見交換という流れを予定しています。ぜひ気軽にご参加ください。
- ◆ **日時:**
2022年3月26日(土) 14:00~16:00
【本セミナーは、日本ブータン研究所の定例勉強会(第150回ブータン勉強会)を兼ねます。】
- ◆ **形式:**
オンライン (Zoomによるリアルタイム配信)
- ◆ **題目:**
映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ⑩
—「NHK海外取材番組 小さな国々」
「第5集 ヒマラヤの秘境ブータン」(1967年) 他—
- ◆ **コメンテーター:**
平山雄大
(お茶の水女子大学グローバル協力センター講師)
- ◆ **協力:**
海士ブータンプロジェクト (あまたん)
- ◆ **問合せ:**
グローバル協力センター講師
平山雄大 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp



要事前申込・
参加費無料
参加申込はコチラ



(4) 途上国研究・国際協力分野海外調査支援

2021年度
海外調査支援説明会
～途上国研究・国際協力分野～

事前
申込制

日時 2021年 **5月19日(水)** 12:30～13:00

形式 **オンライン開催 (Zoom)**

2021年度「途上国研究・国際協力分野海外調査支援」の説明会を行います。これは、本学博士前期・後期課程に在籍する学生が行う海外調査のための費用の一部を支援するものです。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、昨年度に引き続き海外渡航が困難な状況であることを考慮して、国内で活動している国際協力団体へのヒアリング調査、インターネットを活用したオンライン学術調査や研究交流等の研究実践を含む研究計画の申請も受け付けます。申請希望者はぜひご参加ください。

※対象分野・テーマ:

- (1) 国連・持続可能な開発目標の17ゴールに関連するテーマ
- (2) 開発途上国の女子教育、基礎教育、ノンフォーマル教育に関連する分野

※対象: 本学大学院博士課程(前期・後期)に在籍する学生

※応募を検討している方は必ずご参加ください。

※詳細はグローバル協力センターホームページをご覧ください。



お問合せ先: お茶の水女子大学 グローバル協力センター
TEL: 03-5978-5546 E-Mail: info-cwed@cc.ocha.ac.jp

2021年度
海外調査支援募集
～途上国研究・国際協力分野～



2021年度「途上国研究・国際協力分野海外調査支援」募集を行います。本事業は、本学博士前期・後期課程に在籍する学生が行う海外調査のための費用の一部を支援するものです。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、昨年度に引き続き海外渡航が困難な状況であることを考慮して、国内で活動している国際協力団体へのヒアリング調査、インターネットを活用したオンライン学術調査や研究交流等の研究実践を含む研究計画の申請も受け付けます。

募集情報をセンターホームページに掲載しましたのでご確認ください。

※対象分野・テーマ:

1. 国連・持続可能な開発目標(SDGs)の17ゴールに関連するテーマ
2. 開発途上国の女子教育、基礎教育、ノンフォーマル教育に関連するテーマ

※対象: 本学大学院博士課程(前期・後期)に在籍する学生

※申請受付期間: **5月19日(水)～6月16日(水) 17時まで**

※詳細はグローバル協力センターホームページをご覧ください。

お問合せ先: お茶の水女子大学 グローバル協力センター
TEL: 03-5978-5546 E-Mail: info-cwed@cc.ocha.ac.jp

2021年度
海外調査支援説明会
～途上国研究・国際協力分野～

秋募集

日時 2021年 **10月15日(金)** 12:30～13:00

形式 **オンライン開催 (Zoom) ※事前申込制**

2021年度「途上国研究・国際協力分野海外調査支援」の説明会を行います。これは、本学博士前期・後期課程に在籍する学生が行う海外調査のための費用の一部を支援するものです。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、昨年度に引き続き海外渡航が困難な状況であることを考慮して、国内で活動している国際協力団体へのヒアリング調査、インターネットを活用したオンライン学術調査や研究交流等の研究実践を含む研究計画の申請も受け付けます。申請希望者はぜひご参加ください。

※対象分野・テーマ:

- (1) 国連・持続可能な開発目標の17ゴールに関連するテーマ
- (2) 開発途上国の女子教育、基礎教育、ノンフォーマル教育に関連する分野

※対象: 本学大学院博士課程(前期・後期)に在籍する学生

※応募を検討している方は必ずご参加ください。

※詳細はグローバル協力センターホームページをご覧ください。



お問合せ先: お茶の水女子大学 グローバル協力センター
TEL: 03-5978-5546 E-Mail: info-cwed@cc.ocha.ac.jp

2021年度
海外調査支援募集
～途上国研究・国際協力分野～

秋募集

2021年度「途上国研究・国際協力分野海外調査支援」秋募集を行います。本事業は、本学博士前期・後期課程に在籍する学生が行う海外調査のための費用の一部を支援するものです。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、本年度も海外渡航が困難な状況であることを考慮して、国内で活動している国際協力団体へのヒアリング調査、インターネットを活用したオンライン学術調査や研究交流等の研究実践を含む研究計画の申請も受け付けます。

募集情報をグローバル協力センターホームページに掲載しましたので、ご確認ください。

※対象分野・テーマ:

1. 国連・持続可能な開発目標(SDGs)の17ゴールに関連するテーマ
2. 開発途上国の女子教育、基礎教育、ノンフォーマル教育に関連するテーマ

※対象: 本学大学院博士課程(前期・後期)に在籍する学生

※申請受付期間: **10月15日(金)～11月12日(金) 17時まで**

※詳細はグローバル協力センターホームページをご覧ください。



お問合せ先: お茶の水女子大学 グローバル協力センター
TEL: 03-5978-5546 E-Mail: info-cwed@cc.ocha.ac.jp

(5) その他

5月27日(木) ZOOM 説明会開催

グローバル協力センター お茶大生が取り組む国際協力活動 「共に生きる」スタディグループ

【内容】・「共に生きる」スタディグループについて
・国際協力活動に取り組む学生団体(Study For Two)による活動紹介
【日時】5月27日(木) 12:30 ~ 13:00

「共に生きる」スタディグループとは、国際協力や平和構築に関心をもち「共に生きる」社会について自主的に学習・活動する学生のグループです。グローバル協力センターは、学生の自主活動を支援しています。

【活動支援例】

- 学生自主企画イベント
- 中古図書販売によるラオス・バングラデシュ教育支援
- シリア等難民支援
- 学園祭でのパネル展示・発表
- JAR「難民アシスタント養成講座」参加報告会
- 内閣府「国際社会青年育成事業」参加報告会
- 途上国の食・栄養問題について学ぶ団体



コロナ禍でも様々な工夫を凝らして活動をする Study For Two の様子

参加方法

メールにて申込(件名を「共に生きる」説明会希望とし、info-cwed@cc.ocha.ac.jp まで氏名、所属を連絡ください)。お申込み頂いた方にミーティングIDをお送りします。

【問い合わせ】グローバル協力センター(学生センター棟308室)
Tel: 03-5978-5546
E-mail: info-cwed@cc.ocha.ac.jp



地球規模の課題について、途上国の現場から学ぶ

「国際共生社会論実習・同フィールド実習」 ネパール・カンボジアスタディツアー座談会

Nov 19 (Fri) ネパールスタディツアー
30 (Tue) カンボジアスタディツアー

※座談会を行う学生が異なります。いずれか関心のある会にご参加ください。尚、両日参加可能です。

時間: 12:20 ~ 13:00

場所: 文教育学部 1号館第1会議室

グローバル協力センターでは、専攻・学年を問わず開発途上国の社会・経済・政治に関わる問題や国際協力に関心を有する学生(学部生・大学院博士前期課程)を対象とし、スタディツアーを実施してきました。2019年度までに160名の学生が参加し、開発途上国における研究・実践を有する教員の指導の下で事前学習と現地実習(8日間)を通して現場に根ざした学習を行ってきました(2020、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大で中止)。座談会では、2019年度ネパール・カンボジアスタディツアー参加者よりスタディツアーを通して何を学んでいるか、また渡航に際し準備したこと、現地の食事など様々なことについてざくざくお話をいただきます。スタディツアーに関心のある方は是非ご参加ください。

対象: 本学学生

参加申込: <https://forms.gle/HxCV1LoupnA2VTKDA>

お問合せ: グローバル協力センター 平山講師 / 駒田 AA

Tel: 03-5978-5546, Email: info-cwed@cc.ocha.ac.jp



◆概要

JICA(国際協力機構)駒ヶ根青年海外協力隊訓練所にご協力いただき、途上国でのボランティア経験者、派遣前の訓練生との交流等を通し、国際協力ボランティアの役割や、草の根の国際協力の在りかたを考える大学間連携イベントを実施します。ご関心のある方はぜひご参加ください。

◆日時

2021年12月11日(土) 13:00~15:00

◆形式

オンライン(Zoomによるリアルタイム配信)

◆内容

- ・JICA海外協力隊事業・訓練所に関する講義
- ・JICAボランティア体験談
- ・協力隊参加者もしくは派遣前訓練生との座談会

◆対象

- ・お茶の水女子大学の学生
- ・奈良女子大学の学生

◆申込締切

2021年11月30日(火) 16:00

◆問合せ

お茶の水女子大学
グローバル協力センター
Tel: 03-5978-5546
E-mail: info-cwed@cc.ocha.ac.jp

参加申込はコチラ

<https://bit.ly/3q4pq3f>
【要事前申込・参加費無料】



グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成
—女性の役割を見据えた知の国際連携—
令和 3（2021）年度 実施報告書

2022 年 3 月

発行：お茶の水女子大学グローバル協力センター

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

Tel&Fax：03-5978-5546

E-mail：info-cwed@cc.ocha.ac.jp
